

授業評価報告書

—よりよい授業への改善を目指して—

2008

四條畷学園短期大学
Shijonawate Gakuen Junior College



序

2005年から四條畷学園短期大学では「自己点検・自己評価」の一環として、「学生による授業評価・教員自身による自己評価」を施行し、「授業評価報告書 ーよりよい授業への改善を目指してー」として報告書を作成し、毎年公表してきた。

これまでの調査結果からは、(1) 専攻学科により学年別授業評価に差異がみられること、(2) 授業の学生評価と教員の自己評価には違いがあること、(3) 専攻学科により授業形態、授業環境への満足度が違うこと、(4) 学生の学習意欲の差異によって満足度に違いがあること、(4) 教員が、授業評価に対して前向きな改善努力をしていることなどが明らかになった。

専任教員および非常勤講師のほぼすべての授業科目を評価することができ、教員の授業に対する意識改革が定着し、授業は学生のためのものであるという視点が確立してきている。授業評価項目としては、点数化の評価だけでなく学生の自由記述も求めており、その結果に対する意見を教員は記載し、今後の改善策を提案している。

教員は授業に対して不断の自己点検・評価を行い、改善に対して継続的に努力することは極めて大切である。このためにも、授業評価について組織的に改善するシステムを確立することが出来てきた。

今後とも「自己点検・自己評価」を組織的に取り組む体制は重要であるが、惰性的な評価にならないよう、評価項目や評価科目の再検討を行い、授業評価が適切に行われ、学生、教員双方ともに真に有益な教育体制を築くため、継続的、向上的な取り組みを行うことが必要である。

平成21年10月

四條畷学園短期大学学長

河井秀夫

もくじ

1	はじめに	
	授業評価の目的	2
2	調査の方法	
	調査の対象	3
	調査の実施方法	3
	学生による授業評価	3
	教員による自己評価	3
	教員による自己点検報告書	3
3	調査の結果	
	実施授業数と延べ人数	4
	授業への出席状況	4
	学生による授業評価と教員による自己評価の比較	5
	A 教員の授業への取り組み姿勢	6
	B 授業内容について	6
	C 学生の授業への反応・意識について	6
	D 設備	7
	E 実技・実習	7
	2005年度から2008年度にかけての年次的推移の比較	7
	受講者数と授業評価との関係	9
	授業形態と授業評価との関係	10
	1年生と2年生の比較	10
4	教員による自己点検報告書の結果	13
5	全体的な考察と今後の問題	14
6	要約	15

付表

- 1 教員による自己点検報告書（保育学科）
- 2 教員による自己点検報告書（ライフデザイン総合学科）
- 3 教員による自己点検報告書（介護福祉学科）

別紙

- 1 「学生による授業アンケート調査」実施要領
- 2 授業についてのアンケート調査票
- 3 自由記述用紙
- 4 教員による授業の自己点検評価票
- 5 教員による自己点検報告書（ご意見）－学生の授業評価より－

1 はじめに

授業評価の目的

本学では2005年度から2007年度に全学的に「学生による授業アンケート調査」を実施し、その結果をまとめた「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—」を作成し、学内外に公表してきた。今年度は過去3年間にわたる授業評価の結果から示唆された問題点をふまえながら、基本的にはこれまでと同じ目的、実施方法に基づいて「学生による授業アンケート調査」を実施した。

本調査の目的の第一は、まずは2008年度に在籍する学生の授業評価の結果を得て、2005年度から2008年度にかけての年次的な授業評価の変化を捉え、各年度の相違点の有無を明らかにすることにある。既刊報告書^{1) 2) 3)}では、2005年度と2006年度の調査項目の全体平均値が、保育学科では2005年度から2006年度にかけて上昇したが、2007年度は2005年度程度にまで下降した。一方、ライフデザイン総合学科で2005年度から2006年度にかけて下降したが、2007年度は2005年度程度にまで上昇した。したがって、本学の授業評価は年度によって変動することが明らかにされた。この傾向が継続しているかどうか、今回の2008年度の調査結果との比較を試みる必要がある。

目的の第二は学生による授業評価と授業担当者（以下、教員）による自己評価との関係を見ることである。2005年度から2007年度では、20問の調査項目を『教員の授業への取り組み姿勢』、『授業内容について』、『学生の授業への反応・意識』、『設備』、『実技・実習』の5つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーごとに学生の授業評価と教員の自己評価との関連性の有無について検討した。その結果、2005年度から2007年度においては、総じて『教員の授業への取り組み姿勢』についての教員自身の評価は高いが、学生の方はそれほど高く評価していないという、教員の意識と学生の意識との間に明らかにズレのあることが認められた。一方『学生の授業への反応・意識』については、学生自身の評価は高いが、教員の方は学生が感じているほどの高い評価をしていないという、学生と教員間の意識にズレのあることがこの項目についても認められた。このような学生の授業評価と教員の自己評価間に差異が見られたカテゴリーを中心に、本年度も、同様の傾向がみられるのかどうかについて検討を行うことにした。

目的の第三は一つの授業当たりの受講者数が授業評価に及ぼす影響、および講義・演習形態と実技・実習形態という授業形態が授業評価に及ぼす影響をみることである。2007年度の調査では、保育学科の場合には受講者数や授業形態による影響が増加した。ライフデザイン総合学科では、受講者数や授業形態による影響が顕著であり、少人数授業、および実技・実習形態の授業の方が高く評価される傾向が認められた。こうした各学科でみられた特徴が、それぞれの学科特有のものであるかどうかを確認することを目的として、本年度においても同様の分析を行うことにした。

目的の第四として、2007年度に引き続き1年生と2年生の授業評価の比較をおこなった。2007年度の調査では、保育学科は2年生で授業評価が高くなる項目が複数見られたが、ライフデザイン総合学科では2年生における授業評価の向上はほとんど見られなかった。こうした学科間の違いがそれぞれの学科特有のものであるかどうかを検討するため、本年度も1年生と2年生の授業評価の比較を試みた。また、介護福祉学科に関しても今年度が初回となる同様の分析を行った。

目的の第五は、教員から提出された自己点検報告書の分析である。従来同様、教員に対しては、次年度の授業構築にあたっての参考指標として頂くことを目的として、担当科目に対する学生の授業評価結果を個別に示し、その結果に対する教員自身によるコメントの記載を依頼している。また2006年度より、授業評価にあらわれた学生の心情をより深く理解することを目的として、学生に「自由記述」提出の機会を与えているが、この自由記述についても教員からのコメントを求めている。これら教員から提出されたコメントの中、「今後の授業改善策」の項に示された内容を、「改善点を具体的に明記」、「改善への意識が感じられる」、「結果への感想」、「学校への要望等」、「アンケートへの要望」、「無回答」の6つに分類し、教員の授業姿勢について、2006年度、2007年度における結果との比較を試みた。

なお、教員から寄せられたコメントの具体的な内容は、付表1、2、3に示したとおりである。

2 調査の方法

調査の対象

授業評価アンケートを行った学生は保育学科 184 名（1 年 100 名、2 年以上 84 名）とライフデザイン総合学科 194 名（1 年 96 名、2 年以上 98 名）、介護福祉学科 52 名（1 年 27 名、2 年以上 25 名）の合計 430 名であった。

教員による自己評価及び自己点検報告書を提出にご協力いただいた教員の人数は保育学科 62 名、ライフデザイン総合学科 69 名、介護福祉学科 25 名の計 156 名であった。

調査の実施方法

調査は、(1) 学生による 2 種類の授業評価（5 段階評定尺度によるアンケートおよび自由記述）、(2) 教員による自己評価（5 段階評定尺度によるアンケート）、(3) 教員による自己点検報告書の 3 種類から成り立っている。

学生による授業評価

学生による授業評価は昨年度と同様の「授業についてのアンケート調査」と「自由記述調査」によった。アンケートは授業への出席状況についての 1 項目と授業評価に関する 20 項目の計 21 項目より構成されている。授業評価項目の内訳は「授業の実施や教授態度」に関する 6 項目、「授業内容」に関する 5 項目、「学生の授業への意識」に関する 4 項目、「授業環境」に関する 1 項目、さらに実技・実習授業については「実習授業のあり方」についての 5 項目の計 20 項目とした。調査に用いた「授業についてのアンケート調査票」は別紙 2 に示した通りで、回答はマークシートによった。

また「自由記述調査」は別紙 3 を用いておこない、授業についての感想を自由に書かせた。なおアンケートと自由記述はいずれも無記名方式とした。

学生による授業アンケート調査は前期、後期の最終授業日から 1 ヶ月前までの期間に、教員（授業担当者）により授業中に実施された。実施の手続きは別紙 1 の文書にて予め教員に伝え、統一的なアンケート調査の実施を図った。学生によるアンケート調査票の回収にあたっては学生の代表が袋詰め・密封までを行い、教員が調査票を直接回収することを避けた。自由記述用紙は教員が回収し、回収後は担当教員以外の者の目に触れることがないように教員自身に保管を任せた。アンケート実施に要した時間は約 15 分であった。

教員による自己評価

学生が授業評価アンケートと自由記述を実施している間、教員に対しても自己評価アンケート調査を依頼した。教員に対する質問項目は別紙 4 の通り、学生用の別紙 2 と同じ内容のものを教員に対する質問として適切な表現に変えた。教員によるアンケート調査票は学生によるアンケート調査票とは別の封筒に入れ、事務局に提出していただいた。

教員による自己点検報告書

学生による授業評価の集計結果に加えて、その結果と教員による自己評価、および学内平均値との関連性をグラフ化したデータを、それぞれの担当教員に個別にフィードバックした。その際「教員による自己点検報告書」を同封し、報告書へのコメントの記載を依頼した。

なおこの自己点検報告書は次の 4 項目から構成されている。

1. 学生による授業評価の集計結果についてどのように感じたのか
2. 教員による自己点検評価と学生による授業評価との関係についての分析と問題点の把握
3. 学生の自由記述についてのご意見
4. 2、3 より、今後の授業の改善策について

3 調査の結果

(1) 実施授業数と延べ人数

授業評価を実施した授業数（コード数）は、保育学科が 94、ライフデザイン総合学科が 167、介護福祉学科が 51 の計 312 であった。

授業評価した学生の延べ人数は、保育学科が 4,768 名、ライフデザイン総合学科が 3,378 名、介護福祉学科が 1,093 名の計 9,239 名であった。教員による自己評価にご協力いただいた、教員の延べ人数は保育学科 216 名、ライフデザイン総合学科 172 名、介護福祉学科 63 名の計 451 名であり、回収率は 100% であった。

(2) 授業への出席状況

授業への出席状況について、全回出席、2/3 以上出席、1/2 以上出席、1/2 未満出席に分けて示したのが図 1 である。全学科では、毎回と 2/3 以上出席をあわせると約 99.7% を超えており、授業への出席率は非常に高いといえる。学科別に見ると、介護福祉学科、保育学科、ライフデザイン総合学科の順に出席率が高いことがわかる。介護福祉学科と保育学科では資格取得に際して 2/3 以上の出席が義務づけられているので、当然の結果であろうと思われる。しかし、そのような厳格な取り決めのないライフデザイン総合学科においても高い出席率であった。

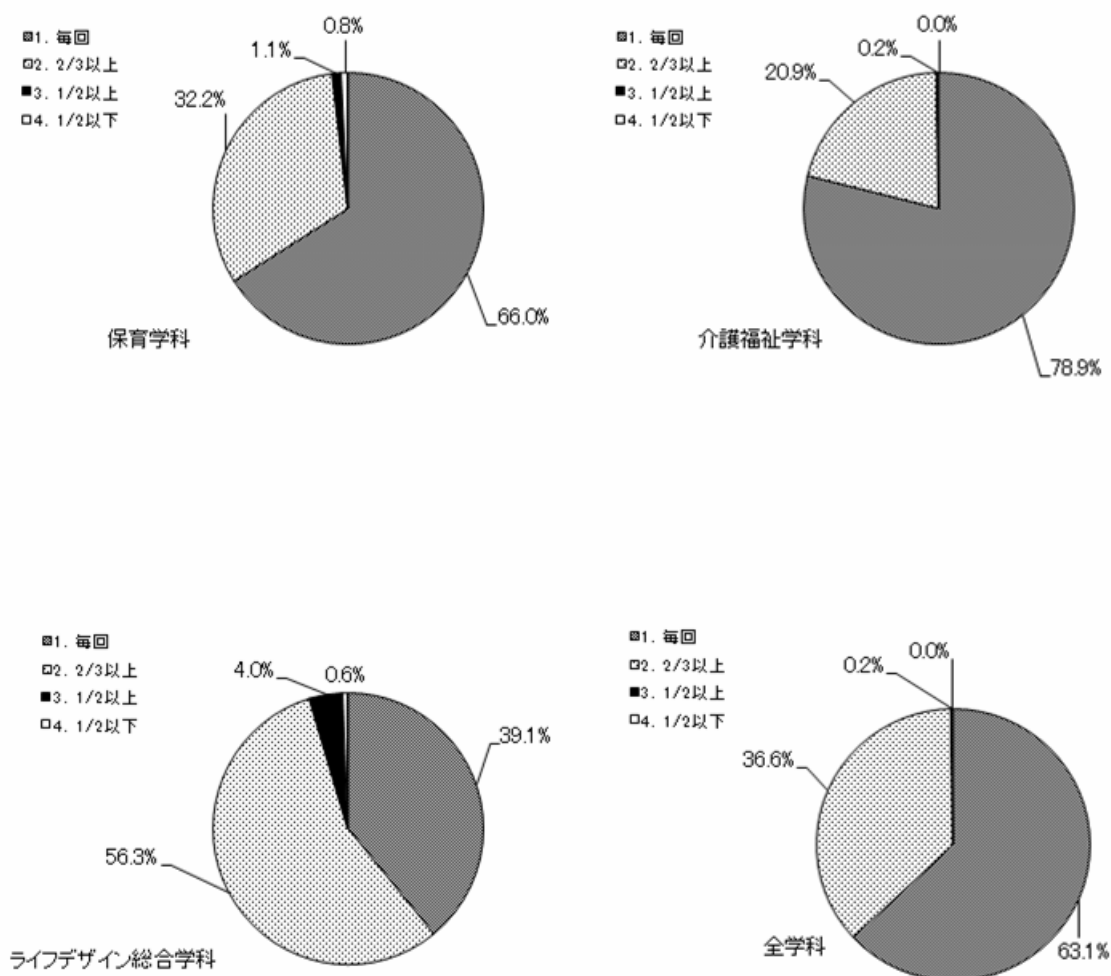


図 1. 出席状況

(3) 学生による授業評価と教員による自己評価の比較

本項では、出席状況に関する項目を除いた 20 項目を昨年度と同様に、A『教員の授業への取り組み姿勢』、B『授業内容について』、C『学生の授業への反応・意識について』、D『設備』、E『実技・実習』の5つのカテゴリーに分類してそれぞれの結果の分析を行った。

結果の分析にあたり、授業科目ごとに学生による授業評価得点（以下、学生授業評価）と教員による自己評価得点（以下、教員自己評価）を算出、これらの得点をもとに、学科別に学生による授業評価の得点の平均値と教員による自己評価の平均値を求めた。

表 1. 学生による授業評価と教員の自己評価

項目番号	項目	評価者	保育			ライフ			介護		
			平均	標準偏差	有意差	平均	標準偏差	有意差	平均	標準偏差	有意差
A	問1 教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	学生	4.03 (0.36)			4.28 (0.47)			3.96 (0.40)		
		教員	4.42 (0.56)	**		4.40 (0.67)	*		4.51 (0.53)	**	
	問2 教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	学生	3.95 (0.38)			4.20 (0.49)			3.82 (0.43)		
		教員	4.20 (0.61)	**		4.24 (0.66)			4.30 (0.66)	**	
	問8 板書はわかりやすかった。	学生	3.79 (0.44)			4.06 (0.52)			3.58 (0.44)		
		教員	3.46 (0.67)	**		3.80 (0.72)	**		3.40 (0.84)		
問9 授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	学生	4.00 (0.39)			4.26 (0.46)			3.81 (0.42)			
	教員	4.52 (0.67)	**		4.38 (0.68)	*		4.59 (0.47)	**		
問10 教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	学生	3.98 (0.40)			4.24 (0.48)			3.79 (0.43)			
	教員	4.19 (0.70)	**		4.21 (0.65)			4.28 (0.66)	**		
問11 教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	学生	3.91 (0.37)			4.17 (0.44)			3.67 (0.37)			
教員	4.08 (0.70)	*			4.04 (0.74)			3.79 (0.86)			
B	問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	学生	3.89 (0.33)			4.22 (0.42)			3.70 (0.37)		
		教員	3.84 (0.73)			3.90 (0.89)	**		3.78 (1.02)		
	問4 授業には十分な準備と工夫がなされていた。	学生	3.93 (0.37)			4.20 (0.47)			3.80 (0.38)		
		教員	4.14 (0.67)	**		4.12 (0.68)			4.27 (0.56)	**	
	問5 授業の難易度のレベルは適切であった。	学生	3.83 (0.39)			4.07 (0.49)			3.66 (0.37)		
		教員	3.75 (0.71)			3.76 (0.75)	**		3.58 (0.62)		
問6 授業の進行速度は適切であった。	学生	3.86 (0.39)			4.13 (0.47)			3.70 (0.38)			
	教員	3.80 (0.77)			3.89 (0.71)	**		3.72 (0.68)			
問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	学生	3.92 (0.37)			4.19 (0.45)			3.83 (0.34)			
教員	3.83 (0.69)			4.00 (0.62)	*		3.98 (0.61)				
C	問12 授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	学生	3.90 (0.40)			4.11 (0.50)			3.67 (0.42)		
		教員	3.85 (0.73)			3.64 (0.74)	**		3.76 (0.57)		
	問13 授業の内容を良く理解することができた。	学生	3.84 (0.40)			4.07 (0.49)			3.65 (0.40)		
		教員	3.63 (0.69)	*		3.55 (0.68)	**		3.65 (0.58)		
	問14 授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	学生	3.87 (0.41)			4.07 (0.48)			3.65 (0.46)		
教員		3.74 (0.76)			3.75 (0.68)	**		3.85 (0.54)	*		
問16 総合的にみてこの授業を受けて満足している。	学生	3.94 (0.41)			4.21 (0.48)			3.81 (0.45)			
教員	3.72 (0.69)	*		3.73 (0.71)	**		3.74 (0.52)				
D	問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	学生	3.95 (0.38)			4.21 (0.40)			3.84 (0.39)		
		教員	3.97 (0.88)			3.92 (0.80)	**		4.26 (0.74)	**	
E	問17 教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	学生	3.90 (0.42)			4.55 (0.34)			3.92 (0.37)		
		教員	4.15 (0.72)	*		4.03 (0.98)	**		3.88 (0.60)		
	問18 この授業で課せられる課題の量は適切であった。	学生	3.75 (0.43)			4.48 (0.38)			3.82 (0.30)		
		教員	3.94 (0.83)			3.78 (0.93)	**		3.65 (0.61)		
	問19 与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	学生	3.71 (0.46)			4.45 (0.36)			3.81 (0.30)		
		教員	3.91 (0.96)			3.61 (1.20)	**		3.59 (0.62)		
問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	学生	3.95 (0.41)			4.58 (0.30)			4.06 (0.28)			
	教員	4.39 (0.79)	**		4.03 (0.86)	**		3.94 (0.43)			
平均		学生	3.91 (0.37)			4.17 (0.44)			3.75 (0.38)		
		教員	3.95 (0.49)			3.96 (0.47)	**		3.95 (0.36)	*	

* p<.05, ** p<.01

A 『教員の授業への取り組み姿勢』

表1のAの『教員への取り組み姿勢』に該当する項目は、「教員の声の大きさや速度」(問1)、「説明の丁寧さ」(問2)、「板書の仕方」(問8)、「授業への熱意」(問9)、「学生への適切な応答」(問10)、「授業環境への配慮」(問11)の6項目である。

学生授業評価と教員自己評価の相違点について、結果を見てみると、保育学科では、「板書の仕方」(問8)を除いてすべての項目において教員自己評価が学生授業評価を有意に上回っていた。ライフデザイン総合学科では、教員自己評価が学生授業評価よりも上回っていた項目は「教員の声の大きさ速度」(問1)、「授業への熱意」(問9)の2項目であり、逆に下回っていたのは「板書の仕方」(問8)の項目であった。介護福祉学科では、「教員の声の大きさ速度」(問1)、「説明の丁寧さ」(問2)、「授業への熱意」(問9)、「学生への適切な応答」(問10)の4項目で教員自己評価が学生授業評価よりも上回る結果となっている。また、有意差はないものの「板書の仕方」(問8)については他の2学科同様介護福祉学科でも教員自己評価が学生授業評価よりも低い得点となっていた。

教員自己評価の高さは教員が高い意識をもって授業に取り組んでいることを示すともいえるが、その中で「板書の仕方」のみが学生授業評価よりも教員自己評価が全学科で下回る傾向にあることはどのように考えるべきであろうか。これは「板書の仕方」が熱意や配慮といった「取り組み姿勢」の問題というよりも、講義形態や講義内容も含めた構造的・技術的な問題が多分に影響を与えている可能性を示すものと考えられないだろうか。すなわち、板書がない授業(音楽・情報・実習等)では自身の板書を評価できないため中点の3に回答が偏るおそれや、書字や画面構成などは個人の技術力によるところが大きく、教員自身が改善方法を見出しにくいといった、他の項目とは異なる性質を有している可能性を考慮すべきかもしれないということである。

B 『授業内容について』

表1のBの『授業内容』については、「シラバス通りの内容」(問3)、「授業への準備と工夫」(問4)、「授業の難易度」(問5)、「授業の進行速度」(問6)、「教材の使い方」(問7)の5つの項目がこれに該当する。表1のBは『授業内容』についての学生授業評価と教員自己評価の結果を示したものである。

学生授業評価と教員自己評価の相違点について、Bの結果から有意差があった項目を見てみると、保育学科と介護福祉学科では「授業への準備と工夫」(問4)で教員自己評価が学生授業評価よりも上回り、ライフデザイン総合学科では「授業への準備と工夫」(問4)を除きすべての項目において教員自己評価が学生授業評価よりも下回っていた。

つまり、保育学科と介護福祉学科の教員は、授業の準備を充分に行い工夫もしていると自己評価しているが、それが授業の中で生かされていない、少なくとも学生に評価されるほどには至っていないという結果であった。このことは既述した、『教員の取り組み姿勢』に対する学生授業評価と教員自己評価のギャップに相似している。また、ライフデザイン総合学科の学生授業評価が教員の自己評価を上回る項目の多さは、さらに後述するC『学生の授業への反応・意識』、D『設備』、E『実技・実習』のカテゴリーでさらに際立っており(全項目で有意に上回る)、他2学科と異なる特徴をあらわしている。

C 『学生の授業への反応・意識について』

表1のCの『学生の授業への反応・意識』に該当する項目は、「授業への興味」(問12)、「授業内容の理解」(問13)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)、「総合的な満足度」(問16)の4項目とした。

Cの結果から学生授業評価と教員自己評価を比較すると、保育学科は「授業内容の理解」(問13)、「総合的な満足度」(問16)の2項目で、ライフデザイン総合学科は全項目で、学生授業評価が教員自己評価よりも有意に上回っていた。そして、介護福祉学科で有意差があったのは、「もっと深く勉強したくなった」(問14)の1項目のみで、しかも学生授業評価が教員自己評価よりも下回るという結果であった。

つまり、このカテゴリーでも学科による特徴的な相違が見られ、その要因については各学科のもつ特性を踏まえた議論が必要かもしれないことを示唆している。

D 『設備』

表1のDの『設備』についての項目は「教室の大きさや設備」(問15)の1問だけであった。Dの結果から、教員自己評価と学生授業評価を比較すると、ライフデザイン総合学科では学生授業評価の方が高く、介護福祉学科は教員自己評価の方が高いという結果だった。保育学科では有意差はなかった。介護福祉学科では実技実習のための最新設備も十分に備えられているが、学生は教員ほどには評価していないといえる。

E 『実技・実習』

表1のEの『実技・実習』に該当する項目は、「技能・技術の指導の適切さ」(問17)、「課題の量」(問18)、「課題に取り組む時間」(問19)、「実技向上」(問20)の4項目であり、評価の結果はEに示すとおりであった。なお今回の調査において、実技や実習を伴う授業数は保育学科では41、ライフデザイン総合学科では33、介護福祉学科では17であった。

教員自己評価と学生授業評価の比較で有意差が見られた項目は、保育学科で「技能・技術の指導の適切さ」(問17)、「実技向上」(問20)の2項目で教員自己評価よりも学生授業評価が下回っており、ライフデザイン総合学科では全項目において教員自己評価より学生授業評価が上回っていた。介護福祉学科では有意差はなかった。

保育学科の結果から、学生は実習に関する指導や授業の内容を、教員が思っているほど実技の向上に役立ったとは考えていないことが分かる。このことは学生が幼稚園や保育所・施設といった現場を経験し自分の力不足を感じたためもあるかもしれないが、授業改善を検討するのであれば、学生つまりは現場が求める実習指導および実技指導の内容と教員が教授する内容の間にも、ズレは生じていないかどうかを考慮すべきであろう。

また、ライフデザイン総合学科の学生授業評価はすべての項目において4.50前後の高得点を示しており、実技・実習の授業は学生に非常に高い満足を与える内容のものであったことがうかがえるが、さらなる授業充実を図るためには教員自己評価との差をどのように考えるべきか、課題も残るのではないだろうか。

(4) 2005年度から2008年度にかけての年次的推移の比較

保育学科とライフデザイン総合学科では、2005年度から2007年度にかけてはほぼ同じ方法による授業評価を行ってきた。今回の2008年度の調査は4回目であるが、この結果をこれまでと同様の方法で分析し、2005年度から2008年度にかけての授業評価の推移を確認することを試みた。

表2は2005年度から2008年度にかけての学生授業評価のそれぞれの得点を学科別に示したものである。全項目についての平均値の年次的推移を求めると保育学科は2005年度、2006年度、2007年度、2008年度でそれぞれ3.94、4.09、3.93、3.91であった。ライフデザイン総合学科は同様に4.11、3.93、4.04、4.17であった。介護福祉学科は2007年度、2008年度でそれぞれ3.81、3.75であった。各学科の各項目について、年度を要因とする1要因分散分析を行った。さらに学年の主効果が有意であった項目については、多重比較(Bonferroni法)を行った。

結果から、保育学科では2006年度が2005年度、2007年度、2008年度より有意に授業評価が高いことが示された。ライフデザイン総合学科では2006年度が2005年度、2007年度、2008年度より有意に授業評価が低いことが示された。介護福祉学科では2007年度と2008年度に差がないことが明らかになった。

このような一定の傾向を見出せない学生授業評価の年次的変化については、授業評価する学生集団が同一でないことによる影響があるものと思われるが、組織的な授業改善に向けての取り組みを継続、発展させていくためには授業評価を受けた教員の改善努力の成果が次年度に数値として明確に表れるような調査方法を考える必要があるだろう。

参考までに述べると、教員自己評価において学科(保育学科、ライフデザイン総合学科、介護福祉学科)と年度(2005年度、2006年度、2007年度、2008年度)を要因とする二要因分散分析を行ったところ、主効果と交互作用がともに有意でなかった。したがって、3学科共に年次的推移は見られず、学生授業評価と同様に教員自己評価も変動が少ないことが確認された。また学科間の教員自己評価の差もないことが明らかになった。

表 2. 学生授業評価の年度比較

項目 番号	項目	年度	保育		ライフ		介護	
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
A	問1 教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	2005	4.13	(0.45)	4.24	(0.58)	4.05	(0.32)
		2006	4.23	(0.40)	4.03	(0.55)		
		2007	4.09	(0.51)	4.14	(0.51)		
		2008	4.03	(0.36)	4.28	(0.47)		
	問2 教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	2005	3.99	(0.50)	4.14	(0.62)	3.82	(0.41)
		2006	4.13	(0.45)	3.96	(0.57)		
		2007	3.98	(0.56)	4.08	(0.53)		
		2008	3.95	(0.38)	4.20	(0.49)		
	問8 板書はわかりやすかった。	2005	3.72	(0.53)	3.98	(0.65)	3.63	(0.41)
		2006	3.92	(0.45)	3.77	(0.64)		
		2007	3.75	(0.56)	3.94	(0.57)		
2008		3.79	(0.44)	4.06	(0.52)			
問9 授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	2005	4.11	(0.38)	4.19	(0.55)	3.93	(0.29)	
	2006	4.22	(0.37)	4.01	(0.49)			
	2007	4.06	(0.49)	4.12	(0.50)			
	2008	4.00	(0.39)	4.26	(0.46)			
問10 教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	2005	4.04	(0.45)	4.18	(0.59)	3.86	(0.32)	
	2006	4.16	(0.45)	4.03	(0.52)			
	2007	4.02	(0.52)	4.11	(0.50)			
	2008	3.98	(0.40)	4.23	(0.48)			
問11 教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	2005	3.95	(0.47)	4.13	(0.55)	3.77	(0.34)	
	2006	4.13	(0.38)	3.95	(0.52)			
	2007	3.97	(0.44)	4.05	(0.49)			
	2008	3.91	(0.37)	4.17	(0.44)			
B	問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	2005	3.97	(0.39)	4.11	(0.50)	3.80	(0.28)
		2006	4.11	(0.32)	3.99	(0.45)		
		2007	3.97	(0.43)	4.10	(0.45)		
		2008	3.89	(0.33)	4.22	(0.42)		
	問4 授業には十分な準備と工夫がなされていた。	2005	3.98	(0.42)	4.12	(0.56)	3.83	(0.33)
		2006	4.10	(0.36)	3.95	(0.51)		
		2007	3.96	(0.46)	4.08	(0.47)		
		2008	3.93	(0.37)	4.20	(0.47)		
	問5 授業の難易度のレベルは適切であった。	2005	3.80	(0.43)	4.03	(0.56)	3.68	(0.30)
		2006	3.97	(0.44)	3.85	(0.53)		
		2007	3.80	(0.55)	3.94	(0.52)		
2008		3.83	(0.39)	4.07	(0.49)			
問6 授業の進行速度は適切であった。	2005	3.83	(0.47)	4.09	(0.58)	3.76	(0.31)	
	2006	3.99	(0.43)	3.88	(0.54)			
	2007	3.82	(0.57)	4.01	(0.50)			
	2008	3.86	(0.39)	4.02	(0.53)			
問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	2005	3.96	(0.41)	4.14	(0.53)	3.90	(0.25)	
	2006	4.07	(0.37)	3.95	(0.51)			
	2007	3.92	(0.49)	4.08	(0.47)			
	2008	3.91	(0.37)	4.19	(0.45)			
C	問12 授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	2005	3.92	(0.44)	4.04	(0.65)	3.71	(0.34)
		2006	4.09	(0.42)	3.88	(0.54)		
		2007	3.93	(0.49)	3.95	(0.55)		
		2008	3.90	(0.40)	4.11	(0.50)		
	問13 授業の内容を良く理解することができた。	2005	3.86	(0.46)	4.02	(0.65)	3.63	(0.34)
		2006	4.02	(0.46)	3.81	(0.58)		
		2007	3.88	(0.53)	3.89	(0.58)		
		2008	3.84	(0.40)	4.06	(0.49)		
	問14 授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	2005	3.84	(0.42)	3.98	(0.65)	3.72	(0.30)
		2006	4.06	(0.43)	3.81	(0.57)		
		2007	3.89	(0.51)	3.90	(0.56)		
2008		3.87	(0.41)	4.07	(0.48)			
問16 総合的にみてこの授業を受けて満足している。	2005	3.99	(0.42)	4.14	(0.62)	3.82	(0.34)	
	2006	4.15	(0.41)	3.96	(0.54)			
	2007	3.97	(0.54)	4.07	(0.53)			
	2008	3.94	(0.41)	4.20	(0.48)			
D	問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	2005	4.03	(0.39)	4.19	(0.50)	4.02	(0.22)
		2006	4.15	(0.37)	3.96	(0.49)		
		2007	4.01	(0.42)	4.08	(0.45)		
		2008	3.95	(0.38)	4.21	(0.41)		
E	問17 教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	2005	4.03	(0.41)	4.49	(0.44)	3.92	(0.36)
		2006	4.16	(0.47)	4.39	(0.56)		
		2007	4.01	(0.61)	4.58	(0.38)		
		2008	3.91	(0.43)	4.55	(0.34)		
	問18 この授業で課せられる課題の量は適切であった。	2005	3.69	(0.51)	4.41	(0.49)	3.80	(0.28)
		2006	3.88	(0.49)	4.28	(0.57)		
		2007	3.74	(0.79)	4.48	(0.46)		
		2008	3.77	(0.44)	4.48	(0.38)		
	問19 与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	2005	3.56	(0.58)	4.37	(0.48)	3.77	(0.24)
		2006	3.77	(0.54)	4.25	(0.60)		
		2007	3.67	(0.78)	4.45	(0.48)		
2008		3.73	(0.48)	4.45	(0.36)			
問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	2005	4.09	(0.40)	4.58	(0.38)	4.03	(0.30)	
	2006	4.21	(0.42)	4.47	(0.46)			
	2007	4.09	(0.59)	4.63	(0.35)			
	2008	3.96	(0.41)	4.58	(0.30)			
平均		2005	3.94	(0.40)	4.11	(0.56)	3.81	(0.28)
2006	4.09	(0.37)	3.93	(0.50)				
2007	3.93	(0.49)	4.04	(0.49)				
2008	3.91	(0.37)	4.17	(0.44)				

* p<.05, ** p<.01,

(5) 受講者数と学生授業評価の関係

ここでは学生授業評価と受講者数との関係を見るために、各項目について保育学科とライフデザイン総合学科ごとに受講者数と学生授業評価得点間の相関係数を表3に示した。なお介護福祉学科は、ほとんどが必修科目であり、受講者数にばらつきがないため分析から除外した。

受講者数による学生授業評価の違いを学科別に検討した。保育学科においては、すべての項目において受講者数と評価得点間に有意な相関は見られなかった。2007年度調査では、受講者数が少ないほど学生授業評価が高くなるという負の相関性が認められたが、今回の2008年度の調査結果は、この傾向が必ずしも継続的なものではないことを示すものであった。ライフデザイン総合学科では、E『実技・実習』のカテゴリーを除くすべての項目で有意な負の相関、すなわち受講者数が多い授業では評価が低いという関係が認められた。ライフデザイン総合学科においてこの傾向は2006年度から引き続き見られており、ライフデザイン総合学科では受講者数が学生授業評価に関係する大きな要因であることが今回も明らかになった。

表3. 受講者数と学生の授業評価の相関関係

項目番号	項目	保育		ライフ	
		相関係数(r)	有意性	相関係数(r)	有意性
A	問1	0.05		-0.29	**
	問2	0.00		-0.31	**
	問8	-0.19		-0.30	**
	問9	-0.02		-0.35	**
	問10	-0.09		-0.36	**
	問11	-0.05		-0.35	**
B	問3	0.01		-0.34	**
	問4	-0.05		-0.34	**
	問5	-0.14		-0.29	**
	問6	-0.06		-0.34	**
	問7	-0.02		-0.32	**
C	問12	-0.08		-0.37	**
	問13	-0.13		-0.33	**
	問14	-0.14		-0.38	**
	問16	-0.03		-0.39	**
D	問15	-0.01		-0.30	**
E	問17	0.04		-0.08	
	問18	-0.11		-0.08	
	問19	-0.17		-0.01	
	問20	0.05		-0.07	
平均		-0.07		-0.36	**

* p<.05, ** p<.01

(6) 授業形態との関係

授業形態には講義・演習形式と実技・実習形式の2種類があるが、この授業形態の違いが学生授業評価と関係があるかについて検討した。ここでいう授業形態は、教育課程表に定められた講義、演習、実習の分け方とは異なっている。たとえば、教育課程表では講義・演習に分類されている科目であっても、実際の授業形態が実技・実習形態であれば、実技・実習と分類した。授業形態の分類の規準は、アンケートにおいて、問17から問20に回答した場合を实技・実習科目とし、16問までの回答の場合を講義・演習科目とした。その結果、保育学科では講義・演習科目が53授業、実技・実習科目が41授業、ライフデザイン総合学科では講義・演習科目が134授業、実技・実習科目が33授業、介護福祉学科では講義・演習科目が34授業、実技・実習科目が17授業であった。

学生授業評価を授業形態別に算出した結果は表4に示す通りであった。講義形態と実技・実習形態の学生授業評価を t 検定(両側)で比較した。表4の結果から、保育学科では形態の違いによる学生授業評価の有意差はすべての項目において見られなかった。逆に、ライフデザイン総合学科ではすべての項目において有意差が見られ、講義形態よりも実技・実習形態の学生授業評価の方が高かった。介護福祉学科では、「板書の仕方」(問8)、「もっと深く勉強したくなった」(問14)の2項目でライフデザイン総合学科と同様の結果が見られた。ライフデザイン総合学科では、既述したとおり実技・実習形態の評価が特に高かったために、講義・演習科目の授業評価との差が顕著にあらわれたものと考えられる。

(7) 1年生と2年生の比較

入学してしばらくの1年生と、すでに1年以上の学習を終えた2年生とでは、モチベーションにおいても授業への理解力においても何らかの差があることが予想され、2007年度の調査でその差が明らかになった³⁾。有意差が見られた項目は保育学科とライフデザイン総合学科で異なり、それぞれの学科の特性について考察したが、その傾向は一定なものなのかどうか、今年度も引き続き1年生と2年生の学生授業評価の違いについても検討をすることとした。なお、介護福祉学科に関しては今回初めての検討となるため、2007年度との比較はできていない。

授業評価得点のローデータをもとに、3学科および学年ごとの授業評価得点の平均値を算出した結果を表5に示した。ローデータは、保育学科1年生の延べ2,285名、2年生と留年生と科目等履修生(以下、2年生以上)の延べ1,342名、ライフデザイン総合学科の1年生の延べ1,891名、2年生と留年生と科目等履修生(以下、2年生以上)の延べ1,122名、介護福祉学科の1年生の延べ652名、2年生の延べ354名から使用した。なお学年の記載がなかった延べ1,593名のデータは、この分析から除外した。

各学科で1年生と2年生以上の学生授業評価を t 検定(両側)で比較した。保育学科では「板書の仕方」(問8)、「授業の難易度」(問5)、「課題の量」(問18)の3項目を除くすべての項目で、1年生よりも2年生以上の学生授業評価が有意に低かった。ライフデザイン総合学科では、「技能・技術の指導の適切さ」(問17)を除くすべての項目で、1年生よりも2年生以上の学生授業評価が有意に高かった。介護福祉学科では、E『実技・実習』カテゴリーを除くすべての項目でライフデザイン総合学科と同様の結果であった。

保育学科とライフデザイン総合学科の結果は、2007年度調査と逆の傾向を示しており、学科の特性による一定の傾向は見出せなかった。学生集団の違いによる要因が、学科の特性による要因よりも大きな影響を結果に与えたということなのかどうか、現時点では判断できない。調査方法の工夫が求められるところである。

表4. 授業形態別の学生の授業評価

項目 番号	項目		保育学科			ライフデザイン総合学科			介護福祉学科		
			平均値	標準偏差	有意差	平均値	標準偏差	有意差	平均値	標準偏差	有意差
A	問1	教員は大きな声で聞き取り易い速さで話してくれた。	講義	4.07	(0.36)	4.20	(0.46)	**	3.90	(0.40)	
			実技・実習	3.97	(0.37)	4.58	(0.38)	**	4.06	(0.39)	
	問2	教員は授業内容が良く理解できるように丁寧に説明してくれた。	講義	3.97	(0.40)	4.12	(0.48)	**	3.77	(0.44)	
			実技・実習	3.91	(0.37)	4.54	(0.40)	**	3.91	(0.42)	
	問8	板書はわかりやすかった。	講義	3.81	(0.48)	3.98	(0.51)	**	3.48	(0.42)	*
			実技・実習	3.77	(0.38)	4.36	(0.46)	**	3.78	(0.42)	
	問9	授業に対する熱意や真剣さが伝わってきた。	講義	4.05	(0.36)	4.18	(0.45)	**	3.75	(0.41)	
実技・実習			3.93	(0.41)	4.60	(0.33)	**	3.93	(0.44)		
問10	教員は学生の質問や発言などに適切に対応した。	講義	4.03	(0.40)	4.16	(0.47)	**	3.74	(0.45)		
		実技・実習	3.91	(0.40)	4.52	(0.42)	**	3.90	(0.39)		
問11	教員は授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくってくれた。	講義	3.95	(0.36)	4.10	(0.43)	**	3.61	(0.37)		
		実技・実習	3.86	(0.37)	4.46	(0.36)	**	3.79	(0.36)		
B	問3	授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行われた。	講義	3.93	(0.30)	4.16	(0.41)	**	3.66	(0.38)	
			実技・実習	3.83	(0.36)	4.50	(0.36)	**	3.77	(0.35)	
	問4	授業には十分な準備と工夫がなされていた。	講義	3.96	(0.36)	4.12	(0.46)	**	3.74	(0.39)	
			実技・実習	3.88	(0.39)	4.52	(0.36)	**	3.91	(0.35)	
	問5	授業の難易度のレベルは適切であった。	講義	3.85	(0.40)	3.98	(0.48)	**	3.60	(0.37)	
			実技・実習	3.81	(0.40)	4.43	(0.36)	**	3.77	(0.35)	
	問6	授業の進行速度は適切であった。	講義	3.89	(0.39)	4.05	(0.45)	**	3.67	(0.37)	
実技・実習			3.81	(0.39)	4.44	(0.39)	**	3.77	(0.39)		
問7	テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。	講義	3.97	(0.37)	4.13	(0.43)	*	3.80	(0.36)		
実技・実習	3.84	(0.36)	4.42	(0.47)	*	3.90	(0.31)				
C	問12	授業に興味をもって熱心に取り組むことができた。	講義	3.89	(0.41)	4.01	(0.49)	**	3.60	(0.42)	
			実技・実習	3.90	(0.40)	4.51	(0.31)	**	3.82	(0.39)	
	問13	授業の内容を良く理解することができた。	講義	3.82	(0.41)	3.96	(0.48)	**	3.58	(0.39)	
			実技・実習	3.85	(0.40)	4.47	(0.31)	**	3.81	(0.39)	
問14	授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得でき、もっと深く勉強したくなった。	講義	3.87	(0.43)	3.97	(0.45)	**	3.56	(0.46)	*	
		実技・実習	3.88	(0.38)	4.46	(0.33)	**	3.84	(0.42)		
問16	総合的にみてこの授業を受けて満足している。	講義	3.95	(0.43)	4.11	(0.47)	**	3.75	(0.45)		
		実技・実習	3.93	(0.39)	4.56	(0.31)	**	3.92	(0.44)		
D	問15	この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。	講義	3.99	(0.37)	4.14	(0.40)	**	3.78	(0.41)	
			実技・実習	3.90	(0.38)	4.50	(0.29)	**	3.96	(0.35)	
E	問17	教員の技能や実技の指導は適切に行われた。	講義	3.91	(0.43)	4.55	(0.34)	**	3.92	(0.37)	
			実技・実習	3.77	(0.44)	4.48	(0.38)	**	3.82	(0.30)	
	問18	この授業で課せられる課題の量は適切であった。	講義	3.77	(0.44)	4.48	(0.38)	**	3.82	(0.30)	
			実技・実習	3.77	(0.44)	4.48	(0.38)	**	3.82	(0.30)	
問19	与えられた課題に取り組む時間は充分にあった。	講義	3.73	(0.48)	4.45	(0.36)	**	3.81	(0.30)		
		実技・実習	3.73	(0.48)	4.45	(0.36)	**	3.81	(0.30)		
問20	授業の内容は技術や実技の向上に役立つものであった。	講義	3.96	(0.41)	4.58	(0.30)	**	4.06	(0.28)		
		実技・実習	3.96	(0.41)	4.58	(0.30)	**	4.06	(0.28)		
平均			講義	3.94	(0.37)	4.09	(0.43)	**	3.69	(0.38)	
			実技・実習	3.87	(0.38)	4.50	(0.33)	**	3.87	(0.35)	

* p<.05, ** p<.01

表5. 1年生と2年生の学生の授業評価の比較

項目 番号	項目	保育			ライフ			介護		
		1年生	2年生 以上	有意差 (t検定)	1年生	2年生 以上	有意差 (t検定)	1年生	2年生 以上	有意差 (t検定)
A	問1	4.14 (0.89)	3.88 (0.98)	**	4.09 (1.00)	4.31 (0.95)	**	3.90 (0.94)	4.12 (0.93)	**
	問2	4.03 (0.91)	3.80 (0.99)	**	3.97 (1.03)	4.24 (0.95)	**	3.74 (0.94)	4.01 (0.91)	**
	問8	3.76 (1.06)	3.68 (1.07)		3.84 (1.08)	4.10 (1.04)	**	3.50 (0.98)	3.71 (1.06)	**
	問9	4.07 (0.89)	3.88 (1.01)	**	4.03 (1.01)	4.31 (0.91)	**	3.69 (0.92)	4.05 (0.89)	**
	問10	4.05 (0.90)	3.84 (1.01)	**	3.97 (1.04)	4.30 (0.91)	**	3.68 (0.92)	4.03 (0.90)	**
	問11	3.97 (0.94)	3.80 (1.02)	**	3.97 (1.03)	4.22 (0.98)	**	3.58 (0.93)	3.89 (0.90)	**
B	問3	3.94 (0.88)	3.80 (0.96)	**	4.03 (0.95)	4.26 (0.91)	**	3.56 (0.86)	3.97 (0.85)	**
	問4	4.00 (0.88)	3.82 (0.99)	**	3.98 (0.99)	4.24 (0.94)	**	3.73 (0.88)	3.98 (0.87)	**
	問5	3.82 (0.98)	3.76 (1.00)		3.86 (1.04)	4.12 (0.99)	**	3.57 (0.90)	3.84 (0.90)	**
	問6	3.90 (0.95)	3.77 (1.02)	**	3.88 (1.06)	4.19 (0.97)	**	3.61 (0.90)	3.90 (0.89)	**
	問7	3.99 (0.91)	3.80 (0.99)	**	3.99 (0.99)	4.26 (0.92)	**	3.77 (0.90)	3.99 (0.86)	**
C	問12	3.94 (0.95)	3.77 (1.04)	**	3.85 (1.04)	4.14 (0.97)	**	3.56 (0.93)	3.89 (0.86)	**
	問13	3.84 (0.99)	3.72 (1.04)	**	3.84 (1.05)	4.09 (0.97)	**	3.58 (0.90)	3.82 (0.89)	**
	問14	3.88 (1.00)	3.72 (1.03)	**	3.82 (1.07)	4.10 (1.01)	**	3.50 (0.93)	3.93 (0.91)	**
	問16	4.00 (0.96)	3.80 (1.03)	**	3.93 (1.07)	4.28 (0.94)	**	3.70 (0.95)	4.03 (0.95)	**
D	問15	4.03 (0.90)	3.81 (1.04)	**	4.02 (1.01)	4.28 (0.92)	**	3.71 (0.91)	4.13 (0.87)	**
E	問17	4.07 (0.91)	3.76 (1.03)	**	4.43 (0.87)	4.63 (0.65)		3.98 (0.74)	3.99 (0.96)	
	問18	3.81 (0.99)	3.67 (1.06)	*	4.29 (0.92)	4.62 (0.68)	**	3.76 (0.81)	3.96 (0.94)	
	問19	3.77 (1.02)	3.65 (1.09)		4.29 (0.87)	4.57 (0.69)	**	3.77 (0.82)	3.90 (0.99)	
	問20	4.04 (0.94)	3.82 (1.06)	**	4.48 (0.80)	4.72 (0.55)	**	4.08 (0.79)	4.12 (0.92)	

* p<.05, ** p<.01 ()内はSD

4 教員の自己点検報告書の結果

FD委員会よりフィードバックした学生の授業評価の結果と教員による自己評価、および学内平均値との分析結果について、教員によるコメント（以下、自己点検報告書）を求めた。回答数は保育学科では215件、ライフデザイン総合学科では171件、介護福祉学科は61件であった。教員からの回収率は保育学科では99.5%、ライフデザイン総合学科では100%、介護福祉学科では98.4%であり、全体として99.6%の回収率であった。

自己点検報告書への回答の有無が、教員自身の授業への取り組みの姿勢のあらわれと判断されるが、2005年度、2006年度、2007年度に続く今年度の回収率の高さは、本学授業担当者の学生に対してよりよい授業を提供したいという意識と意欲の高さを裏付けるものといえる。

教員からの回答の具体的な内容は付表1～付表3に示した。回答のうち、「今後の改善策」の内容を既刊報告書^{1) 2) 3)}と同様、「改善への意識が感じられる」、「改善点を具体的に明記」、「結果への感想」、「学校への要望等」、「アンケートへの要望」、「無回答」に分類し、その割合を図2に示した。これより、「改善への意識が感じられる」が全体の59.1%を占め、次いで「結果への感想」が19.9%であった。昨年度と比較すると、「改善点を具体的に明記」が減り「改善への意識が感じられる」が増加した。これは改善したいという意欲はあるが、具体的な改善策が思いつかなかった可能性がある。しかしながら、既刊報告書と同様に、教員の授業改善への強い意欲と前向きな姿勢が今回の調査においても引き続き示されたと言えよう。

また、「学生による自由記述」については、回収、および保管は担当教員に任せているので、回収率や具体的な内容についてはここで明らかにすることはできない。しかし教員の自己点検報告書の中に、学生から寄せられた自由記述に対する教員の感想を記述する項目を設け、その内容を図3に示したように分類した。その結果、「自由記述の内容への感想（授業に関すること）」が75.8%と最も多かった。「自由記述の実施はよい・今後も継続すべき」は0.9%であった。反対に「実施に意味がない」の回答は0%であり、自由記述の継続に関するコメントはほとんどなくなった。これは、自由記述を実施することが定着したことを示しているかもしれない。しかしながら「無回答・白紙が多かったため回答できなかった」は20.4%で、全体の約5分の1にもなった。「自由記述を実施することへの意見・感想」は、「記述が少ない状況を改善する必要がある」「実施時間が少なすぎる」、「前もって自由記述に書く意見をまとめておくよう伝えておけば、更に参考となる意見が得られるのではないか」、「記名式が良い」、「設問の項目をおくなど工夫が必要」などがあつた。2007年度と比較すると、自由記述を実施することへの意見・感想や自由記述の継続に関するコメントが減少し、自由記述の内容への感想が増加している。2006年度に「学生による自由記述」が実施開始され2年が経過した。その間に自由記述を実施することが教員間に定着し、記述内容に関心が向けられるようになってきた可能性がある。

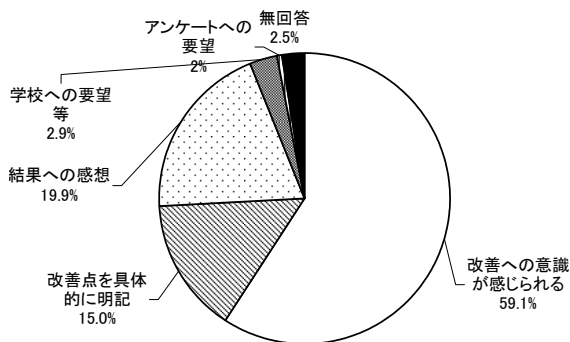


図2. 今後の改善策

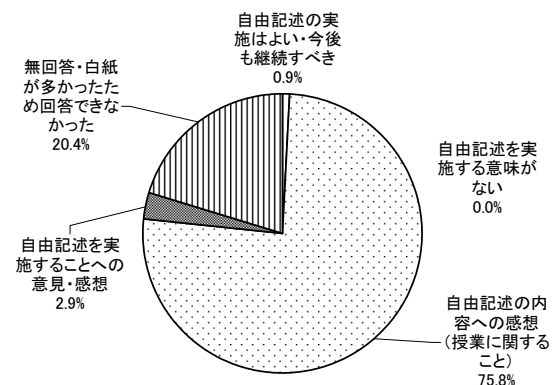


図3. 学生による自由記述

5 全体的な考察と今後の問題

冒頭でふれたように、本学で実施する「学生による授業アンケート調査」は今回で4年目を迎えた。今回の調査方法および内容はすべて、第3回目の調査であった2007年度調査を踏襲した。4回にわたる調査が、授業に対する学生の意識・教員の姿勢などについて現状を明らかにした点は有用であったが、4年間を通して学科によっては一定の傾向を見出せなかった分析項目もある。これら調査結果をどのように理解し授業改善につなげていくべきかを検討し、授業評価の取り組みを次のステップに進めるべき時期に達したように思われる。

今回の目的の第一に掲げた2005年度から2008年度にかけての4年間にわたる学生授業評価の年次的推移についていえば、2006年度の保育学科が有意に高い平均値を示し、同年度ライフデザイン総合学科が有意に低い平均値を示したのみで、年度による有意差は4年間を通してほとんど見られなかったといえる。2年間のデータであるが、介護福祉学科も平均値に有意差はなかった。前年度の評価結果を受けて個々の教員が改善に努力した結果、組織として一定の成果を得られたかどうかを見るために年次的推移を調査するのであれば、調査方法の再検討が必要であろう。

第二に、学生授業評価と教員自己評価との関係についての検討であるが、学科によるばらつきはあるものの、大まかな傾向として『教員の授業への取り組み姿勢』に関しては、学生からの評価に比して教員の自己評価が高い傾向にあるのに対して、『学生の授業への反応・意識』に関しては、逆に学生の評価よりも教員による評価の方が低いという結果であった。学生と教員の相互評価の結果生じるこのズレは、本調査開始以来継続して見られる傾向である。このズレが生じる要因を考える上で、ズレには教員と学生の立場の違いから生じる埋めようのない部分と、相互理解の向上によって調整可能な部分があることをまず整理しなければならないように思われる。さらに「授業の理解」とは何を理解できたことを指すのか、「総合的な満足」とは何に満足したことを意味するのかなどについて、前提となる認識が学生と教員間でそもそもズレている可能性もあるだろう。これらの議論をとおして「良い授業とはどのような授業であるのか」についての認識を学生と教員のみならず教員同士においても共有し、組織的な授業改善につなげていくことが期待される。

第三に、一つの授業あたりの受講者数、および授業形態が授業評価に及ぼす影響について検討した。保育学科では2007年度確認された受講者数が少ないほど学生授業評価が高くなる傾向は、今回はまったく見られなかった。ライフデザイン総合学科と介護福祉学科では、ほとんどの項目で学生授業評価と受講者数との間には負の相関関係があり、受講者数が授業効果に影響する主要な要素となっていることが示された。

授業形態に関しては、保育学科では授業形態による授業評価への影響は全ての項目において認められなかったのに対して、ライフデザイン総合学科では授業形態による影響が顕著であり、学生授業評価は、講義・演習形態よりも実技・実習形態の方がすべての項目において有意に高かった。介護福祉学科においても保育学科同様、総体的には授業形態による影響は小さかったが、「板書の仕方」、「もっと深く勉強したくなった」の2項目についてのみ、講義・演習形態よりも実技・実習形態の方が有意に高い結果となった。

第四に、保育学科とライフデザイン総合学科は2007年度に引き続き、介護福祉学科は今回初めて1年生と2年生以上の学生授業評価の差異について比較検討した。その結果は、2007年度と逆であった。つまり、2007年度保育学科においては、2年生以上が1年生より『学生の授業への反応・意識について』の学生授業評価が高いことが示されたが、今回はほぼ全体的に1年生よりも2年生以上の学生授業評価が低いという結果となった。ライフデザイン総合学科は、2007年度は2項目において、1年生が2年生以上より学生授業評価が高いことが示された。今回は逆に1年生より2年生以上の学生授業評価が全体的に高かった。介護福祉学科は前回と比較できないが、おおむね1年生より2年生以上の学生授業評価が高かった。

第三、第四で見られた学科による特徴の違いは、学科の特性のみでは現時点では説明できず、今後の検討課題として残されることになった。

教員からの自己点検報告書の提出は全体で447件、回収率は専任、非常勤を含む全教員の99.6%と極めて高かった。報告書のコメントを分析した結果、「改善点を具体的に明記」、「改善への意識が感じられる」が全体の約73.8%を占めた。学生による授業評価を謙虚に受け止め、学生が期待するよりよい授業の実践

に向けて日々の精進に努める教員の変わらぬ姿勢がうかがえた。

6 要 約

2005年度、2006年度、2007年度の調査にひきつづき、2008年度の前期末と後期末に、本学で開講されている授業科目について「学生による授業アンケート調査」を実施した。

学生に対する調査の実施方法は、5段階評定尺度によるアンケートと、自由記述の2種類とし、同時に授業担当者（以下、教員）による自己評価を実施した。また教員に対しては、学生による授業評価結果に加えて、その結果と教員による自己評価、および学内平均値との関連性をグラフ化したデータを個別にフィードバックし、学生による授業評価に対する自己点検報告書の作成を依頼した。

2008年度に授業評価を実施した授業数（コード数）は、保育学科が94、ライフデザイン総合学科が167、介護福祉学科が51の計312であった。授業評価アンケートを行った学生は保育学科184名（1年100名、2年以上84名）とライフデザイン総合学科194名（1年96名、2年以上98名）、介護福祉学科52名（1年27名、2年以上25名）の合計430名であった。

さらに学生による授業評価と同時に実施した「教員による自己評価」の総回答数は451件、回収率は100%であった。調査の内容は既刊報告書¹⁾²⁾と同じく別紙2～4に示した通りで、回答はアンケート、自由記述ともに無記名方式とした。調査の分析結果を要約すると以下の通りである。

(1) 授業評価の分析にあたっては、授業科目ごとに学生による授業評価点と教員による授業評価点を算出、これらの得点に基づいて、学科別に学生による得点の平均値と教員による得点の平均値を求めた。最初に授業評価項目を、A『教員の授業への取り組み姿勢』（問1、問2、問8、問9、問10、問11）、B『授業内容』（問3、問4、問5、問6、問7）、C『学生の授業への反応・意識』（問12、問13、問14、問16）、D『設備』（問15）、E『実技・実習』（問17、問18、問19、問20）の5つのカテゴリーに分類して、それぞれのカテゴリー毎に「学生による授業評価」（以下、学生授業評価）と「教員による自己評価」（以下、教員自己評価）間の比較検討をおこなった。

その結果、保育学科ではA、B、Eのカテゴリーで教員自己評価が学生授業評価を有意に上回る項目が見られた。逆にC『学生の授業への反応・意識』では学生授業評価の方が教員自己評価よりも高い項目があった。ライフデザイン総合学科では、すべてのカテゴリーに及ぶ、ほとんどの項目で教員自己評価が学生授業評価を有意に上回った。介護福祉学科は、A、Bのカテゴリーでは保育学科と同様の傾向を示したが、Cでは逆に学生授業評価が教員自己評価よりも低い項目があった。

(2) 保育学科とライフデザイン総合学科について、2005年度から2008年度にかけての学生による授業評価結果の年次的推移の比較を行った。アンケートの全項目についての平均値を求め、その年次的推移をみると、保育学科では3.94→4.09→3.93→3.91、すなわち低→高→低→低と変化したのに対して、ライフデザイン総合学科では4.11→3.93→4.04→4.17、すなわち高→低→高→高という変化を示した。介護福祉学科は、3.81→3.75であった。このように調査開始後4年目の段階においては、何れの学科においても、学生授業評価実施による年次的な成果が見られたと判断できるような一定の傾向を見出すことはできなかった。

(3) アンケートの各項目別に学生授業評価の得点と受講者数との相関係数を求め、学生による授業評価と受講者数との関連性について検討した。その結果、ライフデザイン総合学科においては全項目において負の相関関係が認められ、相関係数の有意差検定においても有意な負の相関関係、すなわち受講者数が少ないほど学生授業評価が高くなることが認められた。これは2006年度、2007年度にも見られた結果であり、ライフデザイン総合学科においては受講者数が授業効果に影響する要因の一つであることは明らかといえよう。一方保育学科においては、受講者数が与える学生授業評価への影響は見られなかった。

(4) 授業形態（講義・演習形態と実技・実習形態の2種類）の違いが学生授業評価におよぼす影響をみるため、学生授業評価を授業形態別に算出し、講義・演習形態と実技・実習形態のそれぞれの授業評価点をt検定（両側）により比較した。その結果、保育学科では授業形態による授業評価への影響は全ての項目

において認められなかったが、ライフデザイン総合学科では全ての項目において、実技・実習形態の授業の方が講義・演習形態の授業に比べて有意に評価が高い結果であった。介護福祉学科では、Cに属する「授業への興味」と「もっと深く勉強したくなった」の2項目においてのみ、実技・実習形態の授業の方が講義・演習形態の授業に比べて有意に評価が高い結果であった。

(5) 1年生と2年生の授業評価点を t 検定（両側）で比較した結果、保育学科では「板書の仕方」（問8）、「授業の難易度」（問5）、「課題の量」（問18）の3項目を除くすべての項目で、1年生よりも2年生以上の学生授業評価が有意に低かった。ライフデザイン総合学科では、「技能・技術の指導の適切さ」（問17）を除くすべての項目で、1年生よりも2年生以上の学生授業評価が有意に高かった。介護福祉学科では、E『実技・実習』カテゴリーを除くすべての項目でライフデザイン総合学科と同様の結果であった。保育学科とライフデザイン総合学科の結果は、2007年度調査と逆の傾向を示しており、学科の特性による一定の傾向は見出せなかった。

(6) 教員の自己点検報告書を分析した結果、「改善への意識が感じられる」58.8%、「改善点を具体的に明記」15.0%の回答が得られた。学生による自由記述に対する感想では、「自由記述の内容への感想（授業に関すること）」が75.6%と最も多かった。「実施に意味がない」の回答は0%で自由記述の実施が定着したことを示しているかもしれないが、「無回答・白紙が多かったため回答できなかった」は20.6%にもものぼった。

「自由記述を実施することへの意見・感想」は、「記述が少ない状況を改善する必要がある」、「実施時間の少なさ」、「記名式が良い」、「設問の項目をおくなど工夫が必要」などがあつた。

引用した既刊報告書

- 1) 「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—2005」（2006年7月）、四條畷学園短期大学FD委員会（近藤淑子、北村瑞穂、井上泰子、石村哲代）
- 2) 「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—2006」（2007年7月）、四條畷学園短期大学FD委員会（北村瑞穂、近藤淑子、井上泰子、石川肇、石村哲代）
- 3) 「授業評価報告書—よりよい授業への改善を目指して—2007」（2008年10月）、四條畷学園短期大学FD委員会（北村瑞穂、井上泰子、石川肇、奥田純、鍛冶谷静、石村哲代）
- 4) 「平成18年度 授業についての満足度調査」（2007年5月）、四條畷学園短期大学FD委員会（北村瑞穂、近藤淑子、井上泰子、石川肇、石村哲代）
- 5) 「平成19年度 授業についての満足度調査」（2008年9月）、四條畷学園短期大学FD委員会（北村瑞穂、井上泰子、石川肇、奥田純、鍛冶谷静、石村哲代）

付表1. 自己点検報告書(保育学科)

科目名	担当者	1. 学生による授業評価調査の集計結果について	2. 教員による自己点検評価から見た集計結果について -昨年度の結果と比較して-	3. 学生の自由記述についてご意見があればご記載下さい	4. 2と3の結果より今後の改善点について
子ども文化 I	淡路和子	全ての項目に於いて予想以上の評価だった。特に教員の熱意、学生の満足度の項目で高い評価を受けた。	昨年度の結果を踏まえて、本年度の改善点が結果に現れた。次年度の参考にしたい。	「手遊び」を毎回授業に取り入れたことについて、「実習や保育現場で役に立つ」という記述が多かった。学生間の情報交換もできた。	毎年報告しているが、机の無い教室での講義なので「板書」の項目は教員、学生とも、答えにくい。プリント配布などで工夫している。
子ども文化 I	野間路代	ほぼすべての設問で、評価の平均が4以上になっている。また、問1以外は1という回答は0%、2という回答もごく少なかった。学生はある程度満足していたと考えられる。	ほとんどの設問で、教員の自己点検評価のほうが、学生のもよりも上回っているが、問16はほぼ同じ結果になっている。このことから見ても、学生は満足してくれていたようで、よかった。	「楽しかった」「勉強になった」等の意見が多かったので、よかった。	人数の多い集団授業はやはり静かな環境を作ることが大事だと思う。結果をふまえて、後期の授業に生かしたい。
子ども文化 I	早川未紗	学生は興味を持って授業に取り組んでくれているように思います。	自己評価が学生評価を上回っていますが、学生は全体的に授業に満足してくれているように思います。	学生の本音を知ることができるので、アンケートより今後の参考になるので良いと思います。	保育の現場に出た時に学生が困らないよう、充実した授業になるよう、工夫していきたいと思います。
子ども文化 I	岡田麻耶子	問20の「授業内容は技術や実技の向上に役立ったと思う」が全問中最も高い学生評価を得ており、学生の将来に重要なこの項目が高評価だったということを嬉しく思います。	昨年この授業を担当しておりません。	学生の熱意が伝わる意見を沢山もらい、こちらも意欲がわきました。	全体的に学生評価が自己評価よりも下回っているため、これが同じ、又は学生評価が上回る、実りある授業ができるように努力したい。
子ども文化 II	谷本丹津子	思った以上に評価が高く嬉しいがクラスの数が増えればもっと評価が上がると思われる。	昨年より学生の数が多く指導が行き届かないように思えたが、結果的には評価がそれほど変わらないので不思議である。	授業中は反応が余り見られなくて、たいして刺激にはなっていないのかと思っていたが、文章の中では「演技を見て楽しかった」「面白かった」の記述が多く、これからもできるだけ実演を見せようと思った。(但し、人形を運んでくるのが電車では大変なんです)	授業態度の悪い学生に対して厳しく注意し、全員が集中できる環境をつくる事と科目に対してもっと関心を高めるような工夫をしたい。(ビジュアルなものでアピールしたい)できれば幼稚園でも実演をさせていただきたい。
くらしと環境	汐見信行	保育の講義は初めてで、かつ学生数も多かった(50数名)ので、いざさかとまどったが、評価は高かった。	授業を理解しているかどうかに気を配ったが、私の評価とほとんど一致した。	心から興味を持ってくれる学生は毎年、何人かいるが、それを書いてくれるとほっとする。	本年と同様な方法(一時的にない)を続けてみたい。
日本国憲法	沼口智則	問5、授業の難易度のレベルが少し高すぎたのか、適切でないというパーセンテージが比較的高かった。わかりやすく授業しているつもりだが、もう少しかみくだいて授業する必要を感じた。問8の板書も少しマイナスのパーセンテージが高く、きれいに大きくみやすい板書を心がけたい。	こちらの情熱と学生のやる気がすれちがっているのか、問12の熱心に取り組んだかどうかで私とずれがあった。従って、問15の授業の満足度にも、私と学生のギャップが少しあったようだ。	特に記述がありませんでした。	授業の難易度や理解度に多少ずれがあり、また情熱度にもずれがある以上、私の方から学生の目線そして彼らの求めている授業や内容を適切に把握し、これまで以上の工夫をもって授業をしていきたいと思う。
英語 (英会話 A)	垣口由香	全体的に学内平均より低く、学生の満足度が低い結果となりました。その原因として、一つに教科書が少し難し過ぎたことが考えられる。(問5参照)。分かりやすい説明を心がけ、副教材としてプリントを使用するように努めたが、良い結果につながらず残念である。	(昨年度は出講しておりませんので今年度の結果から)学生との評価の開きが大きい問1として、問2が挙げられる。十分な説明をしたつもりでも、学生にとっては不十分なものであり、結果授業全体の消化不良を引き起こしたように思われる。また説明、指示を聞く雰囲気を作ることも難しかった。	POPSを教材に用いた結果、「楽しかった」という学生と「難しかった」という学生に二分したようだ。楽しめる学生が多かったようで良かったと思う。	もともと英語が苦手あるいは嫌いとする学生が多いが、より興味を持てる教材でかつ将来的に役立つ授業ができるよう努めたい。

英語Ⅱ (リーディング)	井上泰子	保育学科2回生の選択の授業で、半数が途中で失格や退学などで受講をやめた。残っているのは、英語が好きで学びたいという学生と卒業単位取得のためどうしても必要という学生の両極に分かれる。思った以上に評価が高いが、出席率の悪い講座なので判断に苦しむ。	昨年度も同じ講座を担当した。同じテキストを使用しているが、注釈プリントにも工夫を加え、英文の小説をより分かりやすく読めるように心がけている。昨年度は、学生からの要望や注文が多かった反面、出席率は前期、後期ともに抜群であった。審査も持込みなしで、かなりの好成绩であった。本年度は、異例のこととして、持込みを可とした。	よく分かる授業だと評価しているのは、多分成績上位の学生であると思う。むつかしいという学生もあり、他の物語も読みたいという学生もいた。	通年の授業なので、前期の状況を踏まえ、単位取得に向けて努力する姿勢を養いたいと思う。少人数のメリットを活かし、積極的に授業に参加させるよう工夫したい。
スポーツⅠ	黒石・鎔	学生評価の平均値は、例年並みの評価をもらったが、学生評価詳細の、「3. どちらでもない」のパーセントが多くなっているように思う。	実技科目なので、テキストや、板書がないので仕方ないが、全体的に学内平均を上回り、よかったと思う。		今まで以上に熱意をこめ、学生が満足できる授業を心がけていきたい。
スポーツⅠ	黒石・鎔	昨年同様、学生評価が、4点台を維持していることは、それなりに評価してよいのではないかなと思う。	教員の熱意が完全に受け止められているかといえば、必ずしもそうではないので、その辺の指導法をもっと考えていく必要がある。	泳げる者と余り泳げない者との意識には、相当のずれがあるが、あまり授業内容についての不満がないのは、能力別指導の結果ではないかと考えている。	教員の熱意が、完全に学生に伝わっているとは思えないので、その辺の熱意を学生にどのようにして伝えていこうか今後の課題であると思う。
情報基礎	守屋誠司				
保育者基礎 演習A	石村哲代	保育者としてのコミュニケーション能力を高めることを目的とした授業で、鍛冶屋先生が7週、石村が7週を担当する。1年生前期の必修科目ということで気合を入れて臨んだが、その気持ちが学生に十分に伝わっているとはいえないレベルの評価であったことを残念に思う。	聞き取りやすい速さでゆっくりと話す、熱意をこめて授業する、静かな環境で授業する、など自分自身は最善を尽くしたつもりであるが、学生評価は教員評価を下回った。逆に学生の理解、授業に対する関心、満足度といった項目では教員評価よりも学生評価の方が高かった。	全体的に、なおざりな記述が目立つ。「知らなかったマナーのことがわかってよかった」といった通りいっぺんのことしか書かれていないので、がっかりしている。今後はこの調査の意味をしっかりと伝えて実りあるものにしていきたい。	保育者の基本として大切な笑顔と挨拶を習慣づけるように強調した。一部学生を除き大半の学生が実践してくれているように思っていたが、9月の保育実習では、基本ができていない指摘された学生が多かったと聞き、ショックである。マナーは形式よりも心が先、という精神論を中心に話を進めているが、今後はより具体的に、人間関係におけるマナーの重要性を伝えられるよう努力したい。
保育者基礎 演習A	鍛冶谷静	授業中に感じられていた、取り組みに熱心な学生とそうでない学生の差が評価にも表れているように思われる。	鍛冶谷は今年度からの担当なので昨年度との比較はできないが、自己評価と学生評価の差はしっかり受け止めて改善を図っていききたい。	ためになった、との意見が多く見られたものの、白紙提出がかなりあり、学生全体の意見としては考えにくい。	コミュニケーション領域を担当、ペアやグループでの活動を取り入れたが導入や展開に難しさを感じる場面が多々あった。クラスによる雰囲気の違い、個々の学生のモチベーションの差などに応じられる授業の技術が必要と感じた。内容と展開方法を工夫していききたい。
言葉と表現Ⅰ	工藤真由美	すべての項目で高い評価を得て、非常にうれしく思います。板書については、もう少し工夫と、学生の理解に近づける努力をしたいと思います。	昨年と比べて、学生の学生自身への評価が甘いように感じた。	なかなか自由記述の記入者、記入量が増えない。更なる努力が必要と思った。	比較的真面目に授業評価に取り組んでくれているように思う。しかし、自己評価の甘さが、授業評価をする視点の甘さにも通じていないか、検討の余地もある。学生の高評価に甘んじないためにも。
音楽Ⅰ	淡路和子	複数教員担当科目。私は音楽グループレッスンを担当しているが、学生は両ジャンルについてアンケートに答えている。課題に取り組む時間の項目で評価は低い。	本学はピアノ初心者が多い。実習や卒業後に必要なピアノ技術を考えてどうしても課題が多くなる。「課題が多い」という回答率が高かった。現場の現状を、より丁寧に説明する必要性を感じる。	特になし	課題に取り組む時間については、ピアノ実技は授業内のみで技術向上は不可能だと説明している。今後は、課外自習の必要性をより丁寧に伝えたい。
音楽Ⅰ	大森由美子	授業の難易度、進行速度について、少し評価が下がっている。	問5、6の難易度、進行速度で、自己評価と学生評価に差があることがわかる。		実技授業のため、各学生に適した課題選びと指導法を研究したい。

音楽Ⅰ	木谷祐子	学生評価は全体的にそれほど悪くないと思いますが、課題の量とそれに取り組む時間に大変さを感じていることが分かります。授業内ではそうも思いませんでしたが、内容の理解度・難易度のレベルの項目が他クラスより評価が低くなっています。	学生評価が全体的に自己評価を下回っています。特に、難易度のレベルと授業の進行速度、課題の量の項目で差が大きく出ています。	反省点などを考えるきっかけになり、参考になります。	課題の量については、減らすということではできませんので、授業内でこまめにテストをするなど学生が目的をもって練習できる工夫を今後もしていきたいと思います。それを励みに頑張る学生も大勢いますので、やる気をもたせる工夫を考えていきたいと思います。
音楽Ⅰ	小齊由美	予想以上の評価を頂いたが、「難易度のレベルは適切か」についての結果に学生との開きが見受けられた。	全体的に昨年より学生評価が少し上回っていた。	1. に同じく、課題が難しいという記述があった。	学生の理解度を高めるため、常に復習課題を与えるように努める。
音楽Ⅰ	佐藤久美子	予想通りの結果であった。授業内容をほぼ全員の学生が理解し、授業に取り組んでくれるように思う。	大半の学生はまじめに授業に臨んでくれるように思う。しかし、もっと教員は向上していけるよう授業を工夫すべきである。	学生の率直な意見を聞けてよかった。	ピアノ実技レベル低下にならないよう注意していきたいと思う。
音楽Ⅰ	杉田清子	学生評価詳細を見ると、全体的に4(どちらかといえば)と、5(そう思う)の評価が多く、問20では技術の向上に役立つと感じた学生が4・5の評価で76%を超え、課題が多いと感じながらも前向きに取り組んだ結果であると窺える。ただ、数項目において、学生評価が学内平均を下回った。1・2の評価の割合が他より多かったのではないかと思う。	学生評価と自己評価の差が広がったのは、難易度レベル、進度、課題の量、それに取り組む時間についての項目である。これは毎年の課題なのだが、もっと時間外の指導や心のサポートも含め学生が納得いくような指導を行わなければならない。	前向きに授業に取り組み、1年生前期という早い時期に成果を感じる学生がいたことを嬉しく思う。その反面、授業についていくのが困難と感じ、早や挫折を味わう学生がいたことにショックを受けた。	ピアノ初心者にとって課題は決して容易とは言えないが、必要な内容だということを学生が理解できるような指導を心がけ、挫けそうになる学生を早期にサポートできる体制をクラス全体で作りたい。
音楽Ⅰ	中東愛子	どれもいい評価が得られたと思うが、設問18、19が低いのが残念だった。	ほとんどの設問で自己点検評価と学生評価の差がないので、学生はこの授業に満足してくれているのだと思う。	学生の素直な意見が聞け、今後の参考になるので、いいと思う。	教員の熱意がどのように伝わるのかを考えていきたい。
音楽Ⅰ	吉岡紀子	多くの質問に対して“どちらでもない”という回答が多い。また、“そうは思わない”の回答も他のクラスに比べ多い。授業の難易度や量、速度、課題に取り組むための時間などになにかしら不満、疑問を持っているように思われる。	教員が感じる授業に対する評価と、学生が感じる事が全体的に共通しているようにみられる。特に実技の項目に関してもう一度考えてみる必要がある。	一部の記述の中に“課題に取り組むための時間が足りない”とあった。実技の授業は、授業以外の時間の準備(練習)が重要であるということ認識できていない様子である。実技に対する意識の再確認が必要なようだ。	実技テストを頻繁にすることによって学生の負担も多くなっているが、それらの必要性を理解してもらい、意識の向上に繋げなければならない。
音楽Ⅰ	吉原千景	このクラスの学生は授業に対して他クラスに比べていい印象を持ってきている感じではあった。自分がこのクラスを担当していて、学生達が自主的に取り組むための時間などに感心するとともに、頼もしさを感じた。	就任1年目につき、前年度との比較が出来ません。		学生達にとって、この前期は新しい学生生活の始まりということもあり、新鮮な気持ちで目的意識をしっかりと持って取り組めたと思う。ピアノの習得は単調作業の積み重ねで、それに加えて後期は前期で要領を得た分マンネリになりがちであるが、そうならないよう教員も工夫しなくてはならないと思う。
音楽Ⅰ	岡田麻耶子	全体的に「4」より低い評価が気になった。特に問6、問18の授業レベル、課題に取り組む時間についての評価がほぼ「3」に近く、これは学生たちの能力の問題だけではないように思う。	授業内容やレベルなど、それぞれの学生に合った進行速度で進められるよう毎年努力しているが、それでも評価が下がっていくのはとても残念に思う。	良い意見も参考になる意見も合ったが、どちらにしろ沢山意見をもらえたということは、それだけこの授業に関心を持っているという事なので嬉しい。	課題は取り組む時間がないという生徒が大半で、生徒によってその理由は様々だが、ほとんどがアルバイトとの両立が難しいと言っている。将来がかかっている学業とアルバイトとどちらが大切なのか、もっと生徒と向き合って伝えていかないといけないと思う。

音楽Ⅰ	中谷孝平	学生自身による各項目のポイントを教員の自己点検とのポイントに差異が少ない。互いの意識に近いところが有ると理解して良いと思う。学生が課題の量、それにかかる時間の不足を記している事は残念。	各項目に対して少々ポイントアップしている印象がある。その結果、授業に集中度が増していることにつながっている。		教員の自己点検の各ポイントを学生のポイントが上回るような授業にして行きたい。
音楽Ⅰ	大森由美子	授業の難易度、進行速度について、少し評価が下がっている。	問5, 6の難易度、進行速度で、自己評価と学生評価に差があることがわかる。		実技授業のため、各学生に適した課題選びと指導法を研究したい。
音楽Ⅰ	角野美穂	授業で課された課題量が多く、取り組む時間が少ないと感じているようだ。学内平均を大きく下回っている。	短期間で実力をつけてもらうため課題を考え、授業は熱意をこめて行ったはずであるのに、学生のとらえ方とかなりの開きがあり、残念だ。		保育の現場ではピアノが不可欠であるが、教員側の一方的な押し付けではなく、学生のやる気を引き出しながら、楽しく授業を進めたい。
音楽Ⅰ	木谷祐子	学生評価は全体的にそれほど悪くないと思いますが、課題の量とそれに取り組む時間に大変さを感じていることが分かります。しかし、技術や実技の向上に役立ったかの問いには全項目の中でも一番高い評価が出ています。最終的に学生自身がそう感じる事ができたのであれば、嬉しく思います。	学生評価が全体的に自己評価を下回っています。特に、難易度のレベルと授業の進行速度、課題の量の項目で差が大きく出ています。	反省点などを考えるきっかけになり、参考になります。	課題の量については、減らすということではできませんので、授業内でこまめにテストをするなど学生が目的をもって練習できる工夫を今後もしていきたいと思います。それを励みに頑張る学生も大勢いますので、やる気をもたせる工夫を考えていきたいと思っています。
音楽Ⅰ	小齊由美	「課題に取り組む時間がない」との回答が多く見受けられた。	全体的に昨年より学生評価が少し上回っていた。	課題が多いという記述があった。	学生の空き時間を有効に利用し、適宜レッスンをを行うように努める。
音楽Ⅰ	島長恵美	入学時には、ピアノを弾くということが初心者である学生が大半である中、短い学生生活の内に、卒業後に現場で通用する力をつけるために、教員の側は、それぞれが大変な熱意をもって授業に取り組んでいます。学生からは、それが、'難易度が高く、課題の量が多く、進行速度の速い授業'と捉えられているようです。	昨年度前期は音楽Ⅰを担当していなかったため、集計結果がないので比較は難しいですが、昨年度後期の結果と比較すると、今年度前期のほうが、学生の評価は良いようです。	大半がひと言程度のもですが、中には、無記名である気楽さからか、学生の素朴な気持ちが書かれているものもありました。	卒業後に現場で通用する力をつけるために、1年生の内にマスターしておくべきことを、学生にもさらに丁寧に説明し、一人一人が目標を持って、意欲的に勉強できるように、指導していきたいと思っています。
音楽Ⅰ	中東愛子	思っていた以上にいい評価が得られた。	自己点検評価と学生評価の差が広がりすぎている設問が多かった。	「練習する時間が欲しい」という意見があったが、同じ時間の中でも、時間を見つけて頑張っている学生もいるのだということを理解して欲しい。	学生と教員のコミュニケーションをもっととって、将来したときには必ず必要なのだということを理解してもらいたい。
音楽Ⅰ	吉岡紀子	全体的に、意欲的に目標をもってこの授業に取り組んでいたように感じた。進行速度、課題の量とそれに取り組むための時間に関しては、それぞれの感じ方にばらつきがあるようだ。	教員が求める内容の理解、実技の習得に、多くの学生の意識が随分近づいてきているように思う。しかし、「どちらでもない」という項目では、学生も教員もどういう意図で選んだかという所で疑問が残る。	普段の授業態度がその記述にそのまま表れている。不満や疑問を感じてはいるが、授業内容の重要性を理解している学生も多い。	授業内の時間だけでなく、普段の自分の時間を割いて常に継続しなければならないことを、学生に理解してもらわなければならない。それらの積み重ねが自身にとっていかに必要か大切かを伝えるべきである。
音楽Ⅰ	向山裕子	学生評価の4, 5を占める割合が7~8割を越え、この授業への満足度は比較的高いと思われる。	授業内容についてはほとんどの学生が役に立ち必要性あるものと認識しているようですが、課題量の多さ、それに取り組む時間不足を感じている学生も一部いるようです。		意欲的に勉強が継続できるよう、個々の学生の力に見合う課題を吟味し、技術の向上につなげたいと思います。

音楽Ⅰ	金香叡	ピアノを初めて弾く学生や、もう何年も習ってきた学生など、様々な学生がいましたが、テストで弾く課題の量にびっくりしたようで、苦しい思いだけ残ったかな、という思いがします。評価は納得できます。	できるだけ多くの課題をこなすには、やはり授業や補講だけでは無理というのを学生に分かってもらうのが去年に引き続き難しいようです。去年も同じような評価だったと思います。		自宅や自習でどれだけ努力したら成果がでるかを理解してもらいたいです。
音楽Ⅰ	岡田麻耶子	教員に対する熱意や評価はほぼ「4」を得ているが、課題の量や時間の項目はほぼ「3」に近い。熱意はあっても課題に取り組む時間が少ないというのは残念だと思う。	毎年、自己評価と学生評価の差が大きいく感じる。この差を来年は少しでも縮められるよう努力したい。	授業の内容だけでなくレッスン室についての意見もありとても参考になりました。	アルバイトの時間を削ってでも課題に取り組みたいと思わせる授業内容にするにはどうしたらいいか。今後より危機感を持って考えていかなければいけない点だと思う。
音楽Ⅰ	井後和恵	全体的に、平均、もしくは少し下回っている点がかかる。技術の向上に役立つと回答した学生の割合に比べ課題の量に関しては多いと感じている人数が多い。この点をふまえ、課題の重要性をいねいに説明しながら授業を進めたい。	自らの将来的な目標を持って入学してきた学生からは、良い評価が得られている。しかし、自らの将来の模索段階にある学生からも、本学で学んで良かったと一日も早く思われる様指導したい。		少子化の時代を迎え、技術面、人間性共に質の高い保育士が求められている。この点を教員のみでなく、一学年の始めから学生にも認識させ授業を行いたい。
音楽Ⅰ	大森由美子	1. そうは思わない 2. どちらかと言えば・・・の値が低かったことは評価できるが、授業の進行速度、難易度の値が少し低い。	問1. 2. 9. 14の値が自己評価より学生評価のほうが低いことは残念な結果である。		授業の熱意がさらに伝わるよう努力したい。
音楽Ⅰ	木谷祐子	このクラスの学生評価は全体的に割と高いと思いますが、課題の量とそれに取り組む時間に大変さを感じていることが分かります。	難易度のレベルや授業の進行速度で多少の差がありますが、授業の満足度や理解度の項目は教員評価とほぼ同じで、この点については例年よりも学生評価が高くなっていると思います。	反省点などを考えるきっかけになり、参考になります。	課題の量については、減らすということではできませんので、授業内でこまめにテストをするなど学生が目的をもって練習できる工夫を今後もしていきたいと思えます。それを励みに頑張る学生も大勢いますので、やる気をもたせる工夫を考えていきたいと思えます。
音楽Ⅰ	久保雅世	ある程度、良い評価を頂いていると思う。特に、授業への満足度についての項目では、高い評価をつけている学生が多かった。	自己評価と学生評価を比べて、差が目立ったのは、やはり課題の量や、それに取り組む時間についての項目であった。ピアノは実技教科であるため、練習する事は不可欠である。課題をこなしていく事で、練習する習慣と、現場で通用する技術が身に付くよう、これからも指導していきたい。	アンケート項目では頂けない意見が聞けて良かった。	個人レッスンという授業形態を生かし、学生一人ひとりに合った指導を心掛けたい。
音楽Ⅰ	麴谷さつき	この授業の受講に対し、良い評価をしてくれているように思います。	毎回、与えられた課題に取り組む時間について、学生も指導する側も苦労しているようです。		課題に取り組む時間の不足を補う上でも、基礎的な力の向上を考えたい。
音楽Ⅰ	佐藤久美子	意外な結果であった。授業態度が悪いように思うクラスであったので、意外にも学生の評価が高かったことに驚いている。	自己評価と学生評価がほぼ比例している。ほぼ全員の学生が実技授業の大切さを感じているように思う。	具体的な感想等も書かれていて良いと思う。	学生が社会に出た時に困らないよう、今は大変だと思うが課題の量を増やしていかなければいけないと思う。
音楽Ⅰ	杉田清子	詳細をみると全体に1・2の評価は極めて少なくこれは良いことなのだが、3・4・5に満遍なく分布し、平均値はいづれも30%台となった。また、問16では学生評価の平均値が4.1と、大半が総合的に満足していると回答しているが、肝心の実技においてすべての間で平均が4を下回った。	結果から見てもクラス全体の授業の進め方は良かったように思う。しかし、自己評価をかなり下回った実技において、課題の見直し、取り組む時間の工夫、納得のいく指導をよく考えたい。	他のクラスの音楽Ⅰと同様、前向きに取り組む成果を感じる学生と、やや遅れて不安を感じる学生に分かれている。	決まり切った指導ではなく学生が納得いく指導を見出していかなければならない。評価の低かった実技について後期は学生自身が技術の習得を実感し、喜びを味わえる結果が出せるよう、指導を工夫したい。

音楽Ⅰ	早川未紗	学生は全体的に授業に満足してくれているように思います。	自己評価が学生評価を上回っています。	学生の本音を知ることができるので、アンケートより今後の参考になるので良いと思います。	保育に現場に出た時に学生が困らないよう、個々のレベルに合わせながら、技術が向上するように授業方法を考えていきたいと思っています。
音楽Ⅰ	吉岡紀子	多くの学生が授業内容を理解し、関心をもって取り組んでいたと思われる。しかし、どの項目に関しても“どちらでもない”を選ぶ学生も少なくはない。	学生・教員ともに評価の値が似通っている。といっても同じように感じて、とは言えず質問の内容に疑問が残る。課題に関してのこちらの想いと学生の感想ではズレを感じる。	記述が極端に少なく、内容もあまり参考にできるものはない。ここからは実技に対する率直な意見を取り入れることはできなかった。	このクラスは特に“どちらでもない”という項目を選ぶ学生が多かった。実技の教科ということで、質問の解釈を統一する事が困難であったのではないかと思う。学生の普段の様子を注意深くみるべきだと思う。
音楽Ⅰ	森脇由紀	項目によって、学生と自己との評価に開きがあるものもあり、1つずつ反省しながら見ました。	昨年と同じような傾向はあると思われる。問、9熱意をこめては、毎回大きく開きがあり、皮肉であり反省点である。伝わらなければ意味がないので、伝わるよう工夫しなければならぬと思います。	熱意は伝わるものだと思います、ますます努力したい。	問19、取り組む時間が充分になかったという傾向なので、学生が同じ時間でも有効に成果を感じられるよう、工夫していかなければいけないと思う。
音楽Ⅰ	牧田さやか	毎年、問6に関しては、低い評価であったが、今回、比較的良好い評価をいただき、良かったと思う。	毎年、自己評価が学生評価を上回るが、今回もそうであった。しかし、全体的には良い評価をいただいているので、今後も学生にとって有意義な授業を行ってきたい。		課題に取り組む時間が充分でないと感じている学生は多いが、その同じ時間の中でも多く課題をこなしている学生もいるので、その事を理解させたい。
音楽Ⅰ	中谷孝平	毎年の学生の間 18, 19に対するポイントが少々上がった感がある。	教員による自己点検評価と学生の授業評価が各設間で近いポイントを得ている。		(授業評価が)教員の自己満足に終わらないように、問 18, 19など授業内での労苦に関する設問に学生が100%満足して積極性を持った答えを書ける様努力したい。
音楽Ⅱ	淡路和子	複数の教員で担当している。問16までの項目では、問12の学生が熱心に授業に取り組んだ、の項目以外は1のそうは思わないの回答が0%だが、実技・実習科目にのみに回答する項目では1,2の回答が増えている。	問9について、授業に対しての教員の熱意が伝わらなかった。学生が1回答は0%だが2の回答が22.3%あったのは残念だ。	自由記述では教員の熱意が伝わった、という回答が多かった。アンケート集計との差はどのように考えるべきか？	複数担当なので会議で意見を交換する機会を多く持っている。教員の熱意が学生の実力向上に反映できるよう、努力する。
音楽Ⅱ	角野美穂	すべての項目で学内平均を下回っている。	就職試験や保育の現場で役立つように考えた課題内容・課題量であるが、学生の意識とかなりのギャップがある。こんなに差が開いてしまったのは初めてだ。		ピアノの実力をつけるために、毎日の練習や前向きな努力はどうしても必要で、学生にも理解を求めたいと思う。ピアノが嫌いになってしまわないように、基礎的なところは繰り返し説明したい。
音楽Ⅱ	久保雅世	学生評価が学内評価・自己評価よりも低い評価であった。特に問17以降の実技科目のみの回答では、そうは思わないと回答している学生の評価も目立った。	授業に満足している学生もいるが、一方でどちらでもない、そうは思わない、と回答した学生も多かった。	授業に対する感想をたくさん頂いた。もう少し具体的な意見が貰えれば良かった。	2年次は、就職試験を控えた時期であり、音楽も就職に関わる重要な授業である。学生たちにとって、満足のできる授業であるよう、指導の工夫と、内容の充実にも努めたい。
音楽Ⅱ	小齊由美	授業内容に対する関心が低いように見受けられた。	昨年と学生評価がほぼ同じだった。		将来に役立つ授業になるよう、積極的に模擬授業などを取り入れるように努める。
音楽Ⅱ	中東愛子	「どちらかといえば」や「どちらでもない」という、あいまいな回答が多かった。	自己点検評価よりも学生評価が低いのが残念だった。	学生の素直な意見が聞け、今後の参考になるので、いいと思う。	教員の熱意がどのようにすれば伝わるのかを考え、指導していきたい。

音楽Ⅱ	吉岡紀子	音楽Ⅱの授業をもつなかでは、特にこのクラスが評価のばらつきが大きく感じる。全体的に大きく自己評価を下まわり、意識・意欲の低下が感じられる。	実技の課題の量や内容を、各個人に向けて再度考えとともに、それらに伴う意識や意欲を育てなければならない。	教室の設備や練習用のフロッピーなど、有効的に使えたようである。今回は特別にそれらの使い方を伝える時間を作ったためだと思う。	実技の授業を行ううえで、技能習得の重要さ、努力した末に得られる力と自信を、学生に対して正面から向き合い、話し合い、理解してもらい、次へ進む意欲を与えねばならないと感じた。
音楽Ⅱ	吉原千景	教員の努力が学生達にはあまり伝わっていないことが分かる。技術の習得が困難であるのは理解できるが、ピアノは学生自身の日々の努力の積み重ねが大きく影響してくる。それを十分理解していない学生がその責任を転嫁しているようにも思える。	就任1年目につき、前年度との比較が出来ません。		後期は学生達にとって就職採用など、大事な局面を迎え、ピアノも人生を決定付ける大事なファクターになる。ピアノ指導者は指導者としてだけでなく、一人の人間として出来る限り学生と接して、必要とされるならば支えてあげたいと思う。
音楽Ⅱ	金香勲	少し意外な感じですが、こなす課題の量の数がそれほど伸びなかったせいだと思います。	去年も同じような評価のような気もしますが、授業だけに頼らず自主的に練習してほしいです。		とても真面目な学生でしたので、もっともっと努力すれば少しずつ実力がつくことを分かってもらえるようにしたいです。
音楽Ⅱ	井後和恵	全ての項目において学内平均を下回っている。この結果を真摯に受けとめ、学生の声に耳を傾ける所から始め、しっかり指導できるよう、授業準備もていねいに行いたい。	昨年、保育士として必要なレパートリーが少なかった点をふまえ、習得すべき曲数を増やし、卒業後立派に保育士として生きていける力を学生に身につけられるよう、指導したい。		学生の忙しさは理解しているが、ピアノという科目は自分で楽譜、楽器に向かえば上達するという事を、後期は徹底して指導したい。同時に、保育士としての音楽の重要性も伝えていきたい。
音楽Ⅱ	中谷孝平	学生の各設問に対するポイントが総じて低く、授業に対する積極性の欠如が見える気がする。	教員は毎年同じ熱意を持って各学生に接しているが、学年が1年から2年へと上がると、学生と教員の各設問のポイントに大きな隔たりが見られる。		音楽Ⅰが必修、音楽Ⅱが選択と言うことは音楽Ⅱの方が授業評価のポイントが上がるはずであるのにそうになっていない。学生自らの意志で受ける選択授業であるからこそ、高ポイントを得られるような授業を行いたい。
音楽Ⅱ	麴谷さつき	授業の性質上、授業外での練習も必要となるので、その両立が難しいようです。	個人差が大きいので、必要な課題をクリアしていくのに学生も大変なようです。		基礎的な力の不足している学生が多いので、練習時間もあわせて、課題内容を考えたい。
音楽Ⅱ	佐藤久美子	全ての質問において「3.どちらでもない」に近い評価であったので少し残念に思う。	学生は授業内容について悪くもないが良くもないと思っていると思う。少し授業内容がマンネリ化しているように思う。		学生一人一人と向き合い意見を取り入れ、有意義な授業になるよう努力していきたい。
音楽Ⅱ	杉田清子	全体の平均値を見てみると、1(そうは思わない)が0.0%、2(どちらかといえば)が3.8%、4(どちらかといえば)が16.9%、5(そう思う)が5.9%と低い値に対し、3(どちらでもない)が73.4%と約4分の3を占める。反省すべき結果である。	教員の自己評価と学生評価の差が目立つ。私自身、ピアノの個人指導に関して努力を惜しまなかったつもりだが、昨年より良くない結果となった。	他科目に比べ自由記述の提出が少なかった。授業に対して興味や関心を持てなかった学生が多かったのではないかなと思う。	2年生は1年生から築きあげてきた技術が徐々に身に付き、本来は技術を習得することの喜びをもっと感じていくはずなのだが、今回はそれが一部の学生に留まってしまった。個人指導に終わらず、クラス全体のモチベーションを上げ、学生同士が励まし合える環境を作る努力をしていきたい。
音楽Ⅱ	中東愛子	毎年、設問19の結果が低いのが残念だが、「そうはおもわない」というのが全て0%なので、少しはこの授業に満足してくれているのだろうか。	毎年、学生評価が自己点検評価を下回る結果だが、今回は得に下回っているのが残念だ。	回答がなかった。	学生は、授業に興味を持っているようなので、もっと自分自身で、練習に取り組む時間を増やしてもらいたい。

音楽Ⅱ	野間路代	このクラスは特に評価が低いのが目立つ。ほぼ全ての設問で6割以上の学生が、3のどちらでもない選択している。	教員自体の評価もあまり高くなく、学生、教員ともに士気が低いように思う。	ほとんどの学生が書いていなかった。	人数の多い少ないに関係なく、学生のやる気をおこさせるよう、常にリードしていく立場で指導していきたい。
音楽Ⅱ	吉原千景	教員の努力が学生達にはあまり伝わっていないことが分かる。技術の習得が困難であるのは理解できるが、ピアノは学生自身の日々の努力の積み重ねが大きく影響してくる。それを十分理解していない学生がその責任を転嫁しているようにも思える。	就任1年目につき、前年度との比較が出来ません。		後期は学生達にとって就職採用など、大事な局面を迎え、ピアノも人生を決定付ける大事なファクターになる。ピアノ指導者は指導者としてだけでなく、一人の人間として出来る限り学生と接して、必要とされるならば支えてあげたいと思う。
音楽Ⅱ	向山裕子	すべての設問で学内平均を下回る厳しい評価でした。特に、全設問で3と答えた学生が7～8割と多いのが気になります。	全項目で学生評価が自己評価を下回りました。自身は常に全力で授業に取り組み、必要に応じて歩行も行い熱意を持って真剣に学生と向き合ってきたつもりでしたが、不十分であることがわかりました。		限られた時間の中でしっかりと実力をつけていく為に、一人一人の学生の実情やレベルに気を配りながら学習計画を綿密にして有意義な授業にしていきたいと思えます。
音楽Ⅱ	牧田さやか	全体的に低い結果であったことは残念に思う。特に、問12、問16が低い。どちらでもないという回答が多い事から、授業に対する関心が得られなかったのではないかと思います。	自己評価よりも学生評価が極めて低い。学生に、もう少し授業に対して関心を持ってもらえるように、工夫していかなければいけないと感じた。	回答はなかった。	実習や就職を目前にしている2年生にとって、ピアノは不可欠であるし、学生の間にも苦勞しないと、社会に出てからが大変だという事を常に念頭に置いてもらいたい。
音楽Ⅱ	金香観	学生の態度が非常に悪かったので、評価については言うこともありません。こちらが、いくら様々なことをしても反応のないことは、自己責任と思えます。			学生自身、もっとしっかり、自覚を持ってほしいです。
音楽Ⅱ	中谷孝平	各設問が3のどちらでもないを選んでいることが残念。学生の明確な意志表示の欠如に思えなくもない。	学生が授業を良く理解出来たか？という設問18への教員のポイントが他項目に比べて少々低かった。自らの謙遜であれば良いが、努力の余地が有るのであれば改善したい。		学生が5のそう思うを選べるよう努力したい。
音楽Ⅱ	淡路和子	1の、「そうは思わない」の回答数が全項目に於いて0%である等、予想以上の評価結果だった。教員、学生が同じ時間にアンケートに回答するが、このクラスでは、学生がアンケートに記入するスピードが異様に速いのが気になった。	概ね学生の回答と教員の回答は大差がないように思われる。課題の量と取り組む時間の項目で差が大きいことについて、自習(ピアノ)の必要性をより具体的に説明する必要がある時代になった。	アンケートに答えるスピードの速さと、自由記述枚数の少なさは関連性があるか？少数の自由記述は前向きである。	(ピアノの)課外自習の必要性を学生が納得できるように伝えるのが課題である。
音楽Ⅱ	大森由美子	学生評価と自己評価に大きなずれがあったのは授業の課題量と取り組む時間であった。	問18、19の課題量、取り組む時間の学生評価は低く、自己評価も低め。卒業後のことを考えると努力は必要。		短時間ではあるが、1対1の授業形態を生かし、意識の差を埋めるよう努力したい。
音楽Ⅱ	角野美穂	すべての項目で学内平均を下回っている。	自己評価は学内平均をすべて上回っている。授業内だけで消化しきれない課題を、空き時間に個別指導したり、それぞれに努力しているはずではあるが。		ピアノの実力をつけるために、毎日の練習や前向きな努力はどうしても必要で、学生にも理解を求めたいと思う。ピアノが嫌いになってしまわないように、基礎的なところは繰り返し説明したい。

音楽Ⅱ	久保雅世	全体的に、どちらでもないという回答が目立った。	全ての項目で、自己評価よりも、学生評価・学内評価が低い結果となっている。今後はこの差を縮めていけるよう、努力したい。	たくさんの意見は貰えなかったが、学生の率直な意見が聞けた。	2年次では、個々に応じて課題を与えているが、学生たちには目の前の課題をこなしていくという事だけでなく、将来を見据えて、学生時代に学んだ事が、現場で役立つという意識を持って、課題に取り組んで欲しいと思う。また、それらの事が伝わるような指導を心掛けたい。
音楽Ⅱ	島長恵美	9月の実習、そして近づく就職試験に向けて、少しでも個々の学生の実力をアップさせるべく、熱意をもって指導しているつもりですが、学生の側からは、ただ「難しくて大変だ」という印象に終わっているようで、残念です。	昨年度同期の結果とほぼ同じ又は少し良い結果が出ているようですが、いずれの項目も、学生評価が自己評価及び学内平均を下まわっていました。	大半がひと言程度のもですが、中には、無記名である気楽さからか、学生の素朴な気持ちが書かれているものもありました。	実際に保育者となった学生からは、「学生時代にもっとやっておけばよかった」という声を聞きます。2年生の後期に向けて、そのことを学生にもさらに説明し、学生が自覚をもって授業に臨めるように指導していきたいです。
音楽Ⅱ	中東愛子	「どちらかといえば」「そうおも」が割合多いので、この授業に少しは満足してくれているのだと思う。	自己点検評価と学生評価の差が広がりにすぎている設問が多かった。学生評価の差があまりないのが、喜ばしい。	学生の素直な意見が聞け、今後の参考になるので、いいと思う。	今回はいい結果が得られたと思うので、今後もよりよい結果を残せるよう努力したい。
音楽Ⅱ	吉岡紀子	多くの質問に対して“どちらでもない”という回答が多い。授業の難易度や量、速度、課題に取り組むための時間などになにかしら不満、疑問を持っているように思われる。	教員の自己評価と同じようなバランスであるが、少しずつ低い結果になっている。多くの学生が“どちらでもない”の項目を選んでいるためである。	1,2組と同じく、設備・フロップーについて“役立った”“わかいやすい”という意見が記述されている。学習の意欲がわいてきたと書く学生もいた。	5つの項目を選んだ評価からは読み取れることは限られてくるが、“どちらでもない”と選んだ訳は教員もふくめ、様々な思いがあるはずである。それらを念頭におかかねばならない。
音楽Ⅱ	森脇由紀	音楽ⅠよりⅡの方が学生評価が低い。(全体的に) 問19、取り組む時間～の項目は平均が3.29で、厳しい結果になっている。	問9、自己評価はほぼ満点、ほとんどの先生が5をつけたにもかかわらず、理解度、満足度は4以下であることは残念で、反省しなければいけない。	ますます努力していきたい。	学生が目に見えて成果があると感じられるよう、実感があるよう、具体的に工夫し、実践していかなければならないと思う。
音楽Ⅱ	井後和恵	全ての項目において平均を下回っている。教員側と学生のギャップの差を見つめ直し、学生の求めている物、学生にとって必要な事を改めて考え直したい。	就職を目前に控えた学生という事もあり、目標を持って授業に臨んでいる学生から低い評価を得て反省している。限られた時間の中で、学生が保育士として巣立てる様、課題の出し方等工夫したい。		学生達は他の授業の課題、アルバイト等により、授業外でのレッスンを受講するのが難しくなっていると感じる。この点を踏まえ、なるべく時間内で指導できるよう心がけたい。
音楽Ⅱ	中谷孝平	課題の量、またそれに取り組む時間の不足を学生は書いているように思うが、その量は毎年同じような量で、難易度も同程度であるはず。毎回学生の学ぶ姿勢に疑問を感じる。	実技の授業で、我々教員の側が全員一致で5の“そう思う”を選べたことは喜ばしいことである。		学生評価が5の“そう思う”と各設問に答えられるような授業を行いたい。学生達に音楽Ⅱの授業への有用性を感じてもらいたい。
図工Ⅰ	香月欣浩	全体に学内平均を上まっていたので安心しました。	自分の評価をもっと厳しくする必要があったと思います。	「美術を楽しめるようになった」という意見が多かったため、次は技術や知識を伴うように指導していきたいです。	今後は9月の実習での設定保育でいかにさせるような授業内容も検討していこうと思います。
幼児体育Ⅰ	黒石久昭	授業評価は、昨年より(4.06)少しさがり3.84であった。やはり、こちらの熱意が必ずしも学生に伝わっていないことを反省しなければならない。	昨年度よりも、少し実技内容を増やしたことが、このような結果になったのではないと思う。	体育嫌いの学生には、やはり跳び箱・マット・縄跳びなどの基礎的技能が必要であるとわかりながら、授業にはなかなかついて来れないようである。	実習等で、経験を重ねることにより基礎的技能ならびに基礎的体力の必要性を今後、さらに学生に働きかけて理解させる必要がある。

教育原理	工藤真由美	小規模の演習授業よりも、大教室でのこの原理的な内容の授業で、高く評価していただいたことに驚きを感じている。幼稚園や子どもの具体例を多用したことが一因かも知れない。今後も検討を要すると思われる。	問いの13の「この授業の内容を十分理解した」という回答が高い数値を示していることと、試験の点数とのギャップに戸惑いを隠せない。希望的観測であろうか？	余り多くを記入してくれない状況を如何に改善すべきか検討の余地あり。	学生にとっては、高校までには聞けなかったような話で、それが興味や満足につながったように感じる(難易度の割には)。授業を組み立てるときの参考にしていきたい。
保育学原論Ⅰ	山田秀江	全体的に高い評価を戴いている。難易度のレベルが平均以上になっているのは、授業改善の努力をした結果と思われるので嬉しく思う。しかし、進行速度に関しては平均以下なのでより改善の必要がある。	分かりやすい授業を心がけて、授業を工夫してきたが、まだまだだと思っていた。しかし学生の評価は以外に高く、少しは分かりやすい授業としてとらえてくれていることがよかった。しかし保育の内容は奥深く多彩であるので更なる努力をし、内容が充実しており、難易度のレベルも適切であると学生が思えるようにしていきたい。	自由記述で自己評価もしてもらったのだが、意欲的に取り組めたという学生は内容もよく理解できたと回答しており、意欲的に取り組めなかったという学生は授業内容が理解できなかったと回答していた。	パワーポイントを使って授業を進めていったが、場面が変わるのが速く写しきれなくてついていけなかったという学生がいた。今後板書やパワーポイントの使い方について改善していきたい。
発達心理学	近藤淑子	昨年度に比べて授業内容を平易にしたにも関わらず、学生の授業内容への評価は低く、進行速度、説明の仕方に評価が低かった。授業全体としてあまり手応えを感じなかったこととも関係しているのかもしれない。	昨年度に比べて、学生との間にコミュニケーションをうまくとれなかったことが、昨年比べて今年度の評価が全体として低くなったと思われる。学生とのコミュニケーションなくして、教員の熱意は伝わりにくいと実感した。	多くの記述は得られなかったが、負の意見では板書がわかりにくい、スピードが早い等があったが、授業は楽しかった、子どもの発達の理解が難しいことが分かったという正の意見も見られた。	理解度が低いからといってこれ以上内容水準を下げることはできないと思う。どのようにして学生に理解させるかは至難の業と思うが、根本は学生の授業への動機づけ、知りたいという欲求をどのようにして上昇させるかが大切だと思います。
小児保健	榊原和子	小児保健の教科書の内容をみると、保育に関することはもちろん、母性保健から妊娠・分娩と幅広い範囲であったため、他の講義と重複される部分は割愛した。また、視聴覚教材も活用した。しかし、専門用語が多く、短時間の説明で、学生は理解しにくいところもあつような印象もあり、全体的に妥当な評価といえる。	本年度初回	学生が時々質問をしてくるので、その度に必要な返答をしていたが、いちいち返答しなくても良いという何人かからあった。また、板書で略字を使用したため解りにくいというも含めて、今後注意していかなければならないと考える。	効果的な板書、割愛箇所の厳選に努める。
小児保健実習	中家洋子	学生からは、演習の授業ということもあり、予想以上に良い評価を頂いたと思う。授業は「熱意をこめて、分かり易く」を心がけている。その為に、授業の工夫をしているが、学生に伝わったか不安であった。学生の満足度、技術の向上に役立った等の評価を頂き、今後もさらに工夫をしていきたい。板書は、課題である。	本年度より担当する教科であり、135分の授業を講義と演習でどのように組み立てるかが課題であった。演習では、教材が不十分な面もあり学生には、わかりにくかったのではないが危惧したが、興味や熱意をもって取り組んでいたことが評価から分かった。	何人かの学生より、板書が分かりにくいとの意見があり、今後の課題としたい。演習のグループの班分けを半期行わなかった。学生より班分けをもっと考えてほしいとの希望があった。	演習は、少人数が望ましく、十分目が行き届かなかったこともある。また、グループで取り組むことが多いので、学生個々がグループ内の一員として参加できるような工夫をしたい。
小児栄養Ⅰ	石村哲代	4、5時限と2コマ続きの授業という学生にとっては結構苦痛な時間であったと推察しているが、その割には皆よく頑張って受講してくれたというのが実感である。教員サイドの声の大きさや話す速度、熱意、丁寧さ、静かな授業環境づくりへの努力が学生に伝わったことは嬉しい。	4～5の高い評価をつけた学生が約70%を占めた。一方恐らく同じ学生と思われるが、1～2をつけた者が1名いた。項目は、授業の難易度、進行速度、板書、理解などであった。2コマ続きの授業はさぞ苦しかったと思う。そのような学生がいたことに全く気がつかなかったことを反省している。	残念ながら特筆すべき記述は見られなかった。	今年度初めて、2コマ続きの授業をおこなった。演習とはいえ、講義が2コマ続くこともあったが、学生は良くついてきてくれたと思う。授業の最後にその時間内の小テストを実施したことが、授業に熱心に取り組む意欲につながったように思う。持ち込みなしの定期試験で満点をとった学生が2名いたことは、大きな励みとなる。
小児栄養Ⅰ	奥田玲子	評価点が4.0付近で近似してばらついていて、何れの項目も「どちらかといえば」を含めて「そう思う」学生が7割以上を占めたが、この授業に興味を持たず、また理解が十分でない学生が1～2名いたことがわかった。	学生による評価が自己点検評価を殆どの項目で上回っていた。全体的に評価点の傾向は昨年から大きな変化はなかった。		今後の改善点として、授業に興味をもてない少数の学生の理解度にも配慮したきめ細かな指導が必要と思われる。

小児栄養Ⅱ	石村哲代	実習中心の授業なので、学生は喜んで、前向きに取り組んでくれた。作る楽しさ、食べる喜びを友人と共有することがどんなに幸せなことであるか、この体験を子どもたちの食育指導に生かして欲しいと思っている。	保育学科の学生は、身体を動かして取り組む実習が好きである。高い評価は学生たちのその気持ちを反映した結果と思われる。	「実習が楽しかった、もっといろいろと実習したい」という記述が圧倒的多数を占めた。もう少し専門的な内容に関する感想や、具体的な授業への要望などが欲しいところであるが、そこまで成熟するにはまだまだ時間がかかるように思われる。	今年度は、初めての試みとして、「食べ物」に関する絵本の作成を課題とした。提出までに1ヶ月ほどの期間しかなかったにも関わらず、作品の中には大変に素晴らしいものもあり、改めて学生がもつ潜在的な力に感服した。学生の力を信じて、今後も様々な取り組みを体験させ、食への関心を深めさせていくことを目指す。
小児栄養Ⅱ	奥田玲子	実技・実習の評価点はわずかに4.0を上回った。	今年度は1日に2時限連続で授業を行った。これにより実技・実習の評価と満足度が大きく改善された。	実技・実習によって、楽しく、興味を持って、技術の修得ができたとする意見が多く見られた。	実習のウエイトが高い授業ではあるが、理論面(講義部分)の理解度、満足度をもう少し高められるよう、今後改善していきたい。
乳児保育	福岡貞子	学内平均に比べて、自分の授業評価は大変厳しいのに驚く。学生に人気のある授業とは、どのような授業であるのか?評価No.4,5を合わせて30%以上となる項目は、問1、3、7、9、11、12、15であったことで、学生の授業への興味、担当者の熱意や授業内容・方法への工夫などを理解しているようである。	担当者自身は、どこの養成校でも、同じ授業内容・態度・工夫をしているつもりであるが、学校により学生の受けとめ方、授業評価の違いが大きいことが課題である。	学生は、授業中に注意されるのを嫌っている。授業進行速度が早い。漢字を教えてくれない。などの不満があった。	学生の気持ちや授業理解レベルを考慮し、学生に分かる授業をしたいと思う。
児童福祉	山戸隆也	初めてこの科目を担当させていただき、不十分なところもありましたが、合田先生をはじめ諸先輩方のご指導もあり、大きく崩れることはなかったと思います。どの項目でも改善の余地は多く、意識して改善しようと思います。	教科書を中心とした授業で、一年目はオーソドックスな形をとりました。形式としてはそれでよかったかもしれませんが、教科の内容は大いに興味をもって授業を行っていたので、学生も多少は楽しんでくれていたのかもしれませんが。	ほかに良いところが少ないからでしょうが「親切でやさし」という記述ばかりが多かったと思います。一教員としては、やさしいだけでなくもつ他にも良い点を見出してもらえらるよう、努力しなければなりません。	具体例をもつと出したり、視聴覚教材(ビデオなど)を効果的に用いたりする工夫も行いたいです。最初の3、4回は授業中寝ている、あるいはよく私語をする学生がいなかったのも、できればそのまま最後まで行きたかったです。注意をするようにしていますが、早め早めにそういうことは封じていきたいと思えます。
家族援助論	曾和信一	学生からの評価について、教室の大きさや設備を問う項目への評価が極端に低いという結果になっている。実際、受講者に比べて、教室は狭くて、学生にとって授業環境として不適切であった。	教員による自己評価から見ると、学生評価が総体として自己評価を上回っているという結果になっている。	パワーポイントを用いての授業とその授業内容に見あうビデオ上映について、ある一定の評価が得られた。しかし、ビデオの内容に関する板書について、読みづらいという意見もみられた。	授業内容それ自体について、平易でいて尚且つ質の高い授業を展開していくことができるように、授業の更なる工夫をしていきたい。
社会福祉	合田 誠	例年になく、厳しい評価となっていた。なぜなら設問16問ほぼ全項目で学生評価が学内平均を下回っていたからである。昨年度と比較して全くの逆転現象である。また、項目の中で最も数値が低かったのは「授業の難易度」であった。これは例年もつ思いであるが、授業は厚生労働省が求める内容にほぼ沿っての展開をとっているため、確かに消化・吸収するには相当の努力を要する。そのためどうしても学生から見れば難易度の高い科目にならざるを得ないと思える。	昨年度も記したが、最も力点を置く項目として「大きな声で話す」、「熱意をこめた授業」に関しては自信をもって教員自己評価を「5」と記入した。これに対して学生は「大きな声で話す」については「4」以上の評価をもらったが、「熱意をこめた授業」に関しては「4」を下回っていたのは本当に残念であり、こちらの思いがなぜ響いていないかが課題となった。	自由記述に関しては項目選択の評価とは少し裏腹に「大きな声で丁寧に説明して頂いたのが大変分かりやすかった。」や「内容的に難しかったが、すべて自分の将来のためになる内容であったので受講して良かった。」など記述してくれ大変励みになった。確かに一部は「難しい」、「大変。」など単語を記した記載も見受けられたが、概ね自由記述に関してはプラス記述が多かった。	今後の改善点として毎年、記述しているが、学生の多くが授業内容を修得するためには半期15回の授業だけでは相当厳しいと考える。教授内容を減らして、時間をかけて伝える方法もあるが、それでは伝えるべき内容の半分にも満たない。授業担当者として毎年悩み続けている問題である。

社会福祉 援助技術	合田 誠	1年生とは対照的にすべての項目で学生評価が学内平均を上回っていた。それもすべての平均値が「4」を上回っていたのには驚かされた。しかしながら、この評価をすべて鵜呑みにはできない点がある。社会福祉援助技術に関する教授内容を十分に伝えきれていないのも事実であり、今後の課題となる。	昨年度と比べて、全体評価平均が「4.30」から「4.36」に向上した。そして最も力を入れている「大きな声での授業」や「熱意をこめた授業」及び「質問や発言の対応」に関しては学生にはその思いがよく伝わった評価点となっており、大変満足している。前項でも触れたが、この結果におごり高ぶることなく、常に振り返る姿勢をもち授業に取り組みたい。	記述としては「将来役立つ内容でためになった。」や「分かりやすく伝えてもらい助かった。」などの意見があった。その他取り立てて特記すべき内容の記述はなかった。	授業の持ち駒数の関係で、後期は石川教授にバトンタッチする。通年授業のため複数の教員で担当するのも方法のひとつだが、一人の教員が系統立てて担当するのも当然ある。それぞれ一長一短あるが、現在の授業の過密具合と本学の教員の現状を考えれば、半期セメスター授業にして1人の担当者が担当するのがベターかも知れない。
保育内容人間関係	長谷雄一	全体的には悪い結果ではないが、全体の平均値が4.0以上になるようにさらなる努力が必要だと思った。	大幅な結果の相違はないが、課題がすべて解決されているわけではないので、さらなる努力が必要である。	授業内容については興味を持って貰ったはずである。他の授業とは違う身近な題材と保育との関連については理解しやすかったようである。	授業環境の改善、学生への指導の徹底、わかりやすい教材使用など、課題の解決がある。
保育内容環境	森 宇多子	30名のクラス体制は学生の顔、名前、表情が見られ、学生側としても授業が受けやすかったのではないかとその評価であろう。	クラスによって差はあるが、全体的に授業を受ける姿勢は前向きなので、場の空気をつかむよう努力してきた。	私の園の見学は参考になり、非常によかったと書かれており、又将来は園長を目指す」というのもあった。	学生の気持ちをつかむのは難しいが、より現場の話をとり入れ興味をもてるよう話しの内容を深めていきたい。
保育内容言葉	曾和信一	板書を問う項目について全体の平均値から照らし合わせてもきわめて低い評価となっている。	授業内容の理解を問う項目、進行速度の適切さを問う項目、静かな環境づくりを問う項目について、教員による自己点検評価よりも学生のそれが低いという結果になっている。	ビデオ内容の重要な点を簡条書きにして板書したが、簡条書き故に、内容の連関がつかみにくいという意見が少なからず見られた。	今後、板書の工夫など、学生の指摘した点について留意して授業を行っていきたいと考える。
保育内容表現Ⅰ(音楽)	杉田清子	全体の平均値を見てみると、1(そうは思わない)が0.3%、2(どちらかといえば)が3.3%と非常に低く、4(どちらかといえば)、5(そう思う)で3分の2以上の評価を得たことから、大半の学生が満足している傾向にあることが窺える。	出来る限り計画に基づいて授業を進めた昨年に比べ、本年は学生の様子や課題の出来をよく考察し、課題の内容や量を適宜変更しながら進めた。結果としてシラバスから外れる時もあったが、学生の授業に対する前向きな姿勢に繋がったように思う。	課題の内容(作曲等)が、難しく感じたり、ほぼ毎回課題を出した為に量が多いと感じた学生が多かったのだが、多くの課題をこなした結果それが為になった、理解できた、できるようになって嬉しかったという、前向きな意見が多く、私自身大変励みになった。	教員本位にならず、常に学生をよく見て理解するように心がけることで、学生も授業に参加する意欲が出てくるのではないかとと思う。少数ではあったが授業の内容が困難と感じた学生については早めにサポートしていくことを今後の課題にしたい。
保育内容表現Ⅰ(音楽)	牧田さやか	ほとんどの問が、自己評価より学生評価が下回っている。この事は、少し残念に思う。	この授業は、保育士を目指す学生にとっても得る物が多い内容だと思う。学生評価の問20が高い事から、そのように感じている学生が多い事が分かる。今後も、そのように感じていただけるように心がけたい。	課題が多くて大変という意見が多かったが、その課題をこなす事も大切だが、限られた時間の中で、与えられた課題に取り組む姿勢を持つ事が重要だと思う。その姿勢が見られなかった学生が多かったことが残念だった。	授業に対して関心を持ってくれている学生も多かったが、無気力で提出物等にも真面目に取り組まない学生も少なくなかった。今後、そのような学生にも注意を呼びかけ、全員にとって有意義な授業になるよう心がけたい。
保育内容表現Ⅰ	早川未紗	この授業は課題が多いからか、全体的に学生評価が低いように思います。	全体的に低い結果になっていますが、学生評価の方が上回っている結果になっていますので、少し驚いています。	学生の本音を知ることができるので、アンケートより今後の参考になるので良いと思います。	保育の現場に出た時に学生が困らないよう、充実した授業になるよう、工夫していきたいといます。
保育内容表現Ⅰ(音楽)	金香観	とても驚きましたが、一緒に授業を進めて下さる先生が素晴らしいからだと思います。			後期も同じクラスを担当なので、無事にミュージカルが成功するように努力致します。

表現Ⅰ(音楽)	佐藤久美子	学内平均よりも全体的に少し評価が低かったことが残念である。授業内容に満足していないのではと気になる・・・。	「表現Ⅰ」という授業は一人一人の個性をいかしつつクラスは一つにまとまり、大きな一つの力をつくり上げていける授業であると思う。なので、もっと学生も教員もぶつかり助け合い、一人一人が満足できるように努力していかなければいけない授業だと思う。	教員と学生の距離が少し遠く感じている学生が多いように思う。もっと注意深く一人一人を見ていかなければならない。	自主性の高い授業なので学生にはもっと意欲を持って欲しい。
保育内容表現Ⅰ(音楽)	野間路代	すべての設問において、学生評価が4に満たないことから、もう少し授業の進め方等を考えないといけない。	問15、教室の大きさ等についての設問の結果が大きく開いているのが気になる。問16、20についても同様で、原因を考えないといけないと思う。	感心させられる意見もあったが、学生の自己中心的な意見もあり、いろいろな意見がでて面白かった。	教室の大きさ等については、よく学生との話し合いをしなければいけない。授業の進め方についても、改善が必要だと思う。
表現Ⅱ	香月欣浩	すべて学内平均を下回っており授業中の学生の満足度と授業評価のずれに驚いています。	自己満足になっていたと知りました。猛反省です。	嫌なことはあまり書かないものだと知りました。集計結果がすべてですね。	資料の使い方、課題の多さの評価が低いので次年度は改善しようと思います。
保育内容表現Ⅲ(身体)	谷玲子	学生からはほぼ、どの設問に対しても3.75～3.8の評価を得ている。何が良く何が良くないかの評価が得られないのが気になる。 自由記述にも記入したが、北条校舎の体育館での授業は、かなりきつく、山の上まで上がり、5階まで階段を上り、実技で1時間動くことがとても苦痛だと学生達は訴えるにもかかわらず、問15について、3.65の結果が出ているのが、納得できない。学生の本当の気持ちがかけているアンケートなのだろうか？学生達は機械的にポイントを打っているのではないだろうかとの疑問が沸く。	授業の難易度が適切であったとの回答であるが、あまり深いところまで教えることができていないので、自己評価は、どちらともいえないけれど、学生の評価は、どちらかといえばそう思うようになっており、授業のレベルを下げるべきか悩むところである。	自由記述については、授業が楽しかった、今後に生かせるなどの評価をもらっているの、集計結果との差が気になる。 また、多く寄せられた意見として、北条校舎5階体育館までこの時間の為だけ上がり、授業が終わったら、帰らなければならない事への苦情が多数寄せられている。	内容を吟味し、学生に合わせた授業を行うほうが学生のために良いのか、レベルを上げて行か悩むところである。 保育の学生にとって、1時間のために北条校舎の体育館に来るのは、とてもつらいことだと思う。体育館でなくても出来るので、もう少し負担が少ない場所(保育校舎での授業)を検討したい。
幼児臨床心理学	鍛冶谷静	担当して初年度の授業であり、教員自身も手探り状態で授業を進めてきたことが学生評価にも反映されていると受け止めている。	鍛冶谷は今年度からの担当なので昨年度との比較はできないが、自己評価と学生評価の差はしっかり受け止めて改善を図っていききたい。	心理学に興味のある学生とただ難しいと感じた学生に二分されている印象を受けた。ただ、白紙提出が多いので記入に対するモチベーションを上げるような提示が必要とも感じる。	内容の精選がまず課題であると考え。資料として提示するものについても同様で、興味関心を深めることだけでなく学生の理解を助けるような形、内容を考えなければならないと思っている。
教育相談	森石加世子	自己評価と学生評価がほぼ一致し、全体的に良い評価が得られた。特に、授業内容に関する事項での評価が高く、今後に繋げていきたい。	昨年度より、授業において様々な工夫をしたことが、結果に表れたように思われる。学生の反応や授業態度のよさからも高い手応えを得ることができた。	学生の真意が伝わってくる記述は参考になり、今後の授業に生かしやすい。	授業をすすめるなかで学生から得られた手応えは昨年に比べても高いものであったが、それらが学生の授業評価に反映されていない。評価項目や評価方法の改善が必要と考えられる。
総合演習	合田 誠	昨年度と比べ学生評価はすべての項目において下回った。特に下がった項目は問16の「授業を受講しての学生の満足」が、0.29ポイント低下した。次いで問2の「授業内容が理解できるように説明」が0.27、問7の「テキストやプリント、教材の使い方」が0.26低くなった。	昨年度と同様に担当教員2人の平均値のため、正確なことは言えないが、常に意識している「大きな声での授業」や「熱意をこめた授業」に関しては最も力を入れた項目である。	「虐待の現状と課題」をテーマとし、「現状を知ることによりひとりでも多くの子どもが救われるような取り組みを現場に入りたい。」や「母親へのケアの大切さが分かり、保育現場で活かしたい。」など担当者としては学習のねらいを理解して吸収してくれた感想があったのは喜ばしかった。逆に「7回の授業のため十分理解できなかった。」との感想もあり、学生によっては時間不足を訴えた者の意見も看過できない。	4名の教員が通年でオムニバス方式での授業のため多様な学習テーマを修得できるものの、「自由記述」の感想でもあったように、反面深まりは期待できない。この改善策として授業を半期15回として担当者のテーマを学生が選択する方式をとるならば、それなりの深まりはもてよう。だが、受講者数に偏りがでて、十二分に学習することが困難となることも考えられる。学生に益を与えられるためにはどのような方式をとるのが最良なのか、これが今後の課題である。

総合演習	村井隆之	「学生評価」の平均値(問1～問16)は「3.94」である。この数字から判断して、学生からはほぼ合格点が与えられたと思う。	担当教員の「自己評価」は問1, 問2, 問3, 問9以外のすべての項目で「4」とした。一方、学生評価の平均値は「3.94」であるから、学生評価の方が表員のそれを若干下回った。昨年度はも、学生評価の平均値の方が教員のそれを上回っていた。学生評かが下回った点について、何故そうだったのか、その原因についての点検作業が必要であると思われる。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多くあった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。特に「2」の項目の検討が緊要である。
保育実習 I A	山田秀江	昨年度同様非常に高い評価を戴いた。実習の事前指導なので、講義だけでなく演習も多いので意欲的に取り組んでくれている。それで評価も高いのであろう。	シラバスや初めの授業計画に基づいて授業を進めてはいるが、内容が多すぎて計画通り進まないことが多い。教えなければならないことが多いので、もっと内容を精選し授業計画を見直す必要があると考えている。学生にとっては今の進み方がよいと考えているようなので、私の自己評価とのギャップが大きい。	特になし	今年度は指導案の書き方指導が不十分であったと反省している。文章を書くのが苦手な学生に記録や指導案の書き方を指導するのは本当に難しい。しかし必要なことなので、何とか指導方法を改善していきたいと思う。
子ども文化 II	谷本丹津子	納得しました	学生数は少なかったのに個人差が目立ちシラバスどおりに進むことができなかった	もっとスキルアップしたい学生を伸ばし、現場で活用できるようにサポートしたい	もう少し負荷をかけて早い時期に完成させ達成感を味わえるよう指導したい
子どもの音楽	淡路、早川、野間、岡田	熱心に授業に取り組む学生もいたが、結果を見ると3(どちらでもない)から4(どちらかといえば)を選ぶ傾向があり、表面上では汲み取れない学生の本音を知ることができ、良かったと同時に今後の改善に役立てたい。	昨年度はこの教科を担当しておりませんでした。ただ、全体的に教員による自己評価のほが上回っており、この結果を受け止め、学生の評価を上げるためにはどうすべきか考えることが今後の大きな課題だと思ふ。	手遊びを多く学べて良かったという意見を多数もらい、学生たちが卒業後即戦力として働ける技術を多く学びたいという前向きな姿勢を感じ、嬉しく思いました。	幼児を指導するためのより多くの技術を取得させること、また人形劇などなかなか普段することができない体験をこの授業を通して、たくさん経験し、充実した学生生活を送れるよう指導したい。
子どもの音楽	野間路代	「そう思う」と回答した学生がごく少なかった。学生評価詳細によると、悪い評価も見られる。また、すべての設問において、学内平均よりも下回っている。	すべての設問で、学生評価と自己評価に大きな差があった。教員側からの視点と、学生側とは感じ方が違うのかもしれない。	集計結果と違って、たくさんのよい意見が見られた。しかし、全員が書いてくれたわけではないので、もっと多くの学生の意見を聞きたかった。	集団授業であるとしても1人1人の意見に対応するのが難しくがちであるが、来年度に向けて、そういう部分に気を配って、よりよい授業になるようにしていきたい。
子どもの音楽	早川未紗	全体的に学生評価が自己評価を下回っているのが、残念です。	自己評価が学生評価よりも上回る結果になった。授業内容や進行など、考え、努力していたが、学生には伝わっていなかったようだ。	授業をよくしていく為にはアンケートより、学生の率直な意見を聞ける自由記述を真剣に書いてほしいと思います。	保育の現場に出た時に困らないように、充実した授業になるよう、工夫していきたいと思ひます。
子どもの音楽	淡路和子	教員の熱意の項目では、4.5の回答計が57.1%、学生の熱心度、53.6%、学生の満足度の項目で60.7%という高い評価を受けたのは有り難い。問8板書、問11授業態度の悪い学生に注意し…静かな環境をつくる、の項目はどちらでもないという答えが多かった。板書については演技・演奏・製作など、授業の性質上、又、問11については学生は熱心に取り組んでいたのに注意する必要があまりなかったと推測される。	昨年度と同様、学生が熱心に授業に取り組んだ結果が現れた。	「手遊び」、「劇」について、貴重な経験をしたという記述があった。しかし、教員間の連携、授業担当者以外の教員の行事への参加について、不満の記述もあった。7回の授業回数で「保育祭子ども劇場」での発表まで指導するには、根本的に行事に対して再考する必要がある。	毎年報告しているが、机の無い教室での講義なので「板書」の項目は教員、学生とも、答えにくい。プリント配布などで工夫している。
子どもの美術	峰本克子	満足しています。	自己点検評価はかなり気合を入れた授業を行ったと思ひますので、高くつけさせていただきました。学生による授業評価と合わせてについてもこの様な結果で納得しています。	ほぼ全員から毎回の課題をこなしていくことは大変であったが、作品をたくさん試作できる喜びはこれからの保育士になるにあたって役立つと記述されていてやがいが感じました。	課題の量と時間配分をもう少し柔軟にしてもいかと考えています。

英会話B	井上泰子	全員必修の演習の授業で、基礎学力と意欲にかなり格差があったが、クラスの3分の2の学生がほぼ満足しているようである。前期の担当者がかわり、前年のシラバスを大幅に変更したが、この点での不満はなかった。	毎年、よく似た結果であると思う。授業が有効であったかどうかは、定期考査の結果を大きな手がかりとしているが、本年度の学生については、それぞれが真面目に取り組み、予想以上の結果であったと思う。	難しかったという学生も何人かいたが、楽しかったという感想が多かった。保育者として役に立つ内容だったと評価してくれる学生もいて嬉しく思った。	授業の時間帯にもよるが、学生の意欲を喚起し、緊張感を持続させるのはかなり難しい。学生に関心のある内容を心がけ、教材を精選し、さらに工夫を加えたい。
英語Ⅱ リーディング	井上泰子	通年の選択授業で、後期は5限になったため、4名の受講者であった。ゼミ形式で、親密な人間関係の中での授業であったので、学力差が大きかったにもかかわらず、評価は大変高かった。	前期には、1冊の小説を読むことを目標としてきたが、後期は、学生の希望を取り入れ、毎回、読み切りの短編の物語を数多く読んだ。少人数の授業で、英文を読む楽しさを共に味わうことができたと思う。	いろいろな英語の話が読めて楽しかったという感想が多かった。	通年の授業は、持続力が要求されるので、年度当初の方向付けが大切である。年度によって、受講する学生の資質に大きな違いが見られ、教材や授業形式を学生の実態に即したものと柔軟性が求められると思う。
スポーツⅡ	鎔 功	学生の評価が、20項目全てで学内平均を上回り、よかったと思うが、そうは思わないやどちらかといえばそうは思わないに、各項目に少しいたことを反省したい。	特になし	楽しかったとか、いい意見が多かったが、朝から体を動かすのはつらいや、体育館が遠いなど、学生のわがままな意見もあった。	社会人になれば、こんなわがままを言ってもらえないので、将来的な体力作りに協力していきたい。
スポーツⅡ	黒石久昭	学生からは予想以上に厳しい評価を頂いた。恐らく、専門用語が少し多い為に、理解するのが難しかったことが考えられる。	同じ内容を扱っているのにも拘らず、年々、評価得点が悪くなっている事に留意する必要がある	授業の進め方が早く、板書が追いつかないという意見が少数あった。今後は其の点を注意したい。	授業の理解度を深める為に、専門用語の説明方法ならびに授業進度を学生に確認しながら進める必要があると考えられる
保育者基礎 演習B	淡路和子	学内平均を上回る項目はなかったが、4.5の回答計が全項目が45%~60%以上という評価を頂いた。しかし満足度の項目で1の回答が13%と多かった。結果を来年度の授業に活かしたい。	授業での学生の反応は悪くなかったが、昨年度より評価は低かった。自己表現が苦手にとって、人前でのパオーマンスは苦痛を伴う。保育・教育の現場では必要な要素なので、丁寧に説明していきたい。	「発表は緊張した。自己表現力の必要性は感じているが…」という記述が複数あった。貴重な意見を来年度の授業に反映させたい。	「体と声による自己表現」という授業内容である。クラスによって雰囲気や異なり、それが進度の差に表れる。本年度は例年になくクラス差が大きかった。学生による授業評価を、来年度に活かしていきたい。
保育者基礎 演習B	工藤真由美	学生が一般的に嫌う、文章表現の授業ではあるが、高い評価を頂きうれしい。表現の授業と半分ずつなので、できれば、担当者ごとの評価をいただけるシステムにしていけると、ありがたい。	昨年より上昇してうれしい。	保育者基礎演習という科目内で、文章表現と表現の授業を学習している。内容が大きく異なるのに、評価が1本であることは大変やりにくいという指摘を受け、担当者としても、改善をお願いしたい。	学生の授業理解度の向上が、再試率の低下、再履修者数の低減につながったと思われる。今後理解度のアップに励みたい。
言葉と表現Ⅱ	工藤真由美	学内平均を大きく上回り大変うれしい。ただし、教員の熱意は本人の意識と少ズレが生じて残念であった。	昨年よりも有効回答数が少なく残念である。	授業目標の言葉による表現の豊かさ、児童文学への興味、理解が深まったという意見が相次ぎ、うれしかった。	更に満足度を上げるために、自由記述の記入量などについても言及していきたい。
音楽Ⅰ	淡路、島長、久保、向山、金、角野、佐藤、吉岡、中東、早川、吉原、岡田	平均的に3(どちらでもない)を選ぶ学生が多い中で、「指導は適切だった」と「実技の向上に役立った」という項目は好評価をもらえたことは励みになった。	全体的に学生の評価が教員より下回っており、自分たちの熱意が伝わらなかったことを残念に思う。	課題の量に対して意見が多かった。確かに、ピアノ初心者にとっては経験者に比べて多くの努力を必要とし、それが重荷になることもあると思う。でもなぜこれだけの量をこなさなければならぬのかという意味を実感すれば自ずとその努力も苦にならなくなるのではないか。それを私たちは伝えなくてはいけないと思う。	学生たちは課題をこなすことで手一杯になってしまい、本来この教科を学ぶ意味、必要性を忘れてしまっている傾向にあると感じる。私たちがこの授業の基本目標をしっかり伝えることで、授業に対する不満は少しでも改善されていくのではないかと。
音楽Ⅰ	角野美穂	授業の難易度や進行速度の評価が、学内平均を下回っていた。課題の量が多く、それに取り組む時間が少ないと思っっているようだ。	ほとんどの項目で、自己評価が学生評価をかなり上回っている。考え方に少しズレが生じている。		就職試験や保育の現場で実際に役立つ為に、ピアノの初心者にとって課題の量が多いのはいたしかたないが、内容をよく理解できるように丁寧に説明したい。

音楽Ⅰ	久保雅世	「学生の質問や発言に適切に対応した」という項目では、比較的高い評価を得ていた。1対1の個人レッスンという授業形態が活かされ、一人ひとりにあった指導が評価されていたように思う。	アンケートの項目からは、学生たちは課題の量が多いと感じつつも、技術や知識を習得できたということに、ある程度の評価をしていたと思う。ピアノの技術向上には、日々の練習が不可欠であり、課題という一つの目標を定めることで、“やらなければならない”という意識が芽生え、努力していた学生が多かったように思う。	課題の量に対する、学生の率直な意見が多かった。	ピアノ未経験者にとって、2年間で保育士としての技術を身につけることは、大変な努力と時間を要することだと感じる。学生の目線に合わせてつつも、自信と目標をもって取り組める環境をつくっていけるよう、私たち指導者も努力していかなければならないと思う。
音楽Ⅰ	佐藤久美子	予想以上に学生評価が低かった事に驚いている。授業に対して興味を持ってもらっていると思っていただけに残念だ。	学生評価が学内平均よりも低かったことが気になる。教員と学生の授業の考え方に大きくズレがあるように思う。	具体的な感想等も書かれていて良いと思う。	学生がどの様なところに不満を感じているのか時間をかけてでも向き合って少しずつでも理解していきたいと思う。
音楽Ⅰ	島長恵美	昨年同期の結果と比較すると、学内平均はほぼ同じような結果が出ていますが、学生評価については、ほとんどの項目で昨年を上回っているようです。	学生評価と自己評価がほぼ同じ項目もありましたが、多くの項目で学生評価の方が下回っていました。コード412のクラスに比べて、4あるいは5の評価が多かった反面、「1.そうは思わない」の割合が多いことも特徴的でした。	自由記述は学生の率直な意見が聞けて良いと思うのですが、今年度は、記入した学生が少なかったように思いました。	学生評価の低いものから考察すると、〈難易度のレベルが高い・課題の量が多い・課題に取り組む時間がない〉という学生の思いが見えてくるようです。しかし、今年度の1年生には、ここ数年では見られなかったような前向きな姿勢も感じられました。教員の熱意がもって学生に届くよう、また、ピアノが初心者学生にも現場で通用する力をつけられるよう、これからも努めていきたいと思えます。
音楽Ⅰ	中東愛子	学生からはあまりいい評価を頂けなかった。問20の結果が高かったのはいい結果であると思う。	学生評価が全体的に自己評価を下回っていたのに残念だった。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	学生の課題に取り組む時間をよく考えて、課題を出さなければいけない。
音楽Ⅰ	早川未紗	全体的に学生評価が自己評価を下回っているのが、残念です。	学生評価よりも自己評価が上回る結果になった。この授業は実技授業の為、自分自身が努力しないといけないので、学生評価が低いのは仕方がないことだが、お互いを努力をする必要があると思います。	授業をよくしていく為にはアンケートより、学生の率直な意見を聞ける自由記述を真剣に書いてほしいと思います。	保育の現場に出れるだけの実力をつけたいといけなくて、個々のレベルに合わせてながら、技術が向上するように授業方法を工夫していきたいと思えます。
音楽Ⅰ	向山裕子	全項目においてやや学内平均を下回っているのが気になりますが、全体的には、学生は積極的に授業に取り組み、満足したように見受けられます。	学生評価が全体的に自己評価を下回っていました。特に課題量、それに取り組む時間不足は昨年も問題になった点です。	学生の素直な意見も見られましたが、授業内の限られた時間の限られた時間での自由記述の為か、白紙が多いように思いました。	課題が多いと感じている学生が多いようですが、ほとんどの学生がほぼすべての課題をクリアしています。個人レッスンの授業形態を活かして一人ひとりの学生の学習計画を綿密にたて、学生が高い目標を持って意欲的に勉強できるように指導していきたいと思えます。
音楽Ⅰ	淡路、岡田、島長、久保、向山、金、角野、佐藤、吉岡	教員の熱意や思い、授業の内容や目標を理解している学生が大半であるが、その分課題の量の多さに不満を持っているようだ。また課題に取り組む時間が少ないと感じているようだ。	学生評価が全体的に自己点検評価より低い。特に今年度は実際に例年よりも課題が多く、課題の取り組む時間についてなど評価結果の差が大きい。	団体授業であるため、普段は個人個人の意見をなかなかきくことはできない。課題が多いが、指導する側の思いが届いている人が多く、今後に反映できそうだ。	後期には実技の課題も増え、学生の負担も多くなっているが、予想以上の頑張りをみせてくれた。それに取り組む学生自身の意識を持続して持つよう、指導しなければならない。音楽Ⅱにつなげていけるよう、前期からいろいろなものを視野に入れて指導していきたい。
音楽Ⅰ	吉原千景	学生から思っていた以上の評価をいただけたと思う。このクラスの学生はモチベーションも高く、授業もいい方向に進んだと思う。	就任1年目につき、比較が出来ません。	課題に対してきついという意見もあったが、就職したらもっと厳しいということを学生達は理解するべきだと思う。	歌唱指導にどんな要素が必要かということを見極めて、歌唱指導が出来るレベルの弾き歌いをマスターさせるべきだと思う。

音楽Ⅰ	淡路和子	声楽1名、ピアノは複数の教員で担当。難易度、進行速度の項目で評価が予想より低かった。しかし満足度の項目では、4,5回答の計が66.6%、問20の「技術の向上に役立った」の項目では4,5回答の合計が74%もあり、学生は「課題は厳しいが必要性については理解している」ことが分かった。	問9について、授業に対する教員の熱意の項目で、昨年の担当クラスでは1.そうは思わないの回答は0%であったが、今年度は満足度は低くないものの、回答にばらつきがあった。複数の教員で担当しているので学生の回答対象が複数なのが原因だろうか？教員互いの意見交換を試みたい。	「ピアノ課題が多い」という記述があった。本学はピアノ初心者が多いうえに、実習や卒業後に必要なピアノ技術を考えると課題が多くなる。保育現場でのピアノの必要性を、根気強く伝えるとともに「ピアノ嫌い」の学生をなくすような、ピアノの指導法を工夫する。また「試験時間延長は不満」の記述があった。今年度は授業担当者のみで実技試験を実施したので時間が不足した。次年度は考えたい。	昨年度の結果を踏まえ、課題について教員間の共通理解に努力した。その結果、学生は昨年度に比べ、多くの課題曲に挑戦し成果が上がった。来年度も学生の実力向上に反映できるよう、努力する。
音楽Ⅰ	金香観	学内平均よりも下なのが多いことにあまり満足を得られない授業ではなかったのかな、と思いました。	私の担当した学生は、とても優秀な人が多かったので、個人的には充実した時間を過ごしてくれたのではないかと感じています。		課題がどんどんこなせるような各々に合った指導がよりできれば、と思います。
音楽Ⅰ	大森由美子	学生の評価は予想していたよりも低かった。	全体的に自己評価より学生評価が低かった。	楽しかったと言う感想が多数あった。	ピアノ初心者が多いクラスだったため、基礎的な課題を中心に授業内容を変更する。
音楽Ⅰ	大森、吉岡、角野、牧田、向山、佐藤、木谷、小齊、島長、井後、岡田	講師側のレッスンに対する姿勢に関する項目が他の項目より高く、こちらの熱意を少しでも感じてくれていたと感じ嬉しく思う。	「授業中の技能や実技の指導は適切だったと思う」という項目が一番高い評価をもらったが、講師の技術だけでなく、学生自体の満足度を高めないと、講師と学生の評価の差は埋められないと感じた。	あまり好評価とは言えなかった中で、「学生に合った早さで個人個人レッスンを進めてくれるのが嬉しい」という意見があり、講師全体が学生からそう感じてもらえる指導ができればと思う。	今回の結果があまり好評価とは感じられなかったので、アンケートで初めて学生の意見を感ずるのでは遅いと感じた。もっとこちらから学生の意見を進んで聞き、早めに対処していかないと良い結果は得られないと思う。
音楽Ⅰ	角野美穂	授業の難易度や進行速度の評価が、学内平均を下回っていた。課題の量が多く、それに取り組む時間が少ないと感じているようだ。	ほとんどの項目で、自己評価が学生評価をかなり上回っている。教員の熱意があまり伝わっていないようで残念だ。		学生が授業内容をよく理解できるように、基本的な事柄を丁寧に説明し、学生のやる気を引き出すように心がけたい。
音楽Ⅰ	木谷祐子	全体的に3の評価の占める割合が高いです。また、難易度のレベルと授業の進行速度に対して、苦勞を感じた学生がいることが分かります。しかし、結果的には技能を身につけられたことを良かったと感じているように見受けられます。	全体的に、学生評価よりも自己評価の方が高くなっています。難易度・進行速度に対して、特に評価の差を感じます。	感想等、意見を聞けるいい機会だと思います。ただ、記述のないものも多くみられ残念に思いました。	ピアノ経験の有無等は一人一人違いますので、初心者の学生にとっては課題をこなしていくことは大変だと思いますが、やる気を持たせられるように努力したいと思います。
音楽Ⅰ	小齊由美	学生からは予想以上によい評価を頂いた。しかし全体的に学内平均を下回っており、改善すべき点が多々あることを認識した。	学生評価が全体的に自己評価より下回っていた。	時間が足りないという意見が少数あった。	個人レッスンのため、学生一人一人の授業が有意義になるように努める。
音楽Ⅰ	佐藤久美子	全ての質問において「3.どちらでもない」と評価した学生が圧倒的に多いので、興味が薄いことが分かる。	毎回学生評価が学内平均よりも低い。学生はこの授業の大切さを感じているのだろうか。	具体的な感想等も書かれていて良いと思う。	学生がどの様なところに不満を感じているのか時間をかけてでも向き合って少しずつでも理解していきたいと思う。

音楽 I	島長恵美	昨年同期の結果と比較すると、学内平均はほぼ同じような結果が出ていますが、学生評価については、問1～16で、昨年と同じか昨年を下回っているようです。ただ、問17～20では、昨年より今年の方が良い評価を得ています。これは、学生が、実技の重要性・必要性を少しは理解してくれているということなのかなと思っています。	いずれの項目も学生評価が自己評価を下回っていて、残念です。ただ、学生評価の平均値は昨年度と今年度では大差がないように思いますが、昨年度は、各項目とも「1.そうは思わない」とした学生の割合が5～21%を占めていました。今年度は、各項目について「3.どちらでもない」とした学生が50～72%と最も多く、また「5.そう思う」の割合が、昨年度より10～20%低くなっていました。	自由記述は学生の率直な意見が聞けて良いと思うのですが、今年度は、記入した学生が少なかったように思いました。	学生評価の低いものから考察すると、《難易度のレベルが高い・進行速度が速すぎる・課題に取り組む時間がない》という学生の意見が見えてくるようです。しかし、今年度の1年生には、ここ数年では見られなかったような前向きな姿勢も感じられました。教員の熱意がもっと学生に届くよう、また、ピアノが初心者の学生にも現場で通用する力をつけられるよう、これからも努めていきたいと思えます。
音楽 I	牧田さやか	学生の評価は、比較的低い結果であった。特に、どちらでもないという回答が多かった。	音楽 I は毎年、低い評価である。初めてピアノを触る学生も多く、戸惑いもあるのかもしれないが、実際現場に立ったときに必ず必要となる事なので、前向きに取り組んでもらいたい。		学生にとって充実した授業内容になるよう、こちらも努めていかないとはいけなと思うし、学生も意欲的に授業に取り組んでいてもらいたい。
音楽 I	向山裕子	ほぼすべての項目で 3、どちらでもない と答えた学生が半数以上いました。大勢の教員で授業を担当し、保育祭等で指導形態が変わることもあり、答えにくかったのでしょうか。	全体的に自己評価が学生評価を上回っています。特に問1、「大きな声で」問2、「熱意をこめて」に差違が見られたのが残念です。	限られた時間内での自由記述で、白紙等もありました。役立つなら十分時間をとったほうが良いと思います。	卒業後の保育現場に直接活かせるような授業内容のため、ピアノ初心者にとっては大変かと思いますが、一年間授業や試験にまじめに取り組んだ学生達は、確実に力をつけています。学生達自身がそれを自覚し、意欲的に常に前向きに勉強が継続できるよう、サポートしていきたいです。
音楽 I	大森、吉岡角野、牧田、向山、佐藤、木谷、小齊、島長、井後、岡田	多くの質問に対して“どちらでもない”という回答が他のクラスに比べて多い。授業の難易度や量、速度、課題に取り組むための時間などになにかしら不満、疑問を持っているように思われる。	教員が求める内容の理解、実技の習得に、学生の意識が随分近づいてきているように思う。しかし、学生の“どちらでもない”という項目によって、全体的に評価が下回っている。	記述が極端に少なく、内容もあまり参考にできるものはない。ここからは実技に対する率直な意見を取り入れることはできなかった。	学生、教員ともに“どちらでもない”という項目を選ぶ学生が多かった。実技の教科ということで、質問の解釈を統一する事が困難であったのではないかなと思う。学生の普段の様子を注意深くみるべきだと思う。
音楽 I	井後和恵	学生からは、学内平均程度の評価を得ているが、この授業の個人レッスンという特性を更に活かし、学生一人一人に合った技術指導を行う事により、更に良い授業を提供できるであろう。学生の特性を早く正確に見抜き指導できるよう努力したい。	例年と同じく課題の量、取り組む時間に関して、学生は不満を持っているようだが、全体的に昨年度の一年生より多くの課題をこなす事ができているように思う。しかし、努力しているが進度の遅い学生もいるので、これらの学生には時間をかけてでも、自分の力で楽曲を仕上げる事のできる力を身につけられる様、基本的な事柄の指導を続けたい。	授業内の短時間で記述するため、意見を書ききれない学生もいるようである。前もって自由記述に書く意見をまとめておくよう伝えておけば、更に参考となる意見が得られると思う。	課題の多さに戸惑う学生も多い。しかし、読譜力、運指等、基礎の指導を徹底することにより、与えられた課題をベースに自らのレパートリーを増やしていけるはずである。学生に理想の教育者像を描かせ、課題の重要性、そして何より演奏できる喜びを伝えていきたい。
音楽 I	大森由美子	学生からは良い評価を頂いた。	学生評価と自己評価の値に差はなかったが、問19の課題に取り組む時間・・・のところは学生評価がかなり低かった。	ためになったと言う意見と課題が多いと言う意見が多かった。	ピアノの自主練習時間の確保を徹底するよう指導する。
音楽 I	角野美穂	授業の難易度や進行速度の評価が、学内平均を下回っていた。課題の量が多く、それに取り組む時間が少ないと感じているようだ。	自己評価と学内平均と大差はないが、授業は熱意をこめて行っていると自己評価している点で大きく上回っている。		ピアノの練習は毎日の積み重ねではあるが、なるべく効率よくピアノの練習ができるように、教材や練習方法を工夫していきたい。

音楽 I	小齊由美	学生からは予想以上にいい評価を頂いた。しかし全体的に学内平均を下回っており、改善すべき点が多々あることを認識した。	学生評価が全体的に自己評価より下回っていた。	時間が足りないという意見が少数あった。	課題に取り組む時間が足りない学生には補講を行い、そして自主的に空き時間も使って取り組むように促す。
音楽 I	佐藤久美子	授業態度が悪いクラスであったので、思っている以上に学生の評価が高かったり、興味を持っていていた事を知り、驚いている。	自己評価と学生評価がほぼ比例している。おおよその学生が実技授業の大切さを感じているように思う。	具体的な感想等も書かれていて良いと思う。	学生が社会に出た時に困らないよう、今は大変だと思うが課題の量を増やし、より学生にはレパートリーを増やしてもらいたい。
音楽 I	中谷孝平	学生が、課題の量や、それに取り組む時間の不足を感じていることは残念。自分が何をすべきかを自覚して欲しい。	学生評価と自己評価が凡そ近いものになっていた。		学生には、自分達が2年間で学べること、学ぶべきことを理解して欲しい。それらを自然に理解させる環境を我々も作るべきである。
音楽 I	中東愛子	学生は全体的に積極的に授業に満足したように見受けられる	教員の平均の方が学生のものより高い。特に差がひらいているものについては、よく見直し、改善すべきであろう。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	学生の課題に取り組む時間をよく考えて、課題を出さなければいけない。
音楽 I	早川未紗	毎年課題に取り組む時間のなさを感じている学生が多いように思われます。	この授業は実技授業の為、自分自身が努力しないといけないので、学生評価が低いのは仕方がないことだが、お互いを努力をする必要があると思います。	授業をよくしていく為にはアンケートより、学生の率直な意見を聞ける自由記述を真剣に書いてほしいと思います。	保育の現場に出れるだけの実力をつけないといけないので、個々のレベルに合わせながら、技術が向上するように授業方法を工夫していきたいと思ます。
音楽 I	森脇由紀	自己と学生評価に差が見られる項目もあり、今後の参考にしたい。	毎年、問9は学生と自己評価に大きな差が見られ、今回も同じ結果になっているのが目に付いた。	課題が多い、レッスン時間が短い、という意見があった。課題は確かに少なくないが、実際に今後即役立つものばかりで、前向きに取り組んでもらえるよう、頑張ってください。	決められた時間内に、より大きな成果が出せるよう、努力したい。
音楽 I	大森、森脇、角野、金、中谷、早川、井後、佐藤、小齊、中東、吉岡	全体的に、意欲的に目標をもってこの授業に取り組んでいたように感じた。難易度や進行速度、課題の量とそれに取り組むための時間に関しては、それぞれの感じ方にばらつきがあるようだ。	教員が感じる授業に対する評価と、学生が感じる事が全体的に共通しているようにみられる。しかし、教員が思う以上に負担に思っていることもあり、特に実技の項目に関してもう一度考えてみる必要がある。	“課題に取り組むための時間が足りない”という記述が多い。実技の授業は、授業以外の時間の準備(練習)が重要であるということを確認できていない様子である。実技に対する意識の再確認が必要なようだ。	特に実技に関して、授業内の時間だけでなく、普段の自分の時間を割いて常に継続しなければならぬこの授業を、学生にとって重荷にするのではなく、それらの積み重ねが自身にとっていかに必要か大切なかを、まずは理解してもらわなければならない。
音楽 I	井後和恵	学生からは、学内平均程度の評価を得ているが、この授業の個人レッスンという特性を更に活かし、学生一人一人に合った技術指導を行う事により、更に良い授業を提供できるであろう。学生の特性を早く正確に見抜き指導できるよう努力したい。	例年と同じく課題の量、取り組む時間に関して、となどう学生が多いようだ。全体的に昨年の一年生より多くの課題をこなしているように思う。進度の遅い学生に関して、努力不足の学生に対しては、課題の必要性、努力の見られる学生に対しては、基本をくり返し指導していきたい。	一学年による自由記述は、二学年で指導する上で大変参考になるので、あらかじめ意見をまとめておくよう伝えておき、記述できるとよいのではないだろうか？	課題の多さに戸惑う学生も多い。しかし、読譜力、運指等、基礎の指導を徹底することにより、与えられた課題をベースに自らのレパートリーを増やしていけるはずである。学生に理想の教育者像を描かせ、課題の重要性、そして何より演奏できる喜びを伝えていきたい。
音楽 I	金香観	自己満足の学生が多いと感じました。	今までで一番問題のあるクラスでした。どういつもりで大学に入学してきたのか聞いてみたいくらいでした。		授業云々よりも、学生自身の自覚と責任をよくよく感じてほしいと思います。

音楽Ⅱ	大森由美子	学生からは良い評価を頂いた。	学生評価と自己評価の値に差はなかつが問15の教室の大きさ・・・のところは低い事は今後の課題である。	ためになったと言う意見が多かつた。	
音楽Ⅱ	木谷祐子	3～5の中でほぼ評価がされています。テキストやプリントの使い方、興味を持って取り組めたか、将来必要な技能の向上に役立ったか、等の項目で高い評価が出ていることは良かったと思います。	自己評価と学生評価に差がない項目も多くありますが、課題の量とそれに取り組む時間の項目で学生評価が低くなっています。	感想等、意見を聞けるいい機会だと思います。ただ、記述のないものも多くみられ残念に思いました。	課題については自ら目標を立てて、積極的にこなしている学生もいます。ピアノが苦手な学生にとっては課題をこなすのは大変かもしれませんが、練習の方法などもアドバイスしていきたいと思います。
音楽Ⅱ	杉田清子	学生評価詳細を見ると1や2の低い評価の学生はほとんどいないが、全体平均が3.7で大変低い。	ほとんどの項目において自己評価が学生評価を上回っていた。去年の結果より差が広がってしまったように思う。	一年を通して満足いく技術を身につけ、定期演奏会などで自信をつけた学生もいたようだが、時間と課題の量とのバランスがうまくいかず不満を感じる学生もいた。	学生のレベル、反応をしっかり見た上で授業の進め方を工夫するなど、学生に対する姿勢を見直さなければならない。
音楽Ⅱ	中谷孝平	学生評価と自己評価が凡そ近いものになっていた。但し、熱意がもう少し伝わって欲しかった。	学生評価と自己評価が凡そ近いものになっていた。		我々と学生達との意識の差違が少しでも無くなることを目指したい。
音楽Ⅱ	野間路代	「どちらでもない」を選択している学生がほとんどの設問で50%を超えている。	ほぼすべての設問で、自己評価のほうが学生評価を上回っているが、大きな差はない。	書いた学生が少なかつたため、あまり参考にはならなかつた。すべての学生が必ず書くようにしてはどうかと思うが・・・。	就職試験に際し、大変必要であり、意味のある授業であるので、学生のためになるような、また、今後十分役に立つような、新しいことを取り入れないといけない。
音楽Ⅱ	吉原千景	学生には教師の熱意を予想以上に理解してもらえたと思う。そして、一生懸命取り組んでくれたと思う。	就任1年目につき、比較が出来ません。	しんどかつたという意見もあつたが、楽しかつたと書いてくれた学生もいて、頼もしく思えた。	なぜ、このように多くの弾き歌いのレバートリーを要求されるか理解したうえで、就職先での歌唱指導に困らないレベルの弾き歌いを各学生に応じて指導できたらと思う。
音楽Ⅱ	金香叡	とても積極的なクラスなので、毎回の授業も充実しているように感じていたのですが、思っていたよりも評価が低いかな、と思いました。	昨年と同じクラスを持ちましたが、とても真面目な学生が多く、授業はやりやすかつたです。就職の決定率も良かつたのではないかと考えています。		学生もいかに上手に興味を持たせて引張っていくのがどれだけ大切が分かりました。
音楽Ⅱ	大森由美子	学生の評価は予想していたよりも低かつた。	全体的に自己評価より学生評価が低かつた。	楽しかつたと言う感想が少しあつた。	
音楽Ⅱ	木谷祐子	全体的に評価が大変低いです。学生によって、感じ方に大きな差があつたのではないかと考えられます。	自己評価よりも学生評価が随分低くなっています。	感想等、意見を聞けるいい機会だと思います。ただ、記述のないものも多くみられ残念に思いました。	全体的に教員側と学生側の感じ方にズレのある結果となつてしまいました。一方通行の指導にならないように、一対一の良さを活かしてコミュニケーションを取りながら、学生が授業を受けて良かつたと思うことができるように考えていきたいと思ひます。
音楽Ⅱ	佐藤久美子	全ての質問において「3.どちらでもない」が目立つ評価であつたので、少し残念に思う。	学生は授業内容について悪くも良くもないと思つている。少し授業内容がマンネリ化しているように思う。		学生一人一人と向き合い、意見をとり入れ有意義な授業になるよう努めていきたい。

音楽Ⅱ	杉田清子	どの項目もほぼ同じ値で、平均値が3を下回る、過去に例を見ない結果だった。	すべての項目において自己評価が学生評価を上回っていた。この授業の自己評価は担当教員全員の平均であるが、私自信反省すべき課題が多く残ったと思う。	学生評価で3(どちらでもない)をつけた学生がどの項目もほぼ半数あり、また自由記述がほとんどなかったことは、学生が興味を持って授業を受けられなかった結果であると思う。	複数の教員で持つ授業なので、教員一人一人が全体を把握できるように常に情報交換をしていきたい。その上で授業の進め方を工夫するなど、学生に対する姿勢を見直さなければならない。
音楽Ⅱ	中谷孝平	学生評価が概して非常に低調なことが残念。	自己評価は、クラスごとにそれ程変わらないはずなのに、学生評価との差に驚いている。		学生各々が自分に今、何が必要かを理解してもらえらる授業を考えないといけない。
音楽Ⅱ	中東愛子	学生の評価があまりにも低いのが残念だ。	学生評価が全体的に自己評価を下回っていたのに残念だった。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	ピアノのレッスンは個人レッスンなので、1人1人の学生のレベルに応じた課題を出していきたい。
音楽Ⅱ	吉原千景	学生のモチベーションの低さに困ったクラスであった。それがこのアンケート結果に反映されていると思う。	就任1年目につき、比較が出来ません。	特にありません。	なぜ、このように多くの弾き歌いのレパートリーを要求されるか理解したうえで、就職先での歌唱指導に困らないレベルの弾き歌いを各学生に応じて指導できたらと思う。
音楽Ⅱ	大森由美子	学生からは良い評価を頂いた。	学生評価と自己評価の値に差はなかつが問9の熱意を込めて…のところは自己評価が上回っていた。		
音楽Ⅱ	久保雅世	全体的に「そうは思わない」と回答した学生は少なく、比較的高い評価を得ていたように思う。しかし、問11の項目では、「どちらかといえばそうは思わない」と回答した学生が多く、授業に集中できる環境作りを心がけたい。	自己評価と学生評価で大きく差が開いていた項目は、課題の量や、それに取り組む時間についての項目であった。学生の中に、自分のレパートリーを増やし、練習する習慣を身につけて欲しいと思う。	学生の素直な意見が聞けた。	定期演奏会では、一つの目標に向かって、それぞれが演目に取り組み、素晴らしい演奏会ができたと思う。一方で、通常授業では目標や目的を持って課題に取り組んでいる学生と、そうでない学生の差が大きかったように思う。試験のためではなく、将来のために意識をもって取り組める指導を心がけたい。
音楽Ⅱ	麴谷さつき	全体的に教員の評価の方が高く、学生は平均して「どちらかといえばそう思う」との回答が多いようです。	毎年、実習や就職後に対応できるような課題を考えているが、課題を勉強する練習時間が不足しているように思われるので、対策を考えたい。		能力的なことよりも練習不足が原因で、課題を進められない学生の指導に頭をいためています。授業以外にも練習が特に必要な科目なので、対策を考えたいと思います。
音楽Ⅱ	中谷孝平	学生評価と自己評価が凡そ近いものになっていた。但し、熱意がもう少し伝わって欲しいかった。	学生評価と自己評価が凡そ近いものになっていた。		我々の熱意が、学生達への押し付けではなく、自然に感じてもらえるように努力したい。
音楽Ⅱ	中東愛子	学生からは予想以上に良い評価を頂いた。	学生評価と自己評価が全体的に同じくらいであった。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	ピアノのレッスンは個人レッスンなので、1人1人の学生のレベルに応じた課題を出していきたい。
音楽Ⅱ	大森、井後、麴谷、久保、吉岡、中東、中谷	多くの学生が授業に満足して取り組み、技能を習得し、授業の内容を理解できたと考えているようだ。しかしその中で“どちらでもない”という項目を選んでいるものも目立つ。	授業内容の理解、実技の習得について、教員が求めるものに学生の意識が随分近づいてきている。他のクラスと比べて教員の想いがしっかり伝わっているように感じる。	実技に取り組んでいく上で、担当制であることが学生たちの技術の向上につながったようだ。今後、さらにたくさんの曲がひけるようになりたいとも記述している。	学生の授業評価の回答や自由記述にあるとおり、学生・教員ともにより関係で授業をすすめることができたように思う。更なる意識の向上をめざし、現場につながるよう導いていかねばならない。

図工Ⅱ	香月欣浩	学生からは思っていたよりも、いい評価を頂いた。	態度の悪い学生には持続的に注意して他の学生への迷惑をなくしたが、学生のアンケート結果はおもったほどのものではなかった。	嫌いだった美術の苦手意識が減ったという意見がいくつもあった。今後もそういう授業を展開していきたい。	実習に行くまでにやっておきたい内容、現場ですぐに使えるもの、将来役につもの、バランスよく授業内容を再構成するように努めます。
幼児体育Ⅱ	鎗 功	学生からいい評価をもらった。特に、授業では大きな声で聞き取りやすい速さで話すように心掛けた。や、授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。の項目で、いい評価をもらった。	特になし	これからの実習や現場で役に立つ内容であったという意見が多く、よかったと思う。	改善点というよりも、これからも現場で役立つような内容を、取り入れていきたいと思う。
保育者論	川越佳子	こちらの熱意は伝わっていても、問13の授業内容の理解という点で難しく感じる学生もいたので見直したい。	昨年度、板書をもっと詳しく書いてほしいという指摘があったので、より詳しく書いたつもりだったが、尚一層の改善が必要と思われた。		理解度をチェックする為にも、授業後に学生にコメントを書いてもらう機会を多くしたい。
保育学原論Ⅱ	山田秀江	今年度も理解・難易度において平均より低い評価であった。しかし、進行速度は平均より上回っており、学生の希望に少しは応えられたようである。	進行速度については配慮したつもりでいたが、自由記述の中に「早くて書けなかった」というのがあり、もっとゆっくり進むべきなのかと思っていた。しかし、全体的にはよかったということがわかった。	昨年度よりは理解できたという記述が多かったので、少しは改善できたと感じた。しかしまだまだ内容理解が難しい学生もいるので、より分かりやすく改善していきたい。	来年度も難解な表現をできるだけ平易にして伝えたり、主体的に取り組めるようグループ課題を与えたりして、理解度が深まるよう努力したい。
教育心理学	家島明彦	平均だけ見ると学生評価は割と肯定的な評価になっていたが学内平均からしたら低めであった。個別の分布を見ると、数人は否定的な評価をしている学生がいることがわかる。全員にとって満足度の高い、ちょうど良い進度の授業は不可能であるとわかってはいるが、授業について来れなかった学生のためのフォローが必要だったかもしれない。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていたが、「熱意」に関しては下回っていた。思っていたほど熱意が伝わっていないのが残念であったが、仕方の無いことであるとも思う。いかに学生と教員の温度差を埋めるかが課題として残された。	おおむね肯定的な評価であったが、たまに早口だという意見と、私語をする学生をもっと厳しく注意してほしいという意見が複数見られた。毎度注意していたらきりが無いので、学生同士で注意しあえる環境作りが重要だと思われる。	1限・2限という時間帯による眠さがあったようだが、授業内に実習などを増やして眠くならない授業構成にするとともに、注意も含めてもっと学生との授業内コミュニケーションを増やしていきたい。
発達心理学Ⅱ	近藤淑子	受講者数も少なく、選択科目であるので授業への関心度は基本的に高いと思われるので、評価の得点は高めになって当然であると思われる。主席率もよく最後まで放棄しなかった学生は一時間目にも関わらず遅刻もなく熱心な態度であった。	幾つかの分野からの課題を行なったが、分野によっては理解の困難なときもあったので、難易度に関する項目は予想通り評価は低かったといえる。	おおむね興味を持って授業に参加していたように思われた。	必修科目の多いカリキュラムの中での数少ない選択科目なので、学生への授業への熱心な取り組みの姿勢がうかがわれた。ただ学生の希望の全てをかなえることが出来なかったのが残念と思いました。
精神保健	中家洋子	学内平均とほぼ同じか少し下回る結果となり、授業中の学生との信頼関係や授業コントロールができなかった結果だと考えている。項目すべてに、「そうは思わない」と1を付けた学生と「そう思う」と全てに5を付けた学生がおり、評価に開きがあり、授業の満足度では課題が残された。	はじめて担当する教科であり昨年との比較ができないが、日頃聞きなれない専門の疾患などもあり、教科書でなく資料配布での授業は難しさがあったのではないかと反省している。	約半数の学生しか記載していなかったが、「精神保健が保育にとって重要であると思った」「授業は具体的で面白かった」との意見があり、授業の目的が試験の結果とともに理解されていることはうれしかった。「授業中、うるさくて聞き取れない」「もっと、注意してほしい」と授業中の学生の私語など授業のコントロールには課題が残された。	机は指定された場所で受けること、私語は禁止など、授業中の学生とのルールを堅持するべきであったと反省している。次年度は担当予定でない。

小児保健	吉井珠代	全般的に学内平均を下回る結果がでた。当該科目は医学、看護など覚えなければならない専門知識が多く、私自身、沢山のことを伝えようと早口で説明を加えたため、学生が悲鳴を上げたのだと反省している。	後期から担当、今回は初めての授業です。	数名であるが、「母子健康手帳を使用した授業がよかった」と好意的な記入をしてくれた半面、別の数名は、「難しくて何を話しているか理解できなかった」とのことである。	学力にかなりの差があり、満足感をもった学生は少数のようである。看護や応急手当の説明以前に、身体機能や病気についての基礎知識が乏しい学生が大半を占めるため、次年度は進度を遅くさせて、ビデオ教材を多く取り入れるなど、わかりやすい説明を工夫しなければならないと考える。
小児保健実習	榊原和子	学生からは予想以上に良い評価を頂いた。特に、“自分が親になった時”を意識して講義をすすめたため、理解を得られやすかったのではないかと考える。	今回が初めての授業です。授業回数の後半から、板書後すぐ説明に入るのではなく、多くの学生がノートを取ったことを確認してから説明したことが評価につながったと考える。	学生は、授業中の講義内容等をもとに、多岐に渡り質問をしてくれ、良いコミュニケーションの機会となった。	135分授業は、初めてのことであり不安があった。しかし、前後半の二部形式を意識したことが、学生の理解を深められた一因と考える。しかし、今年度は、自身が板書を課題としていた為、今後継続してゆく。
小児栄養Ⅰ	石村哲代	総体的には、比較的高い評価を得たが、授業のレベルの適切さ(5)、板書の適切さ(8)についての評価が低かった。年々レベルを下げているので、下げ過ぎた結果なのか、下げ方が足りないのか、改めて学生の反応に注意して、適切な改善を図る必要があろうかと考えている。	教員は、常に熱意をこめて授業をおこなっているのですが、当然自己評価は高くなってしまいが、学生の評価はいつも教員の評価よりも低い。当方の自己満足になっている点があることを反省しなければならない。今後学生の反応に留意して、当方の熱意が伝わるような授業を心がけたい。	今年度は実施前に、『良いことでも悪いことでもよいので必ず1行は記述すること』を求めた。その結果全員からコメントが得られたが、特記すべき記述は見当たらなかった。	今年度から、授業が2コマ続きの4、5時限目ということで、学生の意欲を持続させるため、授業の最後に毎回小テストを実施した。これは思いのほか功を奏し、学生は前向きに授業に取り組んでくれたように思う。しかし正確な解答を求めるために必然的に板書が多くなり、これが学生の板書に対する不評を買ったのではないかと推量している。
小児栄養Ⅱ	石村哲代	実習中心の授業であるため、身体を動かすことが好きな保育の学生たちの評価は総じて高い。設備(15)を除く殆どの設問において、学生評価の方が教員評価を上回っている。実習授業への満足度が高いのは例年のことである。	授業の難易度(5)、授業への熱意(9)、内容の理解(13)への評価で2～3人の学生が『どちらかというそうは思わない』と回答。授業のレベルが低くて満足していないのか、難しく満足していないのか、今後明らかにしていく必要性を感じている。	小児栄養Ⅰと同様に、実施前に必ず1行以上の記載を求めた。全員が実習が楽しかったという回答であった。	小児栄養Ⅰでの理論をベースにしてⅡでは食育を中心に実習、媒体作りなどを課題とした。ハードな内容に学生は良くついてきてくれたと思う。全体的に欲張った内容となっているので、今後は少しゆとりのある授業を心掛けたいと思う。
障害児保育	曾和信一	16に亘る質問項目すべてが学内平均を上回っているも、板書の適切さ及び内容の理解を問う項目については、他の質問項目よりも低い評価となっている。	教員による自己点検評価から見て、すべての質問項目で学生による評価が自己評価を上回っているという結果になっている。	板書へのクレームが散見され、更に工夫の余地があると痛感させられた。	パワーポイントの使用に工夫を重ね、平易な表現に心がけるとともに、授業内容の理解の深化を図っていきたいと考える。
人権保育	北田陸夫	学生による評価は平均値4.15と全項目について学内平均より上回っている。しかし、いちばん高評価で4.25、低評価で4.03となっていることから、学生の授業にかかわっての興味、関心を一層高めるべく授業研究の必要性を痛感する。ほとんどの学生が授業についてよく理解しているが、ごく一部の学生に限っていえば、前向きにやる気をもって授業に臨んでいるのか疑問をもつことがある。	今年度の授業は2年目に入り、昨年度の反省を加える中で授業に取り組んできた。しかし、ごく一部授業態度の悪い学生への注意が足りなかったことについては、次年度一人ひとりの学生をよく理解し、教材研究を深めることを通して全ての学生が授業に参加できるように努めていきたい。学生のニーズに応える授業内容にすべく事前の授業研究も深めていきたい。	学生からの自由記述では授業に対する取り組みが、それぞれ具体的に記述されていて参考になった。授業が面白く、楽しく分かりやすかった。また、人権教育で学んだことを保育現場で実践していきたいと力強く語っている学生がいることに感動した。そして多くの学生から保育(子育て)に「やさしいまなざしと語りかけ、笑顔を」「やる気と思いやりをもった子」を話してきたことの大切さをよく理解してくれているようであった。	2年目、短大での授業を終え、現代の学生気質が少しずつ理解でき、このことをベースに、個々の問題点をしっかり分析しつつ、学生と真正面から向き合っていきたい。学生との信頼関係をもち、授業を通して感動体験(exおや！わかった！もつとやりたい！わあ！すごいなあ、ああ、よかった！)を味わいつつ一人ひとりが楽しく学べるよう授業研究、教材研究に一層努力していきたい。教育は「共育」であることに徹していくことも大切だと感じている。

乳児教育	福岡貞子	①毎年思うことであるが、学内平均が高いのに驚く。②全体的に昨年より評価が高い。③学生の評価が高い授業が、大学の授業として良い授業とは限らない。	①学生の評価が板書以外は、3以上であり本年度の学生は乳児保育の授業方針を理解していると考え。②毎年、評価の良い項目は、問1、問4、問7、問9、問11などであるが、その中で特に問4―授業の準備と工夫、問7―テキストやプリント、視聴覚教材の使い方、問9―授業は熱意をこめて真剣に、などの評価は学生に伝わっていることを実証している。	2年生の通年授業であるので、保育者として必要な保育に関する具体的な事例を取り上げた努力が評価されていた。また、授業の最後の10分間のミニレポートで乳児保育の理解が深まったと評価している。	学生には授業態度を厳しく指導するが、最終的には本授業の大切さを理解していると思っている。
在宅保育	真下摩里	今期から担当させていただき、初めての取り組みで、どのような評価がでるかと思っていたが、まずまずの評価であったと思う。	教科の内容がより理解できるよう、たくさんの資料を作り、ビデオなどの教材を準備して授業に臨み、努力したつもりであったが、どの程度理解できていたのか、掴めないところがあった。	ベビーシッターの仕事内容が、より詳しく知ることが出来てよかったという意見が多かった。また、実技を取り組んだのが良かったという意見も多かったが、授業の進行が早くて難しいという意見もあった。	教科内容が多く進み方が早いという意見があり、理解できない学生も見られたので、ポイントをおさえて進めていきたいと思う。また遊びの実技を最後に取り入れたが、授業に関心を持たせるよう、さらに工夫したいと思う。
社会福祉援助技術	石川肇	授業中の私語に対して十分に配慮できなかったことに対する厳しい評価をいただいた。授業方法に工夫が必要であると思った	初めての担当で比較できない	障害者の具体的支援方法や支援を展開する根拠を詳しく伝える授業を心がけたが、その趣旨を多くの学生に理解していただけたと思う	授業に望む姿勢とその結果について自己責任があることを伝えてきたが、それがうまく理解されなかった様であったので、授業方法を工夫する必要があると感じた
養護原理	川出朋子	思っていたよりも良い評価を頂きありがたいです。	昨年と同じく「板書は適切であった」の項目が一番低い。「文章で書いてくれ」との学生の希望はあるが、「ノートをとる」のも練習と思い、頑張っ欲しい。	メカオンチな所は直したいと思います。本当に良く見ているなと思いました。	より良い板書について考える。ビデオ関係に強くなる。
養護内容	合田誠	評価全体では学内平均を少し上回っており、教員自身の評価と比較しても一部の項目を除き、少し数値が上回っていることから、一定の評価を受けているといえるのではないかと。ただ、最も低い評価を受けたのが「授業の難易度」の項目であった。これも例年苦慮するもので、厚労省が求める一定の水準を維持するために学生の有する能力とのバランスをどのように取っていくかが課題となっている。	昨年の全体評価では「4.08」で今年度は「4.03」と低下した。最も低い項目が前述したように「授業の難易度」の「3.85」である。さらに、昨年度との違いでいえば、昨年度は評点が3点台だったのが、この「授業の難易度」のみであったが、今年度はこれ以外に5項目が3点台の評価となっている。ちなみに評点の低い評価項目は「授業内容の理解」、「授業への興味」と続いている。授業が分からないという流れが見え隠れしている。授業内容の軽くて対応すべきであるが、一定水準からの低下も同時に招くことが「諸刃の剣」となる現実に苦慮する。	今回は事前に思ったことは素直に書くようにと指示したこともあったか、例年になく沢山既述してくれた。しかしながら、耳を傾けるまでに至る意見はなかった。多くが「分かりやすく説明してくれ施設の理解に繋がった。」が中心であった。評点結果と自由記述の違いから本音と建て前が感じられた。	毎年同様の反省となるが、授業内容が理解しやすくなる方法のひとつに開講時期を施設実習終了後に開講できれば、理論と実践の両面が見てくるため、現在のような感想等は出てこないのではないかと考える。ただ、時間割の移動は容易くないことは十分承知しているため、次回の時間割変更の際に提案させていただくとして、現状は少し授業の内容を軽くして当面対応する方法を取らざるを得ないと思う。
教育課程総論	馬場耕一郎	妥当な評価だと思います。	自己評価とかけ離れた所があるので次回は、しっかりと説明責任を果たして行かなければならないと感じた。	真実や社会人として必要な対応を伝えるときつく感じるようであった。	評価は真摯に受け止めるが、信念を曲げず、迎合せずに必要な知識、対応ができる力を無理なく身につける授業の工夫をしたい。
保育計画論	曾和信一	学生の授業評価の結果は全体的に高くなっている。もっとも、この科目は選択授業という関係で、有効回答数が15と少なく、判断を保留せざるを得ない側面もある。	教員による自己評価に比して、学生による評価が高くなっているも、傾向としては昨年度と同様である。	特に、問題点を指摘した自由記述はみられないという結果になっている。	今後とも、多様な教育機器を用いて授業を行うとともに、学生の興味関心のある保育技術の開発にも取り組んでいきたいと考える。

保育内容健康	黒石久昭	学生からまずまずの評価ではないかと思っている。	1年時に乳児期(1歳未満)の発達の概要を少しやっている為に、授業の進め方が理解できているからではないかと考えている。昨年度とほぼ同じである(3.8)	授業内容が少し難しいと感じている学生がいるので、其の点を今後考慮していく必要がある	視聴覚教材を使用している授業を考える必要がある。
保育内容環境	森宇多子	30名のクラス体制は、学生の顔・名前・表情が見られ、学生側にとっても授業が受けやすかったと思う。その評価であろう。	授業をどう進めるか、毎時間の課題にしていた。そのため自己評価が学生より上回ってしまっている。前向きに授業を受けている学生は多く、場の空気をつかむよう努めた。	内容はほとんど自園の見学について書かれており参考になったようだ。又「先生のように園長で大学で教えられるようになりたい」などの記述もあった。	シラバスに沿うことを意識するが、現場の話になると全学生の目が変わり聞く姿勢になるため今後も保育現場の話をしていきたいと思っている。
保育内容総合表現	杉田清子	学生評価の平均はすべての項目において4以上の評価を頂いた。とりわけ問16では90%以上がこの授業を受けて総合的に満足している、問20では95%以上が技術や実技の向上に役立ったと回答していることについて、大変嬉しく思う。	自己評価の低かった問11では、学生評価平均が4以上であるものの比較的低く、私語や態度の悪い学生に十分な指導が出来ていなかったといえる。	ミュージカルを台本から創る大変さや、その過程での意見の相違や焦り、緊張などを経験しながら、1つのことをみんなで成し遂げる喜びや達成感を味わい、成長を実感したようだ。	今後、授業態度や私語については徹底的に指導していきたいと思う。学生自身がお互い注意し合える環境を作ることが理想的だ。
保育内容総合表現	牧田さやか	全体的に高い評価をいただいている。この授業は、学生が自分たちで2月の発表に向けて1から作り上げていくものなので、学生にとっては非常に得るものは大きかったと思う。	自己評価よりも、学生評価の方が下回っている間が多いものの、全体的には同じぐらいの評価である。問11に関して、自分自身では静かな環境を作ることができたか不安だったが、学生からは高い評価をいただいていたので、よかったと思う。	学生にとって心に残る授業になったと思う。よい意見をたくさんいただいた。	学生同士ではなかなか意見しにくいという意見があった。人前では積極的に言えない学生もいると思うので、言いやすいような環境を作ることが必要と感じた。
保育内容総合表現	金香叡	とても高く評価してくれて、学生自身もきつと手応えのある授業内容だったのではないかと思います。	私は表現の授業を初めて持ったので、迷う子ことも多々ありましたが、一緒に受け持った先生にたくさん助けて頂き、無事に授業を終えることができました。		こちらがどんどん積極的に雰囲気盛り上げていけばやる気のなかった学生もいつの間にか巻き込んで充実した授業になると実感しました。
保育内容総合表現	早川未紗	3, 4, 5の回答をしてくれているので、全体的に授業を満足してくれているように思います。	学生評価が自己評価を上回っている。この授業を受けて満足してくれているように思います。	授業をよくしていく為にはアンケートより、学生の率直な意見を聞ける自由記述を真剣に書いてほしいと思います。	保育の現場に出た時に困らないように、充実した授業になるよう、工夫していきたいと思えます。
保育内容総合表現	中東愛子	この授業は実践的な授業で、学生にとっては、とても大切なものだと思うが、評価の「どちらでもない」を選んだ学生が多かったことが気がかった。	いくつかの質問について、自己評価よりも学生評価のほうが上回っているものがあつた。	学生の率直な意見を知ることができてよかった。	学生の意見も尊重しながら授業を進めていきたい。
保育内容総合表現	野間路代	ほぼすべての設問で、「そうは思わない」「どちらかといえば思わない」という悪い評価を選択した学生は0%であった。「そう思う」と回答している学生が50%を超えている設問が半分以上であった。	いくつかの設問を除いては、学生評価が自己評価を上回っている。大きく上回っている設問もいくつか見られた。	数人の学生がよい意見を書いてくれたが、やはり、全員が書くようにしたほうがよいと思う。	学生からよい評価をいただいたことはうれしいが、来年度の学生も同じように満足がいくように、授業内容等、見直していかないといけないと思う。
保育内容総合表現	香月欣浩	思っていたよりも学生の評価が低かった。	ほとんどの項目で教員の評価より学生の評価が低かった。認識を新たに改善していく必要があると考えている。	学生の主体性を第一に考え、余計な口出しを控えたが、来年はもう少し関わっていった方がいいと考えております。	あまり口出しすぎるのはよくないと思うし、ほっておきすぎるのも問題だ。そのバランスよいかかわり方を目指していきたいよう努力します。

保育内容総合表現	谷玲子	<p>学生からは予想以上に低い結果をいただき、困惑しています。</p> <p>(右セルからの続き) 大学生になってまで、クラスの仲間に気を使い自分の意見が述べられない、向上心を持っている学生が陰に隠れてしまっているの、それを解消しようとも努力はしたつもりです。アンケート結果から見ると、それらの学生が少数であったことも良くわかりました。レベルが低いほうに流され、とりあえず作品はできましたが、制作の中身のレベルをもっと上げ、大学生としての授業展開を身に着けて欲しかったととても残念に思います。</p>	<p>作品を完成させる過程において、学生とのぶつかりが多く、苦労しました。低レベルなぶつかりは今までに無いのは初めての経験で、とても残念に思いました。総合表現は特殊な科目で、すべて創作して作品を組み立てていきますので、学生の考え、教員の考えがぶつかるのは当然で、その中から良い作品が生まれていくのです。昨年度以前の場合は、作品の中身について意見を言う学生もあり、教員との考えの違いを埋める為に、たくさん話し合いをしたり、建設的な意見が出たり、お互いに調べたりして、大学生らしい授業展開ができていたのですが、今年度の学生はそうしたい学生がいなかったのですが、低レベルな意見を述べる学生に押されて、自分の意見を言えない場合があったようです。(左セルに続く)</p>	<p>アンケートには低い結果を書いています。記述は、楽しかったとか、ありがとございましたとの記述しかありませんでした。教員のいけなかったのか、何が悪かったのかを指摘することも無く、ただ評価を下げるだけに留まっていることも残念でなりません。</p> <p>(右セルからの続き) 毎日のように大学に来て練習、制作をする様子は、1授業ではなく、卒業論文に値する科目であると思います。四條畷学園の看板である総合表現ですが、その位置付けが1授業であることへの疑問はかねてから抱いています。 ③音楽、美術、体育の分野を全員が一緒に取り組むことを強制していますが、ぶの世界では、舞台美術、音楽、衣装、構成、台本などはそれぞれ別の人が携わっていると思います。良い作品を作り上げていく上では、それがもっと専門的になっても良いのではないかと思います。</p>	<p>①ミュージカルを制作するに当たり、昨年の学生が演じたビデオを音楽の科目で見せていただいているようですが、プロの作品を見る事で、もっと視野が広がると思います。10年前ごろは、授業と試験日の縛りもゆるく、前期終わりに劇団のミュージカルを鑑賞することを授業の一環に組み込んでいたのですが、時間的にも難しく、強制ができなくなっていますので、最近では実施していません。意識付けのために実施したいと思いますが、授業外で鑑賞する時間が取れないように思います。 ②総合表現なので、美術、音楽、体育の3者での統一が必要だと思いますが、例年と同じように展開するのではなく、学生のレベルが低い場合には、全てを創作させるのではなく、規制のものを与える方法も考えたらどうかと思います。レベルの差はともかくとして、例年15回の授業が終了してから、(左セルに続く)</p>
指導法の研究	山田秀江	<p>全ての項目において高い評価をいただいた。学生にとって興味をもって取り組める内容であり、2年生の後期ということもあって、よく理解できたのだと思われる。</p>	<p>2クラスの数に偏りがあり、人数が多いクラスは教室が狭くしんどかったと思われる。しかし、学生の評価は低くなく、それほど苦痛ではなかったのかもしれない。</p>	<p>やはり昨年度同様に即実践に役立つような指導案作成や模擬保育などが非常に勉強になったという意見が多かった。</p>	<p>保育指導について理論と実践を結びつけられるような授業になるように模擬保育・指導案指導とともに、指導方法や指導の理論などをしっかりと押さえていきたい。</p>
情報機器演習	守屋誠司	<p>予想した以上に良い評価であった。「技術や実技の向上に役立つ」項目が平均をやや上回った。確実に技術習得させることが、自信を付けさせることにつながり、意欲的に取り組むことになったと思う。</p>	<p>昨年より、時間に余裕を持って取り組んだこと、さらに身近な内容や園で使うであろう内容を課題としたことが、平均の向上につながったと思う。</p>	<p>説明不足という意見が毎年ある。後ろに座っている学生は相対的に集中して聞かないと聞き漏らす。講義途中の席替えも観望する必要がある。</p>	<p>説明した内容はできるが、説明しないが教科書に書いてある内容を自分で読んで実行することができない。マニュアルを読みこなす練習も必要であった。</p>
情報機器演習	渡邊伸樹	<p>学生からは予想以上に良い評価を頂いた。</p>	<p>学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。</p>	<p>予想以上に良い評価を頂いたため、今後も良い評価を得られるように努力したい。</p>	<p>さらに良い評価を得られるように様々な細かなところまで努力をしたい。</p>
幼児臨床心理学	鍛冶谷静	<p>通年科目であり、前期と比べ内容を幼児の日常生活により近いものとしたが、学生の評価はやや下がった。逆に目新しさがなく、学生の学問的好奇心を高められなかったかもしれない。クラスごとに雰囲気の違い、反応の違いがあったが、評価にも違いがあったのかどうか少し気になる。</p>	<p>今年度からの担当なので昨年度との比較はできないが、自己評価と学生評価の差はしっかり受け止めたい。</p>	<p>マークシートよりも先に自由記述を書かせ回収したので、白紙提出は殆どなかった。「聞いていたら、面白いし面白くなる話だった」という記述があり、どんな講義内容でもまずは学生に聴かせることができれば意味がないと改めて痛感した。</p>	<p>前期との比較でさらにいえば、講義室が受講人数に比して広すぎたこともあって、学生の集中力を継続させることが難しかった。また、資料の提示のしかたや授業の構成・進行について悩むことが多かったため、今年の各回の学生の反応を振り返り、内容の見直しを図っていきたい。</p>
総合演習	曾和信一	<p>学生による授業評価の結果は学内平均と比べてみて、大差がないという結果になっている。</p>	<p>複数の教員による授業を合算したものであり、その集計結果から読み取ることは困難である。</p>	<p>もっとビデオを見たかったという意見が少なからずあった。教育機器をどのようにしてどこまで使いこなすかということも私の課題のひとつと考える。</p>	<p>2の箇所でも触れたが、複数教員への学生評価という関係で、ペンディングせざるをえない側面がある。しかし、授業内容への関心の喚起に向けての自己研鑽は今後も続けていきたいと考える。</p>
総合演習	汐見信行	<p>平均値3.95と他とそう変わらない。機械的にチェックしている感じ。(個々を深く考えない)</p>	<p>未だに学生がどう考えているのかわからない。(特に理解度、満足度など)この授業は今年度が初めて。</p>	<p>あまり多くの意見はなかった。</p>	<p>今年度初めての授業なので、基本的には同様に過ごしたい。</p>

教育実習A	田主義行	<p>学生評価と教員評価にズレがある。授業への取り組みについて教員として努力したことが学生の評価は以外に低かったり、授業内容理解の点では教員の評価を学生の評価は可なり上回っていた。今後の課題として捉え授業の改善に役立てたい。</p>	左に同じ	<p>教育実習に参加した学生の、いろんな幼稚園での取り組みの発表が大変勉強になったようです。やはり教育現場を体験することの意味は大きいように改め考えさせられました。。</p>	<p>学生にはもっと教員になる自覚を持って学ぶよう促したい。私自身も授業の進め方を工夫するなど努力しなければならないと思う。学生と教員が互いに意思を確認しながら授業ができるよう努力したい。</p>
保育実習 I A	合田誠	<p>昨年に続いて16の設問すべてに評点が「4」以上の点数となり、大変満足している。その中でも最も評価点が低い項目は「授業の難易度」に関する項目が「4. 01」と最も低く、実習の事前学習の難しさを示していると改めて感じた。</p>	<p>全体評価は昨年度が「4. 22」であり、今年度は「4. 19」と若干低下した。低い項目としては「授業の難易度」との関連で「授業内容の理解」、「授業の進行速度」などの評点が比較的低い。ただ、これらの低い評点の中で「シラバスの内容」に関しての評価が低いには少しショックを受けている。授業では「授業計画」以外に初回わざわざ、シラバスで表記した以上に日々の詳細を記入した書類を配布し、毎回の取り組みをその授業計画の確認で事足りるようにしているのも関わらず、評点が低いのには意外であった。</p>	<p>言い訳となるが、どうしても8回という限られた授業のうえ、やることが盛りだくさんあるために、授業評価の時間も十分に提供できていないのが実情となっている。よって、自由記述の中で今後の参考になる意見はなかった。</p>	<p>限られた授業回数の中での取り組みは非常に厳しいため、毎回説明しているが、それを補うために今年度も時間外に学習時間を確保している。しかし最近では、放課後等の空き時間帯であっても、他教科の「補講」が入る場合が徐々に増えてきた感があり、この部分（時間外での取り組み）でさせ、非常に窮屈になってきている現状がある。あと残された時間帯は昼休みの時間帯の活用しかなくなってきている。</p>

付表2. 自己点検報告書(ライフデザイン総合学科)

モチベーション演習	村井、畑野、富森、井上、中川、新田、奥田(純)、奥田(玲)、北村	「学生評価」の平均値(問1～問16)は「3.63」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値をさらに向上させる努力と工夫が必要である。	担当教員の「自己評価」はすべて「4」とした。一方、学生評価の平均値は「3.63」なので、その差は「0.38」と学生評価のほうが若干下回っている。昨年度もこの傾向が見られた。この点の改善が今後の課題であると思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多くある反面、「眠たくなって仕方がなかった」という指摘もあった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。
情報基礎	畑野清司	70%以上の学生が授業に対する教員の取り組み方や進め方を適格と評価してくれた。また、56%の学生が興味をもって熱心に受講した。今後の課題は良く理解できなかった10%の学生をどのようにして引き上げるかにある。	昨年をわずかに上回る評価と思われる。授業の難易度は変えずに速度を少し落としたことによる学生の評価が反映したものと考えられる。	マイクを使って授業をしているため、声は聞き取りやすい。いろいろな教材を用意し、現物が見られたので理解しやすかった。板書については、判りやすく書いてくれたと言う意見と反対の意見も見受けられた。また、黒板を消すのが早すぎるという意見も数点あった。	話す、書く、見せるなど出来るだけ身近な例を挙げて、難解な情報の基礎知識を理解させたい。
日本語表現法	富森盛史	設問に関して予想どおりの回答と、予想よりも厳しい点もあり、授業展開の難しさを痛感している。	学生評価と自己点検評価に大きな差異はなかったが、熱心に取り組めたかについては学生評価のほうが厳しい位置にある。なお、新任のため、昨年度との比較は空白。	興味をもって意欲的に学習した者には概ね好評であった。一方、おもしろくない、という厳しい意見も若干存在する。	プリントの工夫、説明のわかりやすさにより重点をおいて、興味を抱くことができるよう受講者の期待に添えるよう努めたい。また、授業の集中が維持できるよう配慮する。
英会話A(い)	井上泰子	ライフデザイン総合学科では最も高い能力を持つクラスということで、かなり程度の高いテキストを使用し、学生にとっては進度も速く、きつい授業となったと思う。しかし、予想以上によい評価を頂き、ほっとしている。	基礎学力にかなり差があり、難易度、理解度については、心配な面があったが、少数の学生を除いては、おおむね問題がなかったように思われる。昨年度より、1単位減った分、詰め込み過ぎたかもしれない。	難しかったが、楽しく学べたという学生が多かった。一方、授業の進め方が速く、ついていのが大変だったとの感想もあった。毎回、プリントを配付、回収してチェックをしたので学習しやすかったとの意見も何名もあった。	今回は、海外旅行をテーマとしたテキストを使用した。そこから、他国の文化や習慣、日常生活に関心を持ってもらいたいと思った。上位の学生には勉強になったと思うが、英語の苦手な学生向きではなかった。次年度は、もう少し基礎的なテキストにすることも考える。
英語(英会話)「ろ」	奥田 純	「ろ」のクラスの評価は良好で、昨年よりさらに評価点が上がった。5の評価がどの項目でも一番多くまたかなりの比率に達したのが原因だが、やや過大評価ではないかと思われる。	ほぼ全項目について昨年度より5の比率が増大したのが特徴的だが、授業内容が学生の英語のレベルと合致し、かつ退屈しない程度に英語の内容を考えさせることができたのが大きいと考える。	全体的に分かりやすく、楽しかったという評が多かった。静かな授業環境への注目が一部にあった。	英語が嫌いな学生に英会話を教えるに当たっては、難しいと拒否反応があるので、来年度も同じ教科書でのぞみたい。英語で簡単な会話を実際に出来るところまでもう一歩進めたい。
英語(英会話)「は」	奥田 純	「は」のクラスの評価は昨年を下回り、予想外に悪い結果となった。「ろ」と同じテキストを使い、同じ教え方をしたが、結果は正反対になった。25%程度は5の評価もあったが、4、3との評価が全項目について6割強を占めており、低い評価となったと考えられる。	「ろ」と同じ姿勢でのぞんだが、声の大きさや、説明の丁寧さ、熱意といった項目も他の項目と同じ評価であった。英会話の授業としてしゃべる練習も必要で、静かな環境を保つことが難しい場合もあり、これが英語のレベルとも関係してまとまりのつきにくいクラスとなったのかもしれない。	わかりやすく楽しかったとのコメントも多かったが、静かな環境については厳しい指摘が一部あった。会話の練習をペアでやらせる関係で、スムーズにできるよう一部席替えを実施したが、一部の学生にはうまく機能しなかったように思われる。	「は」については昨年も「ろ」より悪い評価で、来年度は授業進捗度や取り上げるセクションをより選択的にするなどの工夫をしたい。テキストは現行のものより簡単なものは探しく、このままとする予定。
英会話A(い)	井上泰子	英語がもっとも苦手なクラスであったが、(い)のクラスとそれほど評価が変わらなかったの、少しほっとした。テキストはオーソドックスなもので、消化できる心配であったが、予想以上の量をカバーできた。考查の成績からも、案外理解できたのではないと思う。	昨年度と同じクラスを担当したが、1単位減ったこともあって、かなり余裕を持って授業に臨むことができたと思う。教室が清風学舎ということもあり、学生も新鮮な気分になれたのではないかと思う。意外に学習能力があることを発見して嬉しく思った。	英語が大嫌いで授業を受けたくなかったという学生もいたが、嫌いな英語が少し好きになってきたという学生も何人かいた。毎時間のプリントと説明が分かりやすかったと書いてくれた学生もいた。	英語の嫌いな学生にどのようにモチベーションを維持させるか、毎年対象学生が変わるので、悩むところである。学生の実態を把握しながら、教材に工夫を加え、心に届く授業を心がけたい。

ライフデザイン原論	村井、畑野、中川、黒石、奥田(玲)	「学生評価」の平均値(問1～問16)は「3.70」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」だが、当該平均値を「4」以上にする努力が必要である。僅かではあるが好転した。	担当教員の「自己評価」は、すべて「4」とした。一方、「学生評価」の平均値は「3.70」であるので、その差は「0.30」である。昨年度の結果と比較して、教員による自己点検評価と学生評価の平均値差が対前年度「0.03」縮まった。今後とも努力の継続が必要である。	授業内容・方法等については、多くの学生から概して好ましい反響・意見を頂いている。ただし、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多くある反面、「居眠り」したくなって仕方がなかったという指摘もある。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
日本の歴史	村井良介	授業内容が難しいと感じる学生が多い一方、進行速度が適切とする回答がやや多かったのは、復習など繰り返し説明したことによると思われる。	今年度も授業中の私語については、受講者が確定し、座席指定ができるようになるまでは、私語が多かった。その間は昨年に比べ注意する頻度を増やして対応し、それがアンケート結果にも出ていると思う。座席指定後は私語が大幅に減り、静粛が保てた。	自由記述をするよう呼びかけたが、回答がほとんどなかった。	授業の難易度については、さらに工夫の余地がある。質を落とさず、わかりやすくするよう努めたい。
文化と人権	曾和信一	有効回答数が5ときわめて少なく、フェイス・トゥ・フェイスの授業の関係で、学生の評価へのコメントはきわめて困難である。	授業の難易度を問う項目への教員と学生の双方の評価がやや低くなっている。そのことは授業内容の理解とも結びついてくる問題でもあり、両者の質問項目には有意差が高いといえる。	授業内容に即したビデオ鑑賞への評価が高かった。しかし、授業内容そのものへの自由記述が見られなかったのは遺憾なことである。	授業の分かりやすさと内容面での奥行きを深さをどのよう両立させていけばよいのかについて、パワーポイントによるプレゼンの創意工夫をしていきたいと考える。
自分探しの心理学	北村瑞穂	ほぼ学内平均と同じくらいの評価であった。	昨年度より評価が下がっている。今年度は一部の学生が静かにならず、授業の雰囲気が悪かったこともあったためではないかと考えられる。	一部の学生がうるさいという意見が多々あった。面白かったという好意的な意見もあった。	静かな授業環境づくりに努めたい。漠然と「静かにしなさい」と言うのではなく、「お喋りをやめなさい」と言ったり、静かになったときに褒めたりすることも必要だと思っている。
情報倫理	大野麻子	問12の評価があまりよくなかったことが気になった。	問11についてはもうすこし私語など頻繁に注意すべきだったと考えているが、学生の評価は予想より良かった。	楽しく学べたという意見が多かった反面、板書が少なすぎたという意見もあった。	去年は板書が多すぎたという反省があったため、演習を増やしたが、定期試験が記述式ペーパーテストであることから、もう少し板書を増やしバランスを調整したい。
くらしとパソコン	鈴木正彦	予想に反し、学生から厳しい評価をもらった。いずれも、学内平均を下回っているが、この主要な原因は難易度のレベルにある、と考える。	前年度よりも内容のレベルを少し下げ、教材も工夫したが、学生評価が全体的に自己評価を下回った。	特記事項なし	大学での講義・演習である以上、安易に質を下げるわけにはいかないが、課題量を減らし、内容も基礎・基本に絞って学習できるように努めたい。それにしても、学生の学力、学習の構えに大きな差がありすぎる。この点をいかに打開するか、悩みは尽きない。
くらしとパソコン	渡邊伸樹	毎年同じような傾向ですので数年に1度のアンケートでよいのではないのでしょうか？	毎年同じような傾向です。細かい分析ができないので、アンケートの内容にも改善が必要では？学生のように応えなければならない点とゲイゴウしてはいけない点があるのではないのでしょうか？	(特にありません。)これも筆跡などでわかりますので、記名式にしてはいかがでしょうか？	記名式にした方がよいのでは(社会人のマナー等)。アンケートは一括してとった方がよいのでは(時間のせつやく)。以上よろしくお願い致します。
くらしとパソコン	本荘一子	私語もなく熱心に課題に取り組んでくれましたが、むずかしいと感じた学生もいたようです。丁寧なわかりやすい説明を精一杯心がけたつもりでも、全員に理解させるのはなかなか良いではありません。			説明は必要最低限度にとどめ、実習に時間を多くしてゆとりをもたせたいと思います。

くらしとパソコン	岡本久仁子	一つをのぞいて学内平均よりも評価がよかった。思ったよりも良い評価だった。	授業レベルについて不適當であったと思っていたが、学生はそうは思わなかったようである。	授業のすすむ速度について相反する記述があった。すべての学生にあわせるのはむずかしい、	否定的評価を受けた項目について改善していきたい。
くらしと社会	中川 博	学生評価平均値は問4（授業に十分な工夫をして臨んだ）の3.86以外は4以上であり、また2年生への配当科目であり、受講者も20名と少なく落ち着いたのかと思う。	それにしても、自己評価では5点満点が12あるのに学生とのかい離があります。	特になし	特になし
くらしと環境	汐見信行	正直高い評価に驚いている。特に興味があるのかどうか、内容の難易度について私のとまどい以上の結果で、中味を半分以下にしたのが良かったのか？	きわめて平易に、分り易く、量を減らしたのが良かったかと思うが、実態は？	意見を書いてくれている学生は興味を持てたとある。	本年は評価が良かったので、この方法を続けてみる。
スポーツⅠ	黒石久昭	昨年より、人数が3名と少人数で合ったために、少し授業の楽しさを友達同士で分かち合うことが、少なかった為と考えられる。	少人数のうえに、欠席勝ちの学生がいたために、授業でのゲームを楽しむ機会が極端にすくなかったため、このような結果になったと思う。	少人数の為、自由記述はなかった。	1時間目という時間割が昨年とは異なる受講人数の減少があったので、その辺の配慮があれば、もう少し改善されるのではないかと思う
ファッションコーディネート演習	本山光子	問4、問9、問15、問19の内容では、学生評価が下回っていた。特に、問15の教室の設備について、また問19の課題に取り組む時間についての評価が大きく差が出たので着目したい。授業時の発声、技術指導などせ評価の低い部分が平均値を超えているので、着目したい。	ほぼ学生と自己評価と同じくらいであった。課題量、授業態度の悪い学生への対応などは改善されたと思う。		全体の平均値はほとんどが学生平均と同じであったが、1.であげた項目について、特に満足度の差が大きいので、より学生ひとりひとりに目を向けて、バラツキのないようにしていきたい。
ファッション販売Ⅰ	本山光子	問1、授業時の発声の仕方、問4、十分な準備と工夫、問9、熱意に関しての項目は学生評価が下回った。	難易度レベル、プリント、設備など改善されたと思われるが、まだ難易度については4.17、進行度も4.17と全体の中で低いのでここに着目したい。		授業で見た感じでは難易度については、ただ難しいと感じるだけでなく、もっと高いレベルを要求している学生もいたのではないかと考えられる。そのため、今後毎時の質疑応答時間を充実させたい。
メイクアップ（ネイルアート演習含む）	塩谷佳代	授業内容に関しては自分自身出来る限りの事を心がけたものの、欠席の多い学生、授業態度を注意してもなかなか改善の見られない学生と非常に真面目に取り組んでいる学生が入り混じった教室の中で学生自身の授業に対する満足度はやや不安がありましたが、多くの学生が何かを得たと感じてくれたのだと思いました。	休まずに受講したい授業、興味を持って講義を聞きたいと思う授業を目指して、授業内容をより充実させ、授業態度の注意等を改善したいと思いました。教室の使い勝手も見直していきたいと思います。		教室の使い方。
トータルビューティ演習（エアロビクス含む）	千住真智子	授業内容及び指導方法ともに学生は、プラスに評価してくれていると思う。しかしながら、実技での課題の量と与えられた課題に取り組む時間が不十分であり、技術や実技の向上に役立ったかについてもあまり効果が実感されていないと思う。	実技の課題内容、量とも昨年よりも多少少なくして取り組んでみたが、学生にしては少しもたたりないという感じがあったことが学生評価の内容から推察された。	かなり好意的に多くの意見を出してもらった。授業の受け止め方は、一人一人さまざまであることが内容から再確認できた。	学生による授業評価から明らかになった今度の問題点を十分検討して次に役立てていこうと思う。
ブライダル総論Ⅰ	小野清和	予想以上に「授業の難易度のレベルは適切であったと思う。」項目と、「学生は授業の内容良く理解することができたと思う。」両項目の学生の評価が高かった事が、今期からの授業のプレゼンテーションの仕方の変更が成功した結果だと思ふ。	昨年度より、パワーポイントで全て授業を行い、より写真・動画・図解を取り入れ、分かりやすく解説した事がより、「授業の内容良く理解することができたと思う」評価に繋がったと思います。	ブライダルは将来の自分自身が結婚する時に少しでも自分でプランニングできる時の基礎知識や兄弟、親戚の結婚式に参加した経験がある年齢でもあることから興味と理解力が高く、感動した場面の記載が多かった。	今後は知識や考え方の中で表面的な事柄だけでなく、本質的な事柄や・その意図を少しでも理解できるように工夫し楽しく授業できるように努めたい。

ブライダル演習Ⅰ	國田育代	全体的に平均的評価を頂き、又、自身の評価とあまり違いが無かった点は良かった。しかし、問11に関しては、注意しきれしていないという自己評価に対し、学生の評価、価値観の違いは今後の課題である。	今年初年度の為比較できない。		授業の取り組みについて、途中離籍(トイレに行く学生が多い)、居眠りなど基本的態度に対しては工夫していきたい。
プレゼンテーション概論	畑野清司	ほぼ全員が授業に興味を持って取り組んだ。そして92%の学生が授業の内容を理解した。また、全員の学生が授業を受けて満足している。	学生評価の平均値は4.71で昨年を上回る高い評価を得た。	全体的に楽しかったと授業をした学生が多かったが、製作時間が短いという苦情もあった。時間内に完成しない学生は補修と言う形で授業とは別に取り組んだ。	プレゼンテーションの授業においては、学生の高い満足度を得るためには、レベルを下げるのではなく、むしろ高いレベルの目標を定めるべきである。プレゼンテーションの課題は学生のやる気を高揚させる材料なので、今後も検討していきたい。
プレゼンテーション演習Ⅰ	福井愛美	ほぼ学内平均値と並んでいるが、中でも一番低かったのが板書に関する項目で、自身でも丁寧に欠けたかと、反省すべき点である。	授業科目の性質から、「大きな声で聞き取りやすく」を心がけたので、自己評価を5にしたが、学生評価はそうでもないようだった。また、シラバスを一部変更したこともあり評価を低くしたが、さほど影響は無いようだった。	板書についてはホワイトボードが光って見にくいという意見があった。また人前で発表するのは最初は緊張したが、しだいに楽しく出来た、スピーチに自信がついた、との意見が多数あった。	板書の件は、カーテンや位置を変え見にくさを改善、丁寧に心がけたい。
色彩の基礎Ⅰ	小松律子	「学生評価」と「自己評価」の差が目立った。授業に「参加」している実感が湧くような授業を目指したが、授業構成には、まだまだ改善の余地がありそうである。	昨年度、従事なし	「楽しかった」との意見が多数であった。受講生に「色彩」を学習するというよりは、まず「色彩」を身近に感じてもらうことを自身の目標にしていたので、よかった。	「楽しさ感」のためか、出席率が高かったのは、よかった点だと思うが、「理解度」については満足のものではなかったと思う。今後は「参加意欲が湧く(受動的に授業を受けるのではなく)」かつ「理解度が高まる」授業内容を目指したいと思う。
色彩の演習(シルクスクリン含む)	中路則夫	良い評価をもらって満足している。	もう少し改善できる部分があると認識している。昨年度より、スムーズにミスも少なく制作できるようになっている。	版を通して絵が創れる喜びを楽しく体感してくれた。又、続けて、やってみたいといっているが、それは可能か?	時間が短かすぎる。特に、版画(シルクスクリン)は原画→製版→刷り→解版→再生→掃除と時間がかかる。もっとゆったりと大きく流れる長い時間が必要！それに半期ではなく、通年でゆっくり作品を創らせてやりたい。
色彩検定	小松律子	受講生の評価はよかったようだが、自身としては短時間で「詰め込み」になった感がある。反省材料にしたいと思う。	昨年度、従事なし	時間数が不足していると思っていたが、「丁寧に教えてもらった」との意見が複数あり、以外であった。	「色彩の基礎」で学習したとはいえ、受験用に学んでいない為、「合格」を目標とするには内容時間数が不足している。その分、より効率的な授業内容が求められると思うので、教材等を、より工夫、考慮したいと思う。
医療事務総論	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度、理解度の点での評価がやはりやや低くなっている。	教員の評価より学生の評価が低い項目が多かった。昨年まで行っていた授業時間の延長を取りやめたため、十分な時間が取れなかった。	「難しかった。」「進むのが早い。」という記述がかなりあった。	実務に必要な一定の知識、技能を身につけるために、あまり内容の削減をすることは望ましくなく、適当な方策が見当たらないのが現状である。今後は医療事務演習に内容の一部をまわすことを考える。
医療事務演習	倉戸啓子	自由記述で内容が難しいと書いている人がかなりあるにもかかわらず、全ての項目で教員の自己評価よりも学生の評価が高かった。	特にありません	「難しかったが、質問をして教えてもらったことはよくわかった。」「もっと質問したかったが、他の人のところへ行っていてなかなか来てもらえなかった」という記述があった。できるだけ多く質問を受けられるように心がけているが、10名程度でもなかなか質問に答えきれない状態です。	来年度より、教科書を変更し、もう少し基礎的な内容にすることを考える。

医療秘書実務	東野國子	大体前年度と同様の評価をいただいている。特に、学生には大きな声で、わかり易くを心がけてるので、問1や問9の評価が高かったのも、その点では良かったと思っています。	ほぼ前年度と同様の評価をいただいている。	私語をする学生を注意してくれなかった、と一人の学生が書いていた。教室は階段形式で、マイクを使って授業を進めており、全然気づかずにいた。今後はより教室全体に目を配ることはもちろん、生徒の側に座席や何か気づいたことがあれば遠慮なく申し出てもらえるよ、こちらから働きかけたいと思う。	
公衆衛生学	植村興	ほぼ予想どうりの評価	変化無し	理解できなかった学生の指導が課題	学識の習得度に差が大きいですが、習得度を成績評価に厳しく反映させたい。
解剖生理学	奥田喜一	授業環境、資料配布、質問応答などの評価はやや良。声の大きさ、理解では評価が低かった。	声の大きさ、話す速さについては心がけたつもりであったが及ばなかったようだ。授業内容の理解では昨年と同様解剖生理学上の専門用語がまずなじみにくいのではないだろうか。	板書量が多すぎるという意見があったが、授業時間内ではできる限り目で見、耳で聴き、手を動かす作業を続けるべきと思っている。	聞き取り易く話すように心がける。内容理解については、何か良い方法を考えようと思う。
社会福祉概論	山戸隆也	試行錯誤の多い授業となつてしまい、不十分な点があったと反省しております。法・制度についてわかりやすい説明をする必要があり、もっと具体例を多くするなど、わかりやすい授業を実践していきたいと思えます。	今年度初めての担当であり、「概論なのでまんべんなく」教えようとして、興味がわく話が少なくなつてしまったと反省しております。学生の参加(議論、発表など)を多少とりいれましたが、そのことは学生の振り返りから判断して、良かったように思います。	自由記述については、好意的なものが多いのに、数値が低いのは残念です。項目それぞれの上達のための努力が必要です。遅刻について、1限にもかかわらず厳しい態度で臨みましたが、それがごく一部の学生の反感をかっていたようです。福祉系に進む学生は特にそういった点を学んでほしいですが、いやな態度をとってしまったかもしれないので、注意のしかたなどに工夫をしたいと感じました。	学生がまじめに授業を受けてくれていたので、油断していた部分があり、毎回の授業のポイントをより明確なものにして、具体的なわかりやすい内容を心がけます。講義形式のときに、もっとわかりやすく興味深いものにしていきたいと思えます。
病院実習	高橋 要	自己評価を上廻った件数が3件、下廻ったのが9件であったことは反省している。病院実習といった特殊科目につき、病院の実態をやさしく説明したつもりでしたが、学生達に取って全く未知の部分が多く、私自身とのギャップがあったと思われる。授業では学生達の自主性を最重視したつもりです。	問8、11について自身も改善に努力したつもりだが、努力不足であった。他については1、で述べたとおりギャップがあったと思う。		実習を重視し、事前講義ではテスト、論文を不要とし出席率のみとしていたが、小論文については次回実施方向で考える。
介護概論Ⅰ	植北康嗣	総合的には予想以上によい評価を受けたと感じる。介護を学ぶのが初めての方なので、自分たちの生活に則した指導を心掛けた結果ではないかと考える。	多くの項目で自己評価を上回る結果となったことは、概ね期待通りの学びができたと思う。	主な意見に、資料も多かったため、理解しやすかったとあった。しかし、演習やまとめが時間をオーバーしたことがあったので時間通りに終えてほしいという意見もあったので、今後は注意したい。	今後も、体験や視聴覚教材を活用し、すぐに活用できる介護技術を心掛けたい。
臨床医学概論Ⅱ	小泉雅子	前年度と全く同じ授業内容にもかかわらず、今学年からの意外なほどの高評価に驚いた。学生の資質の違いなのか？目の行き届く人数でもあったし、生徒のやる気のあるなすが直接伝わる距離感がよかつたのかもしれない。確かに今までの生徒に比べ、興味深げに授業に耳を傾けてくれた感があった。	毎回、自分が思うほど生徒に意気込みが伝わっていない結果に軽く心の折れる気分であったのが、今回は相対的に高評価だったのでいささか安心した。高い評価のわりに、全体的な出席率の悪さが少し気にかかると。(明らかに各々計算ずくで休んでいる模様)	最初の授業で「自分や大切な人を守るためにも、多少難しいですがしっかり病気について学んで下さい」と言った事が多数の生徒に通じてたのが読みとれて非常に嬉しかった。	今度は医療用語でひたすら言葉を覚えるだけの単純作業がメインではあるが、できるだけ病態に絡めて説明し、授業に飽きがこないよう努めたい。1年生の概論Ⅰも生徒は初授業なので未知数ではあるが、飽きさせないような授業を展開したい。

診療情報管理理論Ⅰ	赤松隆二	学生からは評価をもらったが更に努力したい。	改善すべき点が分かったので努力したい。	「医療に関する質問だったらなんでも相談を聞いてくれる」とあったので、今後也十分に対応したい。	生徒が授業に興味があわく様に工夫したい。
ICDコーディングⅠ	富永純子	パソコンを使用したの演習なので、学生が興味を持って学習ができたと思います。学生を受講人数も少なく一人一人に注意をし、対応できたのが今回の評価につながったと思います。	学生の評価とギャップがありすぎると問題なので、自己評価を低めにしましたが、今回は自己評価よりも学生の評価が高かったので大変うれしく思います。努力し後期にも繋げていきたいと思っています。	コーディングは難しい。面白かった。演習が楽しかったなど意見もありましたが、白紙のままの提出も多く見られました。コーディング検定頑張りますと積極的な思いを書いてくれた学生もいました。	最初は、全く理解できない学生もいましたが、指導してゆくうちに演習ができるようになり授業が面白くなって、正解が多くなり、授業もまじめに出席する学生が多くなりました。今後も興味を持って授業を受けられるように創意工夫をしてゆきたいと思っています。
医療事務コンピュータⅡ	倉戸啓子	大体の項目で、自己評価よりも学生の評価の方がよかったです。	特にありません	「難しかったが、わかりやすく説明してもらえた」という記述があった。	(改善点ではありませんが)医療事務総論、演習、コンピュータの授業を通して、しっかりと力をつけていく学生さんがあります。とても報われた気持ちになります。
リハビリテーション概論	銀山章代	初めて担当するクラスなので、学生が授業をどう受けとめているのか?心配なところがありました。今回の集計結果をみて、学生評価と自己評価を比べると、大きな差がなく安心しました。問5,6,7,8の難易度、進行速度、教材、板書は現在のやり方で良いという事がわかりました。	初めてなので昨年と比較できませんが、おおむね、現在の授業形式を基本にし、難易度、進行速度など工夫し、理解度と関心を高めていきたいと考えました。	皆さん、熱心にとりこんでくれました。	学生の授業態度について、もう少し指導していきたい。
リハビリメイク演習Ⅱ	志村美代子	5点に満たなかったとはいえ、平均値が4.83と高かったことで、満足度はあったが、5点は問2のみであった。他の項目について5点に届くよう改善したい。	2007年度と比較すると学生評価の5点が減っている。人数が増えたことで細かなフォローができにくくなっていた事が考えられる。	真面目に授業に取り組み、自分自身の感じたことを授業内容を通して記述している学生が多かった。(授業を受ける前後での違いなど)	後期については受講人数により(今回は4倍だったので)きちんとフォローできるような内容をわかりやすく変更できる部分を改善、努力したいです。
食生活と健康	奥田玲子	1項目を除いて、全て4.0を上回る評価をいただいた。学生が、私の授業への熱意を感じとって、興味を持って熱心に受講し、その結果概ね満足していることがわかり嬉しく思う。	学生による評価が自己点検評価を殆どの項目で上回っていた。学生による難易度の評価は昨年をやや下回ったが、進行速度については自己評価と学生による評価が一致した。	全員が食の大切さへの認識を新たにし、理解を深めていた。また、実際に自身の食生活の改善に取り組んだ学生が少なからずいた。実生活に役立つ講義を今後も心がけたい。	食生活アドバイザー検定試験を意識し、やや難易度の高い内容も盛り込んだ。そのため難易度・理解度の評価がやや下がった。進行速度については問題なかった。同じ時間内で難しい内容の理解をいかに深めるかが今後の課題である。
食の歴史と文化	奥田玲子	評価点が4.0付近で近似してばらついてた。	学生による評価が自己点検評価を殆どの項目で上回っていた。授業の準備や板書、説明など自己評価が必ずしも高くない項目にも学生からは他と同等の評価を頂き今後の励みとしたい。	食の歴史や、日本以外の国々の食文化にも興味を持って受講した学生が多かった。	学生の総合的な満足度が4.0を下回った。全体的に評価点アップが必要と思われる。特に学生の興味や満足度を上げる工夫をしていきたい。
食の安全性	坂口守彦	本科目は比較的教授しやすいが、学生の評価は学内平均を下回っていた。本年度(前期)は、昨年度に比べて、受講者数がきわめて多く、社会人もうけ入れた。熱意をこめて授業の実施に努めたが、内容が十分理解されているとはいえない。	昨年度と同様に授業に際して、できる限りの準備をし、昨年に劣らず工夫をこらしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分に伝わっていないところがある。昨年と比較してのあたりに問題点があるのか検討の余地がある。	自由記述は好ましい試みであり、今後も継続することがのぞましい。しかし、積極的な意見の陳述は寡少(10%以下)であるから、ここにも設問の仕方に工夫が必要であろう。	授業は主としてプリントを配布して進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示した。これらは学生の理解を助けるために不可欠である。プリントの説明、補助教材などを組み合わせることで授業の要点を明示し、これまで以上によく理解させることに努めたい。

食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始前に想像したよりも良好な評価を得たが、これで学生が正当に評価したのかどうか疑わしい。昨年度と授業内容、方法などはあまり違いはないが、授業に臨んでリラックスして実施することを心がけ、毎回定刻よりもいぶん早めに授業を終了したことなどが評価されたと理解している。	全般に学生による評価は自己評価よりも低い傾向があった。昨年度のみならずその前年も教材(プリント)や図(カラー)の使い方に問題があることを指摘されていたので、今回はこの点に改良を加えたが、かならずしも良好な結果を生んだわけではない。	科目の性格上基礎的な部分が多く、学生の興味をつなぎにくいところがある。授業内容が難解だ、授業内容のポイントが明確ではないなどの指摘がみられた。自由記述させるのは好ましいので、今後も継続することがのぞましい。	今年度はプリントなどの補助教材を多用し、学生の興味をつなぎとめる方向で授業をすすめたが、これがどの程度学生の理解度増加につながったのか明確ではないので、次年度も継続して実施し効果を確認したい。
食空間のデザインと演出	潘 龍諒	学内平均と殆ど変わらない値に、過去の値と随分違い驚いております。ただ学生達が真剣に回答してくれたかどうか疑問に思っています。	自分としてはかなり改善して講義に臨んだつもりでしたので、自己評価も甘めにつけさせてもらったのですが、結局は独りよがりの自己満足にすぎず、学生には伝わっていなかったのかと反省とまではいかないもの、考えさせれます。というのは自由記述では前向きな声も有ったので...	今まで気にも留めていなかった身近なところに沢山の興味深いものがあることを知ることが出来て良かったとか、生活習慣の中にこんなにも知らないことが沢山有った事を教えて貰えて良かったという様な内容のものが数名居り、この講義を有意義に思います。	更に資料を準備して、興味を深めて貰いたいです。その為には是非大学側に購入していただけますようお願いしたい次第です。
フードマネジメントとメニュープランニング	潘 龍諒	少しポイントが下回るものの、学内平均とあまり変わらない値に妙に安心したり...どの講義に対しても学生達が適当に回答したのではないかと勘ぐってしまいます。	この科目に限らずいつもの事ですが、自分が悪く思っているほど学生たちはそうは受け止めず、又自信を持って臨んだ部分は逆に悪く捉えられていたりして、観点の相違か或いは単なるジェネレーションギャップかと戸惑ってしまいます。	言い方が『嫌味っぽい』という内容のものが有りましたが、正直嫌みを言った事が有りますので反論は致しません。(それ以前に嫌みを言われるような態度をしないようにして欲しいものです)中には、最初は授業に関係ない話ばかりして...と思っていたが結局私たちの卒業後の事を考えて賤や行儀作法を教えてくれたのだと分かり有難う声も数名ありました。	かなり解り易いようにレベルを落としておりますのでこれ以上は変えようとは思っておりません。今までどおり、学生に媚びることなくやっていこうと思えます。
テーブルコーディネート実習	乾 博子	総合的に授業を楽しんで受けてくれた様に思う。	やはり、昨年同様、時間ももう少し余裕のある組み方にした方が良いかと思う。	皆、テーブルコーディネートに対し、興味を持ち実習は大変ながら、楽しかったと書いてくれたので良かったと思います。	内容のレベルについて、学生の理解を見ながら検討したいと思う。
調理の基礎と科学	石村哲代	フードコーディネーター3級資格取得のための必修科目であるが、特に2年生の受講者の無気力さと欠席の多さが目立った。寝ている学生や私語の多い学生に厳しく注意したが、態度の改善が見られなかった。むしろ逆に反感を買ったように思われる態度の学生もいた。そのような学生がいる一方で、極めて真面目に取り組んでくれた学生も約半数いた。特に低い評価の項目としては、授業の難易度、板書などが挙げられていた。	全体的に学生評価の方が低いのは、自己評価が高すぎるせいかもしれないと思うが、授業は、常に、自分なりに精一杯心をこめて努力しているつもりなので、自己評価をこれ以上上げる訳にはいかない。しかし当方の努力が伝わっていないとすれば、さらに授業方法や内容の改善の見直しを図っていかなくてはならないと反省している。	「食に関する知識が増えて満足」、「厨房見学がとても良い経験になった」、「授業が静かで勉強しているのだという実感があつた」という肯定的な意見は、恐らく授業態度の良い真面目な学生から、逆に「板書を消すのが早い」、「プリントの書き込みが追いつかない」、「学生の質問に答えてくれない」などは授業態度の芳しくない学生からの意見と思われる。	授業態度の悪い学生からの低い評価は残念だが、それを招いているのは授業への興味を喚起できない自分自身に責任があると反省している。調理という極めて日常的なテーマの底に潜む科学をよりわかりやすく、具体例を挙げながら授業の展開を図っていきたいと考えている。
調理の基礎と科学	潘 龍諒	恐らく講義の前半を担当ご指導された石村先生への評価が良い結果として出ていると思われる。	講義らしい話は殆ど出来ず、特に今期は資料不足で申し訳なく思っております。	ホテルの厨房見学が印象的ないようで、その件に関する記述が数名有りました。	厨房設備や機器も大切ですが、それ以前に身近な調理器具の知識から指導していかないといけないと思っております。今の学生たちは【もの】の名称や存在すら知らない人が多すぎます。

調理実習 I	奥田玲子	難易度、進行速度以外の全ての項目で4.0を上回る高い評価をいただいた。 各評価項目間の評価点の、ばらつきが小さく、概ね授業に興味をもって熱心に取り組み、総合的に受講に満足していることがわかった。	学生による評価が自己点検評価を殆ど(90%)の項目で上回っていた。	殆どの学生が楽しく興味をもって受講していることが感じ取れた。	今回はグループ間に進行速度、チームワークなどの点で差が見られ、それが、やや満足度に影響しているように感じた。授業内容以外に、グループ編成など運営面での改善が必要と思われる。
製菓材料の基礎知識	林真千子	今回の評価は、学内平均をやや下回っており、今後の評価向上に努めていきたいと思ます。	授業内容のレベルについては、こちらが思っていた以上に良い学生評価が得られましたが、その内容の理解度が悪く、今後は理解度向上に努めていきたいと思ます。	出席をとる時間についての意見が少数ありました。この点につきましては、今後とりきめを設けていきたいと思ます。	授業の理解度アップについては、内容を基礎的なものに変更するまたは、具体的にわかりやすい例をあげる、視聴覚教材を利用するなど、今後の改善に向け、努力していきたいと思ます。
製菓・ラッピング実習 I	清郷洋子	今回、問5の「授業の難易度のレベルは適切であったと思う。」の学生評価が4.18と他の評価と比べて非常に低かったが、これはヨーロッパ等で革新的に行われている従来とは考え方の違う新しい製菓技術を、一部早々に取り入れた為戸惑いがあり、その結果と思われる。少し早すぎたのかも知れないが、今後必要な事と思われるので、どうすれば学生に理解して貰えるか、私の今後の課題です。	今回始めて問9の「授業は熱意を込めて真剣に行った。」の評価が一番高く、次いで前回までトップだった、問16の「学生は総合的にみて、この授業を受けて満足していると思う。」等の評価が高かった。新しい技術や理論を取り入れたことについて行けなかった部分も有ったと思うが授業に対する私の気持ちを受け取ってくれたようで、これに答えるべく努力したいと思ます。	毎回同じく、学生からは「授業がとても楽しかったし、美味しかった。」「色々な事が学べて良かった。」「作れないと思っていたお菓子が作れて良かった。」等の記述が多かったが、今回実名入りでこの授業を受けた事で考え方が前向きになり、学んだ知識や技術と共に今後社会に出たときに役立つと思う。」という記述が数枚あった。社会に出ると色々な事が起こると思うが、力強くポジティブに進んで欲しいと思う。	学生は授業で、知識や技術だけでなく色々な面から見ているという事を痛感した。日本の礼法に基づいたラッピングの授業を通して、「風呂敷」や「水引」、「和紙」等の日本の文化を学んで貰った事も評価が高く、楽しみながら自然に学んで貰えて良かったと思う。今後さらに解りやすく楽しく、実社会で役立つ授業を心掛けたいと思ます。
アロマセラピー(演習含む)	倉津三夜子	すべての項目で4~5の評価ということで、おおむね適切で満足感を得られていると受け止められます。昨年度と比較して受講者数が2倍となったことで一人一人に対する個別の対応が少し足りなかったのではと、とも思われるが、実習体験を共有する場になって良い結果につながった。	今年度は難易度をやや低く設定して基礎事項の理解度を高めるように試みた。学生評価点には特に反映していないが実質的には理解度は高くなり、試験の結果に現れた。視聴覚教材や自然素材を多く取り入れようと考えながら実行できなかった。	単文のみの記述が多かったので、あまり強い印象等は無かったのかもしれない。ただ、実習は好評で、家庭で家族で楽しんだ体験の記述もあり、今後の実習計画に活用したい。	パソコンを活用して写真や画像を紹介したり、フレッシュやドライハーブを教材として取り入れて、より興味を持てる内容にしていきたい。
クロスカルチャー(比較文化)	村井隆之	自己評価はすべての項目で「4」としたが、問12、問14以外のすべての項目で学生評価が自己評価を上回っている。学生からは予想以上によい評価を頂いたと思う。	学生評価の平均値が「4.21」であり、学生からはほぼ合格点をいただいたと思う。しかし、問12の学生評価の平均値が「3.92」、問14のそれが「3.92」であるのが今後の改善点であると思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。また、本年度は「板書」をもう少し見やすく、また書き取りやすくして欲しいという要望が全くなかった。この点、改善努力が評価されたものと思う。板書についても、今年度は「4.08」の評価を頂いた。改善の効果が評価されたものと思う。	「学生評価」については、ほぼ満足すべき評点を得られているので、現時点では授業内容や方法を変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていける所存である。
情報活用演習 I (WORD)	新田真一	全般的に自己評価より学生の評価がよかった。授業の進行速度の適切さのみ4未満であった。	概ね同じであるといえる。問1と問10では自己評価を上げている。	面白かったという意見があった。退屈でなかったと思われる。喋り方が早いとの指摘があった。いつも指摘されていることである。	進み方はそうゆっくりも出来ないなので、難しいが、よりゆっくり喋ること。
情報活用演習 II (EXCEL)	新田真一	全ての項目について評価が4未満である。聞き取りやすさについては評価が特に悪い。	自己評価は昨年より上がっている。昨年の自己評価が悪かったため、その反省をふまえている結果であろう。	有効回答数が3であったこともあり、自由記述の意見はなかった。	EXCELそれ自身より、数学の基礎的な力の向上がまず必要なのかもしれない。この点を特に気をつけること。

情報活用演習Ⅲ(WORD)	新田真一	授業の進行速度の適切さ、および学生の授業内容のよりよい理解については評価がもう一つであるが、全般的に満足していることが窺われる。	概ね自己評価は昨年度よりよくなっているが、学生の理解について不安がっていることが窺われる。	すすめかた、喋り方の速さが相変わらず早いことが指摘されている。なかなかゆっくりとまらない。申し訳ない。	進み方はそうゆっくりも出来ない、難しいが、よりゆっくり喋ること。
インターネット演習	大野麻子	全体的に高い評価が得られたと思う。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。	授業で作成したホームページを活用したいという意見も多く、学生が熱意をもって取り組んでいたことがうかがえた。今後自己学習を続けてほしいと思った。	欠席者が多く、毎回前回の欠席者をおさらいを入れたため、全体的に進行が遅れ、計画通りの製作時間が確保できなかった。毎回出席した学生にも不平等なので、欠席者への対応について改めたいと思う。
情報数学	新田真一	予想より良い評価を受けている。内容の理解の良さが4未満である。	ほぼ同じ評価をしている。問1と問9についての評価をみると、少し力みすぎたようだ。	説明がめちゃくちゃいい、という指摘がある。EXCELは説明しているといついつい早くなってしまう。困ったものである。	学生の理解度の様子を窺いながら、ゆっくり喋ることを常に気をつけること。
情報システム論	大野麻子	難易度の高い授業だったので運営が難しかったが、おおむね良い評価が得られたように思う。	問5については、今回授業で扱う範囲が狭かったので難易度を下げずに参照資料などを使いながら出来る限り丁寧に分かりやすく説明することを心がけたことが評価につながったと思う。しかし教科書より発展的な内容も多く盛り込んだため難しく感じてしまった学生も多いようだった。	内容は難しかったが説明がわかりやすかったという意見が多かった。	講義形式の授業であるため、途中で寝てしまう学生が多かった。どちらかというとボトムアップ的な指導を心がけたので、知識のある一部の学生には同じ説明が何度も繰り返され退屈に思われたかもしれない。これについては技術的に新規性の高い内容などを入れて対応したつもりだが、もっと個々の学生に対応できるような授業内容にしたいと思う。
マルチメディア演習	眞下義和	学生からの評価は高いようだ。	私が思うより、学生からの評価は高い。昨年などと比較しても、今期はやや評価は高いと思う。	今回はめずらしくネガティブな意見はなかった。ケータイの待ち受け画像制作がウケているようだ。	今後も学生におもねる事のないよう、ただし、学生の興味を持つマルチメディアについて教えていきたいと考えます。
ビジネス実務概論	畑野清司	85%の学生が授業に興味を持って取り組んだ。そして同数の学生が授業を良く理解できた。また、87%の学生が授業を受けて満足している。	学生評価の平均値は4.42で昨年と同様高い評価を得た。	グループワークや発表などかなり緊張した授業だったが、最後には場に慣れてよかった。と言う学生が殆どです。ただ、人数の割りに教室が狭くて、窮屈だったと述べた学生もいました。	更に授業内容を充実し、学生たちの身につく授業内容を推進していきたい。
ビジネス実務演習	福井愛美	学内平均を上回り、学生からは予想以上に良い評価を頂いた。	問8と問11は多少反省も含めて評価を低くしたが、さほど影響はなかったようである。	社会に出て役立つ事ばかりで授業を受けてよかった、一般常識が学べてよかったとの意見が多数あった。	授業の進行速度がやや早かったとの意見が1人あり、クラス全体に目を配る事も忘れずにしたい。
オフィスマネジメント	仁平征次	ほとんどの項目で学内平均と並んでおり、大きな問題点はなかったと認識している。	昨年と大きく変化した点は感じられない。		授業中の学生の反応が少ない。興味を持つ素材を使うよう工夫が必要と感じる。
事務文書管理	仁平征次	全項目とも平均および昨年を大きく下回っている。オフィスマネジメントと比べると、内容とは関係ない問1で0.67も差がありサンプル数が少ないことも影響していると思われる。	この科目は全項目が2年連続平均を下回る点を考えると、科目の内容に興味を持っていないことも考えられる。		教育内容や教材の大幅な変更も検討する必要がある。

現代社会論	中川 博	学生評価平均値で最も高いのは問1(授業では大きな声で聞き取り易い速さ)の4.15で北条第3教室で受講者も30余名だったので適切であったため学生は落ち着いて受講できたものと思う。	問8(板書は適切であった)の学生評価「そう思う」が21.2%と最低なのは教壇がないことあると思います。	特になし	毎回、配布するレジュメに板書内容を写し、テスト終了後に提出させチェックします。
マスコミ論	中川 博	学生評価平均値では問8(板書は適切であった)が3.47と最も低いのは板書を工夫しなくてはと思います。	同一科目を30年以上も講じているとついついマンネリに陥ることを自戒し、学生の関心をひく内容に変える工夫を検討したい。	特になし	マスコミの中でもテレビにウェイトを置いた授業内容に変えたい。
異文化間コミュニケーション論	村井隆之	「学生評価」の平均値(問1～問16)は「3.75」である。この数字から判断して、学生のこの授業に対する評価は「可もなく不可もなく」というところである。しかし、当該平均値をさらに向上させる努力と工夫が必要である。	担当教員の「自己評価」はすべて「4」とした。一方、学生評価の平均値は「3.75」なので、その差は「0.25」と学生評価のほうが若干下回っている。昨年度もこの傾向が見られた。この点の改善が今後の課題であると思う。	ほとんどの学生から、授業内容・方法等についての好ましい反響・意見を頂いている。特に、「私語」が少なく授業の雰囲気良かったという記述が多くあった。	「学生評価」については、ほぼ合格点が得られているので、現時点では授業内容や方法を大幅に変更する必要がないと思うが、なお一層の工夫を加えて、さらに充実した授業にしていく所存である。
International Communication	奥田 純	実質5人のクラスだったが、評価は良好であった。テキスト内容と関係のあるビデオ教材(アメリカの大学生活を簡単なドラマにしたもの)の視聴を授業の半分使ったことがよかったと思われる。	今年度から前期開講となり、選択科目でもあり1年生が少ないクラスとなった。授業としては左記のビデオ教材の導入で、学生の授業内容への興味が大幅にアップした。テキストはビデオを理解する上で役立つ箇所を選択的に取りあげ、これも効果的に機能した。	受講生はビデオ教材が気に入った様子で、退屈することがなかったというコメントも得た。少人数のクラスで静かな環境の問題は一切なかった。	ビデオ教材は、今後も引き続き利用したい。ビデオ内容をよりよく理解できるよう、サポートになるプリント等の教材補充も行いたい。
観光関連法規演習	西川 博	5名の登録があったが、実質的には2名の参加であった。1名はきちんとまじめに取りくんでいたが、もう1名は授業に取りくむ態度もそうまじめとはいえない状況であった。そのあたりの状況が反映されたいと思います。	ある程度的人数が確保できなければアンケートの客観性も出てこないのではないかと感じました。		資格対策の授業であること、ある程度的人数の確保ができなければ授業は成立しないことを確認した上で授業が行われないといけなさと感じました。
旅行業務演習	西川 博	学生の理解度を考慮した授業の進行速度、板書の工夫も必要であるように感じました。	一年一年学生の理解度は異なっており、こうした状況に合わせて、工夫をかさねていく必要があると感じました。		板書、進行速度のより一層の工夫が必要であると感じました。
人間関係論	北村瑞穂	学内平均を上回るかなり高い評価を得た。特に、学生の質問や発言に適切に対応したことが評価された。	昨年度より評価が上がっている。受講者が少なめだったこともあるが、今年度は授業について面白い意見を述べられる学生が複数いて、意欲的に授業を受けてもらえたと思う。	DVDが面白かった、心理学に興味をもたという意見が多かった。一部、授業が早くついていけなかったという意見もあった。	その学年によって、内容のレベルがあう場合と、そうでない場合がある。今年度はたまたま上手くいったが、その年で学生のレベルがどれくらいなのか見極めが必要だと感じた。
臨床心理学	奥村和弘	全体的によい評価を頂いたと考えている。今後も学生が主体的に参加し、講義内容を理解出来たと実感できるように努めたい。	講義内容を昨年度と比較すると、学生の参加体験型の時間を増やしたことが、学生の講義への参加意欲に影響を与えたと考えている。	特にありません。	受講生が少なく、その分学生1人1人と対話することができたと考えている。学生とのつながりを大切にしながら、学生が自らの選択によって授業に参加出来るように心掛けたい。
性格の理解と把握	北村瑞穂	全体的に学内平均を上回るかなり高い評価を得た。	昨年度より評価が上がっている。受講者が少なめだったこともあるが、今年度は授業について面白い意見を述べられる学生が複数いて、意欲的に授業を受けてもらえたと思う。	心理テストが面白かったという意見が多数だった。自分のことが少し分かったという意見もあった。	理論よりも心理テストに興味をもつ学生が多い。心理テストを実施した週は、楽しそうだが、理論の週はつまらなさそうなのもある。心理テストと理論がうまく結びつくように説明を考えていきたい。

心理学研究法	北村瑞穂	学内平均と同等か、少し下回る評価を得た。授業内容の理解度が低かった。	自己評価とほぼ同等の学生評価であった。昨年度はこの科目を担当していない。	内容が難しかったという意見もあったが、「研究法を勉強して情報をどうやって扱うか、嘘の情報をどうやって見抜くかが少し分かった」という意見もあった。	内容が高度であったため、理解が難しい部分があったように思う。来年度は、理論を減らして演習を増やしていきたい。
カウンセリング概論	鍛冶谷静	高い評価をもらったが、選択の少人数授業であり、しかも5コマ目の授業をあえて取ろうという学生のモチベーションの高さが大きく影響していると考えている。	昨年度と異なる点は、ライフ開講科目であるが清風学舎での開講だったためライフと保育の受講学生の割合が逆転したことである。おおむね熱心な授業態度を見せてくれたが、教員自身も感じているように難易度がやや適切ではなかったかもしれない。	特にありません	学生の熱心さに支えられた授業だったと感謝している。5コマ目ということもあり、学生の集中力を持続させるためにも講義に終始せず学生自身が作業や発言・発表できるような内容をもっと取り入れていきたいと考えている。
幼児美術	中路則夫	良い評価をもらって満足している。	もう少し改善できる部分があると認識している。	絵が好きになり、楽しく授業ができた事が最良であること。	時間が、絵を描くには短すぎる。もっとゆったりと大きく流れる、長い時間が制作には必要。
TOEIC (入門)	井上泰子	新しく開設した講座なので、試行錯誤を重ねながら定着したいと考え、準備していた。2回生が取得単位数にならないこともあって、結果的に、最後まで受講したのは2回生1名のみであった。学生の実態に合わせ、途中教材を変更しての実施となった。異常に高い評価はその結果と言える。	選択科目で、英会話の授業が2単位から1単位に減ったので、意欲的な1年生と社会人の受講を期待していたが、受講者が集まらなかった。1対1の授業で、それなりの教育的効果はあったと思うが、本来の評価とは言いえない。	プリントや英語の歌など、いろいろなことをしてとても楽しかったとのことである。	後期にも、TOEIC(初級)の授業があるので、できる限り受講者を確保したい。受講者の到達度や必要に応じて、柔軟に指導内容と指導方法を工夫したい。
日本語表現法	富森盛史	学生からは各項目ともよい評価を得た。学生からの質問・板書に意識して進めたことがアンケートに反映されている。	(本年度新採用のため、昨年度との比較はない)	内容がやや難しいとの意見が少数あったが、一方ではより多くの話題や教材を求める声もあり、今後は幅広い内容にしたい。	授業の進度、内容についてはおおむね好感をもって受け止められている。今後は興味深い教材を提供し、より関心をもって意欲的に学ぶ姿勢を持ってよう工夫したい。
英語(英会話B)	奥田 純	2008年度より必修から選択に移行した科目だが、履修学生は1年次に必修科目として単位を取れなかった学生と幼免を目指している学生1名。実質必修科目に近かったが、学生の評価は良かった。	左記の事由から昨年度との比較は出来ないが、結局登録者7人に対して3人しか残らず、少人数による評価であった。	3人のうち2人は授業内容が分かりやすかった、取り組みやすかったとのものだったが、残りの1人は難しかったが勉強になったとのもの。いずれにしても、最後まで頑張った学生にはそれなりに満足してもらえたと思える。	来年度は、本科目の担当から外れる予定だが、教科書のレベルはまずまずで、教科書内容を補足するプリントを独自に作って、学生に考えさせる機会を与えたことが学習上プラスに働いたと思われ、英会話A(必修)の授業でも同じ手法を取り入れてみたい。
パフォーマン ス演習	畑野清司 北村瑞穂	今回は前任の村井教授と体調を崩した中川准教授が抜けた関係上、内容を大幅に変更し、学生にとってはかなり負担の多い授業内容となった。結果は学生評価の平均点が前年の3.71から3.92に上がった。	教員のほぼ予想した内容であった。講義に重点をおいて、内容を盛り沢山にしたので学生にとっては楽な授業ではなかった。	ノートを取るのが大変だった。という感想が多く見受けられた。	今年度が最後となったが、自分の考えやグループの考えをまとめて、発表する機会は益々増えると思われるので、「プレゼンテーション」などの科目で学ぶことが望ましい。
世界の文学	富森盛史	予想以上に評価数値が高く、やや難解な内容を扱っていただけに意外であった。興味・関心の高い学生が受講していたことも理由であると考えている。	(本年度新採用のため、昨年度との比較はない)	海外の文学と日本の文学をほぼ同じ比重で扱ったが、日本文学の授業に高い期待があったようである。	海外の文学を平易に、興味が持てるように工夫するとともに、日本文学、とくに古典や最近の文学に比重をおいて、より身近なものになるよう配慮する。

情報倫理	大野麻子	学生評価が全て学内平均を上回っていた。中でも、難易度、進行速度、理解度については、授業のスタイルを講義中心から演習中心に大きく変更したため評価が下がることが予想されたが、学生に受け入れられたようで良かった。	全体的に学生評価が自己評価を上回っていた。昨年度「先生の話が長い」という意見があったので、演習を多く取り入れる形に変更したため、個人的には授業の難易度が上がったことと時間的な余裕がなくなったことを危惧していたが、学生の評価をみたところ、難易度や進行速度についてよい評価が得られていたので安心した。	人数が多く、板書の字を大きくするよう心がけていたが、「板書の字が小さかった」「板書が多かった」という意見があったので改善したいと思う。	演習に関しては今後も学生が興味を持つようなテーマをもとに工夫した課題を考えたいと思う。板書については教科書にラインを引かせたり、簡潔にポイントだけ書かせることで負担を軽減するよう努めたい。
くらしとパソコン	鈴木正彦	学生からは予想以上によい評価を得た。いずれの評価項目についても学内平均を上回っていた。	学生評価が全体的に自己評価を大きく上回っていた。	特になし。	理解度に大きな差のある問題点を克服するため、特に、Excelでは基本的な関数に絞り、繰り返し指導を行なった。今後も、この姿勢で授業に臨み、一般性を追究したい。
くらしと社会	中川 博	全般的に低いのに驚く。	学生が真剣に評価しているのか疑わしい。	特になし。2,3人からほめことばをいただいた。	特になし。
くらしと政経	中川 博	評価4に近いものも多くありがたいことだと思う。	学生の評価の方が低いのに驚く。	何人かの学生からおほめのことばをいただきありがたいと思う。	特になし。
日本国憲法	沼口智則	比較的人数(登録者)が少なかったせいか、一人一人の学習能力や関心にそった授業ができたと思います。従って、学生からの、ほぼ期待どおりの反応結果でした。	私の自己点検評価の方が、学生へよりレベルの高いものを求めており、少し厳しい基準を設定しているようです。私の基準と学生の授業評価のバランスが必要なようです。	特にありません。	私が授業で学生に求める基準が厳しかったり、高すぎても学生がそれを評価しなければ意味がありません。だからといって授業の質をおとすわけにはいきませんから、そのバランスをうまくとれる授業をめざしていきたいと思います。
スポーツⅡ	黒石久昭	学生からは、高い評価を得ているが、補助教材(プリント・資料)の扱い方に今後の課題があるように思う。	学生主体のゲーム中心で、学生が喜んで、活動できる場を設定したのが、昨年同様良い結果に繋がったと思われる	小人数の為、個々の学生の活動ニーズをとらえられた点が良かった。	ライフの学生スタイルが、楽しい、面白い、が中心となる為に、今後ともその点を十分に考慮する必要がある。
ファッションマーケティング	本山光子	全体的に学内平均よりも高い評価を頂いているが、特に授業内容の理解、難易度、進行速度、授業環境に関しては学生から予想以上の評価を頂き、特に難易度、進行速度については前年からの課題であったので、これについては成果があったと考えられる。	話しの聞き取りやすさ、教材の活用、板書の仕方、学生への対応については、自己評価よりも学生の評価がわずかだが下回っている。自分では十分注意・配慮して行ったつもりであったが、より細かな配慮が必要であると反省した。	自由記述は数人が提出してくれていたが、提出されたものからは、ファッション企画の専門的な知識が吸収でき、この分野への興味を高めてくれることが伝わってきて、学生の意欲の高さが感じられた。	自己評価に対して学生の評価の低かった話し方、板書、設備・教材の活用方法について、今まで以上に分かりやすく、するための配慮をしていくことが必要と感じた。
ファッション販売Ⅱ	本山光子	全体的には学内評価よりも高い評価を頂き、総合的にみてもこの授業に満足して頂いているようである。しかし板書の仕方や授業に集中できる環境づくり、そして教室の設備については自己評価よりも低かった。	多くの項目で自己評価に対して予想以上に学生の評価が高かったが、問1の話し方についてはわずかに差が見られ学生評価が下回っていた。また板書の仕方、静かな環境づくりにしても下回っている。熱心さ興味については、わずかな差は見られるが検定試験対応の授業ということで実際の学生の授業態度から考えるにこの差は問題ないと推測される。	検定試験に対応して練習問題に取り組む形式の授業であるが、それを通して「ファッション知識が身に付けられて良かった」「自分の目標とする職種に役立つ」という意見が寄せられた。試験前1か月間は各曜日に補講をするという学生にとっても過酷な状況だったと思われるが、「集中できる環境を作ってくれた」という意見も頂いた。	練習問題に取り組む形式であるため、板書がメモ的にランダムなものになりがちであった、そのため分かりにくい面があったと反省する。今後はもう少し整理した表記に気をつけた。集中できる環境づくりについては、問題演習が多いため眠くなってまう学生がいたように感じられたので、授業の中で気分転換できる工夫を考えたい。

メイクアップ (ネイルアート演習含む)	塩谷佳代	学生からは予想以上によい評価を頂いた。精一杯行った授業に対して、満足して頂いたことは嬉しい結果であるが、全体的に出席率があまり良くなかったことが残念である。	前期と変わらない姿勢で臨んだが、後期の方がより良い学生評価を頂いた。前期に比べ、少人数であったことが、より行き届いた授業に繋がったのではないかと思っている。ただ、前期同様、講義をしっかりと聞いていない生徒もあり、理解できていたのかの疑問があり、学生評価とのズレを感じた。	楽しく授業を受けられた、今後の役に立つと思うとの意見をたくさん頂き、嬉しい限りである。	楽しい授業との意見は喜ばしいのだが、授業に対する真剣みにはやや、欠けていたように思う。実技は楽しみながら真面目に取り組んでいたが、講義中の集中力の無さが気になった。しっかりと聞かされる講義という点で力不足の感があり、努めなければいけない点である。
ブライダル総論Ⅱ	小野清和	学内平均値・自己評価より全て高かった事は嬉しいことです。それだけ学生の興味がある分野で、一度はやって見たい仕事であると思います。もっと内容的に分かりやすくパソコンのパワーポイントで紹介して学生が一番知りたい事を教えて行きます。	パワーポイントを使用して音楽・映像・物事のストーリーを分かりやすく表現できた事が学生に受けいられたと思います。後期は特に学園祭で模擬挙式・披露宴を実施。大成功した事で、学生のより理解度と満足度が充実したと思います。	学園祭で模擬挙式・披露宴を実施した事で、時間の共有する意味、達成する喜び、人間関係のすばらしさ、すべては自発的行動の結果から得られ、体験することで学ぶ事が大変多かった。との意見が多く模擬挙式・披露宴を実施した意味があった。	机上の空論ではなく、体感することで将来の為の学習を行う。 ビジネススキルの基本「PDCA」を実行することによって、目標が達成できることを学ばせたい。
ブライダル演習Ⅱ	國田育代	予想以上の評価に恐縮しております。この学科を通じ、体験の中や、自分で感じたことから学んでくれたことは大きかったと思います。	自己評価に関しては、1年目ということもあり、課題や創意工夫をしていきたいことが多々あり、次回へつなげていきたいと思っています。学園祭を終えて、驚くことは、授業態度や、挨拶 返事 取り組む姿勢の大きな変化です。この状況を前進させていくために 努めていきたいと思っています。	特にありません	プリントやテキストにも工夫しより、理解しやすいものを作成していく
ホスピタリティとサービス	小野清和	学内平均値・自己評価より全て高かった事は嬉しいことです。何故それをしないといけないのか、その意味合いの奥にある本来の意図を具体的に教えた事が良かったと思われる。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていた。学生は総合的にみてこの授業を受けて満足していると思う。と言う箇所が一番学生の評価が高かった事が、今後授業の参考になりたい。	社会人となっていく上で大切な事柄やマナーを習得。ビジネスマナーの基本である「報・連・相」が持つ意味とその重要性が習得できたとの趣旨が多かった。	今後はもっと現場の状況を動画配信にて何故そうする事が必要なのかを徹底して教えてモチベーションの切り替えの大切さや、自分の仕事はほかの人に与える影響、自分の仕事の社会的な意義や役割は何かと言うサービス業本来の人を中心としたビジネスの本質に触れて行きたいと思っております。
プレゼンテーション演習Ⅰ	服部美樹子	受講者数が少なかったこと、また、資格取得という目標を持った受講者自身の意欲も作用し、おおむね計画通りに授業が進められました。したがって、学生による評価と担当者との評価はほぼ、一致しているように思われます。	学生評価、自己評価ともそれぞれが立場でよい評価をしていました。しかし、それぞれに多少のずれがありました。	人前で話すことに慣れてきたと言う評価がありました。今後、場数を踏んで慣れていってもらおうと思います。	現状を維持していく予定です。ただ、授業の内容については、学生の達成感と担当者が期待するものに若干のずれがあるように思われますので、そのずれを是正できるように、一人ひとりに対する指導をきめ細かくしていきたいと思えます。
プレゼンテーション演習Ⅱ	服部美樹子	授業に対し、おおむね満足しているように思われます。ただ、授業の取り組み、理解度の点において学生の自己評価のほうが高い結果が出ており、こちらの期待値と多少のずれが見られました。	1の項目とは反対に、教員自身に関する教員の評価と学生側からの評価にもずれがありました。それは、遅刻や欠席が多いが学生からも評価されることにより、学生の理解度や満足度差が出てくるのではないかと考えられます。		意欲的に取り組む学生と消極的な学生のそれぞれの指導に工夫が必要になると思えます。また、課題についてもそれぞれにあった内容の検討をします。

色彩の基礎 I	倉本真紀	学生からは全項目において学内平均値を上回る予想以上にいい評価であった。	講義を分かりやすく大きな声で話したつもりではあるが、進行状況において少し早口になった部分もあるのではないかと感じた。	内容が少し難しいとの意見があった。	授業内容の理解を深めるために、基礎的な内容をさらに噛み砕き、資料を変更するなどして進めていきたい。
色彩の基礎 II	倉本真紀	シラバス通りに進めていなかったにも関わらず、理解度に関して学内平均値より高い評価であった。	人数が多く私語も非常に多かったため、板書を増やしたりと工夫をしたが、授業態度が悪い生徒に対してどう対応していかか自分の中での課題になった授業だった。	内容が難しく、説明が私語で聞き取れなかったという意見があった。	基礎 I で学んだことを実技で落としこめる内容にしていきたい。
色彩のデザイン	倉本真紀	全体的に学内平均値を上回る評価だった。	思ったよりも学生の理解度が高く、自分自身と向き合うということに対して真剣に考えている学生が多いと感じた。ただ、授業内容を詰め込みすぎたかもしれない。	面白かったので、この授業の上級編や続きを受講したいという多数の意見があったのが意外であった。	「自分と向き合い、人生をデザインする」というコンセプトを元に、更に内容を充実させていきたい。
医療事務総論	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度、理解度についての評価がやや低くなっている。	前年度後期、今年度前期と比較すると、授業の難易度、進行速度、理解度についての評価は、かなり良くなっている。	「難しかった。」という記述もあったが、「よくわかった。」「質問したことをわかるまで教えてくれてよかった。」「プリントがわかりやすかった。」というものもあった。	内容をより基礎的なものにする。授業計画に沿いながら、進め方に、より弾力性をもたせ、無理なくすすめるように努める。
医療事務演習	倉戸啓子	授業の難易度、進行速度、理解度についての評価がやや低くなっている。	特にありません	「質問したことは具体的に教えてもらったのでよかった。」というものもあったが「難しかった。」という記述が多くあった。	次年度より、もう少し基礎的な内容に変更する。
医療秘書実務	東野國子	人数が少ないことが関係していると思うが、良い評価をいただいたと思う。	板書の適切さ、授業の熱意、質問に丁寧に答えてくれたかの項目の評価が高かった。	人数が少ないため、細かい質問ができて良かったという意見が多かった。	シラバス通りにすすんでいないという意見があった。人数が少ないことは、良い面もあるが、休む学生がいると、逆に進度を落としたりして、(例えば3人のうち2人が休む)授業の進め方を調整するのが難しかった。このような場合の補助のプリントの作成など課題が見えた。
解剖生理学	奥田喜一	今回の評価結果では学生の評価がすべての項目で学生平均を上回った。	自己評価と学生評価とはおおよそ連動しているようだが、問7ではテキストの使用不足を反省していたが、学生評価の結果は以外だった。	楽しかったと書いてくれた学生が数名いた。理解度が高まったという事か。	前回までの結果では常に科目の難易性による理解度の低さに苦慮していたが、今回の結果で理解度が高まったのはよかった。
薬理学	大西義博	学生からはまだ、学内平均を下回る厳しい評価を戴いた。	教科書を網羅的に説明する方針で授業を行ったが、学生は授業の内容がまだ難しいと考えているようだ。特に、覚えなければならない薬品名の多さに学生は苦慮しているようだ。	授業がまだ難しかったとの意見が多かったので、わかりやすく説明する方向で検討する。また、プリントの字が小さかったとの意見があったので、大きくする方向で検討したい。	大学生は単位や資格だけを取得すればいいと思う受講姿勢を改めさせ、薬理学を受講し勉強することによって社会で生き抜くためのリテラシーの向上も会得することが出来ることも理解させたい。理解度を向上させるために、学生に宿題を出したり、復習に時間を増やして授業の一助としたいと考えている。

社会福祉概論	山戸隆也	学生からは全項目にわたって予想以上によい評価を頂きましたが、授業内容ではひどい点もあったと思っております。甘い評価だと思えます。	学生の授業への感想や振り返りを頻繁にかいてもらっています。「社会の厳しい現実を授業で知り、つらくなった」、という感想も時々あったが、耳触りの悪いこともお伝えしていく必要はあると思います。	「わかりやすい授業で、やさしい先生でよかった」といった記述が多いのですが、いろんな意味で、もっと厳しくしていくことを検討しております。	多くの資格取得に関わる科目であり、落としにくいのが、試験の方法も含めて「本当の意味で学生にとって質の高いもの」とはなにかについて考えていきたいです。
介護概論	植北康嗣	学生が全体的に高い満足を与えられたことはよかったと思う。介護技術体験も取り入れたため、会場の都合上シラバス通りにいかなかったこともあった。しかし、技術の体験は好評で取り組みも積極的だったので、来年度以降も取り入れたい。	特になし	全体的には、介護について幅広く学ぶことができ、満足度は高かった。要望としては、実技をもう少し体験したかったや大事なポイントには下線を引くなどのより丁寧な指導をしてほしいとあったので、今後検討したい。	自己評価を学生評価が上回っていたが、これに満足することなく授業に工夫をしていきたい。また今後も、学生自身が具体的に福祉サービスを使う術をより理解しやすくなるよう生活に則した授業を展開したい。
臨床医学概論Ⅰ	小泉雅子	自己評価に比し、全体に高評価だったのは良かったが、学内平均に満たないのは今後の課題です	今回が初授業の1年であったが、高評価と低評価が見事に両極端なクラスだった。「分かり易かった」と「難しすぎる」を今後どう中和させるか、よく考えて、次回に生かしたいと思います	左記のとおりであるが、筆記の多いことと、席が後方の生徒に対する配慮を修正して次回に臨みたい	私の授業は必須課程ではないが、日常生活において是非知っておいていただきたい医学の常識を、医療従事者側と受給者側の両観点からしっかり教えていきたい(近年の医療過誤の増加とモニターへイシエントの増加を踏まえて)
医学・医療用語	小泉雅子	予想以上の高評価で何も言うことはありません	このクラスは2年間を通して、各生徒とも地道であったり、向上心があったりとバランスよく全体にまとまったよいクラスだったように思います。難を言えば、一部についてもう少し出席日数のほしい生徒がいたことくらいです。	おれの言葉と今後に生かせる貴重な意見がともに書かれていて、今後のやりがいと参考になります。	毎年、同じパターンでやっていますが、生徒が違うとここまで反応にブレがあるかと驚いています。(高評価と低評価のブレ) 今後はより生徒のカラーに合わせて、中盤辺りで難易度の練り直しも検討していこうと思います。
診療情報管理論Ⅱ	赤松隆二	学生からはよい評価をもらった。	自己評価と学生評価の差で改善すべき点を次年度に生かしたい。(今年度から授業)	授業が分かりやすかったの意見を大切に更にも努力したい。	授業に興味を持たせることにより理解度が上がるので更に工夫したい。
ICDコーディング演習Ⅱ	富永純子	前期と比べて学生からの評価は良かったと思いますが、学生の進行度には多少ばらつきがあり、不安を感じたこともありました。	月曜日は、祝日が多くシラバス通りに行かない点もあり、自己評価を低くしたところもありましたが、学生評価が上回っていました。	白紙の提出も何件かありましたが、コーディングは最初は難しかったが、少しずつ理解できて興味深く、コードを見つけたときや正解したときの面白さに気づき、やりがいがあったとのことでした。	学生一人一人に配慮をし、理解度の差に丁寧に対応していきたいと思います。
診療報酬請求事務演習	倉戸啓子	授業の難易度以外の項目については、概ね良い評価になっている。	少人数であったため、質問に対して十分に対応できたことにもよると考えられる。	特にありません	特にありません
医療事務コンピュータⅡ	倉戸啓子	特にありません	授業の難易度、進行速度、理解度についての評価も含めて、自己評価よりも学生の評価の方がよかった。	「難しかったが、医療に必要なので頑張った。いつか何も見ずにすらすらできるようになりたい。」「難しかったけど、授業は楽しかった。」という記述があった。	授業で使用するソフトの立ち上げに非常に時間がかかること、および授業中にパソコンのトラブルが発生することがあり、特に試験の時には気を遣います。できれば機器の改善をお願いしたいです。

リハビリメイク演習Ⅰ	志村美代子	全体的に学内平均を上回っていること、授業を受けての満足度や指導の適切さ、技術・実技の向上という項目が評価として高かったことは良かったと思う。	自己評価と学生評価の差がかなりあった項目(問12)について、熱心さをあまり感じられなかった学生もいたが、評価としては学生の方が高く、授業態度だけでは興味の度合いなどは見えない部分があると感じた。	日常生活において身近なものという点からか、楽しんで授業を受けられた等の記述が多かった。表面的な楽しさだけではなく、精神的なこと、内面の触れる記述がなかったことが残念である。	授業の理解度について、表面的な楽しさだけではなく、より内面的なことを理解してもらえるよう、講義内容に工夫が必要だと思う。
食の歴史と文化	坂口守彦	本科目のような人文系科目を担当した経験は少ないが、授業開始前に想像したよりも良好な評価を得た。リラックスして授業に臨むことを心がけ、プリントを配布し、カラー写真やビデオを示して授業を実施したことなどが好結果を生んだものと思われる。	授業に際して、できる限りの準備をしたので、学生にこちらの熱意が十分に伝わったものと考えている。とはいえ、学期末の定期試験結果からみて、学生は講義の内容をどこまで理解しているのか、手放しで喜ぶべき問題ではない。	一般常識として既知であったり、高校の歴史の教科ですでに学習したところまで重複して教授しているという指摘を受けた。このような指摘は教える側にとって、きわめて貴重なものであるから、今後とも自由記述は実施してほしいものである。	授業評価アンケートで好評であっても、期末試験の結果がこれに見合うものだけなければ意味がない。来期はショートテストを実施しつつ、授業の理解度を深めたい。
食の安全性	坂口守彦	本科目は比較的教授しやすい科目であるが、学生の評価は学内平均とほぼ同じであった。本年度は、前期に比べて受講者数がきわめて少なかったが、熱意をこめて授業の実施に努めた。内容が十分理解されているとはいいいがたい。	昨年度と同様に授業に際して、できる限りの準備をし、昨年に劣らず工夫をこらしたにもかかわらず、学生にこちらの熱意が十分に伝わっていないところがある。授業時間帯(5時限目)にも問題点があるとおもわれる。	自由記述は好ましい試みであり、今後も継続することがのぞましい。しかし、積極的な意見の陳述は寡少(10%以下)であるから、ここにも設問の仕方に工夫が必要であろう。	授業は主としてプリントを配布して進めたが、ときおりカラー写真、図表などを提示した。これらは学生の理解を助けるために不可欠である。プリントの説明、補助教材などを組み合わせさせて授業の要点を明示し、これまで以上によく理解させることに努めたい。
食品材料の基礎知識	坂口守彦	授業開始前に想像したものよりも高い評価を得たが、学生が正當に評価したのかどうか疑わしい。昨年度と授業内容、方法などはあまり違いはないが、以前にもまして授業に際しては声を大きく、私語を取り締まり、できるだけ図や表を駆使して臨んだ。しかし、これが必ずしも理解されていないようである。	全般に学生による評価は自己評価よりも低い傾向がみられた。昨年度のみならずその前年も授業内容に難解なところがあることを指摘されていたので、今回はこの点に改良を加えたが、かならずしも良好な結果を生んだわけではない。	科目の性格上基礎的な部分が多く、学生の興味をつなぎとめにくいところがある。授業内容が難解だ、授業内容のポイントが明確ではないなどの指摘がみられた。自由記述させるのは好ましいので、今後も継続することがのぞましい。	今年度はプリントなどの補助教材を多用し、学生の興味をつなぎとめる方向で授業をすすめたが、これがどの程度学生の理解度増加につながったのか明確ではないので、次年度も継続して実施し効果を確認したい。
食空間のデザインと演出	播賢知	学内平均を全て上回っており、しかも実際自分と学生の評価も一致しているので、お互いに通じ合っていたのだと感じ、嬉しいです。	学生評価と自己評価が大体一致していた。	感謝の言葉だけで、特に意見は無かった。	受講生数が少ないとコミュニケーションが図りやすく、講義内容だけでなく、自分の姿勢も含めて理解度が高い。
フードマネジメント・メニュープランニング	播賢知	平均値を下回るものも有るものの、大体同じ値。いつもの事ながら板書の必要性に迫られる。	学生評価と自己評価が大体一致していた。	自分自身も気がつけた事もあるが、今までのように両極端な意見は無かった。(面白いという反面嫌みっぽいなど..)	正直授業態度の悪い学生はほとんどん注意はしたものの、居眠りは黙認しています。ですのでその学生たちの意見やら評価は果たして信憑性が有るのやら・・・？新年度はあまり力まず、自分をあまり出さないでみようかと思う。
テーブルコーディネート実習	乾 博子	学生からはかなり高い評価を頂きました。今まで触れたことのないテーブルコーディネートに、興味を持ち、基礎知識、また応用力を身につけてくれたと思います。	自己評価と学生評価はだいたい予想どおりでした。	この授業を受けてよかったというような意見をたくさんいただきました。とにかく楽しく授業を受けることが出来たという意見が多かったことが私にとってうれしい結果となりました。	今期で退職しますが、この授業を受け持ち学生たちとかかわりを持たせて頂いたことは、私にとってもとても価値のある時間となりました。ありがとうございました。

調理実習Ⅱ	奥田玲子	実習の内容が技術や実技の向上に役立ったと評価されたものの、全体的に評価点は4点を下回る結果であった。	前年度に比較し、全項目で評価点が下回った。グループ編成にも問題があったと感じる。	調理に対する興味を強く持って、今後への発展を感じさせる内容もみられた。	実習の進め方、説明(全体説明、実習途中での説明)に工夫が必要と感じる。次年度はグループ編成にも配慮を行い、全員が責任と積極性を持って取り組めるよう改善する。
製菓材料の基礎知識	林 真千子	今回に評価は学内平均をやや下回っているものの、昨年度を上回る評価をいただきました。今後の評価向上に努めていきたいと思います。	昨年度と同じく学生評価が自己評価を下回っていましたが、全体的に見ると、昨年度より高い学生評価をいただきました。特に、熱意をこめて真剣に行ったかの点については、最も高い評価であり、うれしく思いました。しかし、授業内容の理解度は悪いため、今後は理解度向上に努めていきたいと思います。	専門用語が難しいという意見がありました。これについては、今後、理解しやすくなるよう、解説しながら授業を進めたいと思います。お菓子の材料について細かく、わかりやすく学べて良かったという意見を多数いただきました、うれしく思いました。また、ビデオの内容が良かったという意見もいただき、今後、更に学生にわかりやすく、ためになるような視聴覚教材の利用に努めたいと思います。	今後は専門用語の詳しい解説を加えながら、授業をよりわかりやすいものになるよう、努めていきたいと思います。
製菓・ラッピング実習Ⅱ	清郷洋子	今回も自己評価をはるかに越えるよい評価を頂きましたが、特によくわかってくれたと思われのが問11の「授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境を作る努力をした。」が問1「授業では大きな声で聞き取り易い速さで話すように心がけた。」や問9「授業は熱意を込めて真剣に行った。」、問13「学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。」と同じで一番高い評価だった点です。授業中はマナーについてもよく注意をしたので、学生からは厳しいと見られていたと思いましたがやはり社会に出てから学生が困ると思った私の気持ちを理解してくれていたのだと思いました。	今回始めて、問11が前回トップだった問9や問13とともに高評価に入りました。次いで問12の「学生は授業に興味を持って熱心に取り組んでくれた。」と問20の「授業のないようは技術や実技の向上に役立ったと思う。」がよく、「楽しく学べて自然に身につく。」授業を心掛けている点が顕著になってきたと思います。この授業でさらに技術だけでなく、理論面を充実させて食の問題についてもHACCPの考え方を軸に理解して貰えるように私自身が勉強し、難しくなくてわかり易い授業になるよう努力したいと思います。	今回も前回同様、学生からは「授業がとても楽しかったし、美味しかった。」「色々な事が学べて良かった。」「作れないと思っていたお菓子が作れて良かった。」等の記述が多かったのですが、「この授業を受けた事で考え方が前向きになり、是非ラッピングコーディネーターの認定試験を受けたいので必ず受かるように宜しく願います。」との記述が数枚ありました。社会に出ると何でもよいので得意な分野で人とは違うスキルを身に付けることが大切です。資格を取得する事によって今迄出来なかったことが出来、自信が出てくると思われれますので、力強くポジティブに進んで欲しいと思います。	学生は授業で、製菓の知識や技術だけでなく色々な面から、色々な事を学びたいと思っているという事をも痛感しました。日本の礼法に基づいた「風呂敷」や「水引」、「和紙」等の日本の文化を伝承するラッピングの授業も好評でしたが、イギリスの「アフターヌーンティー」の授業も本場の材料を揃えて行った為か、異文化を学べてとても勉強になったと高評価でした。今後も解りやすく楽しみながら自然に学んで貰い、さらに実社会で役立つ授業を心掛けたいと思います。
アロマセラピー	倉津三夜子	全体を通して評価は高く、満足は得られていると思われる。一方、詳細を見ると、進行速度、難易度、また板書に関して、若干とまどいがあるのがわかる。	学生評価は全体的に自己評価を上回っている。なかでも、視覚教材に関しては、さらに工夫を重ねようと考えていたが、あまり実行できず、昨年度同様、自己評価が低い。	実習をととても楽しんでいることが分かった。また個別の必要に応じた指導に満足度が高く、今後も必須の内容に織り交ぜて行きたい。	進行の速さや内容の難しさを感じることはないよう、基礎的な理解を重視する。また、理論と実習との繋がりをより明確にすることで学習意欲を高める。
生活のサイエンス	緑川知子	授業速いと思う学生がいた	毎回反省する機会を得られて、向上していくのを自覚できるが、毎年学生の反応が違うのでむづかしい	現代生活に役立つ知識を楽しく身につけられる授業だったとのこと、また、熱心に講義をしたことが学生に伝わっていることが分かった。	内容を厳選し丁寧にゆっくり教えること、知識を覚えるだけでなく応用実践できる力をつけることを目指して自ら学んでもらう授業を作りたい
ライフ&ウェア	緑川知子	興味を持って取り組んだかという項目に向上の余地があると思った	学生・教員間に信頼関係に基づき好意的な人間関係を作ることができたことが熱心な受講態度に結びついた	これから先も役立つことを必死で教えたことが伝わり、深く考える時間を与えられたことによって考え理解できたことあり、少人数講義だからできたと考えている	学生が、より一層能動的に参加できる授業を企画していきたい
インテリア論	小倉育代	思いのほか悪い評価だった。理解してほしいという重いが先にたってしまったのかも知れない。	両者の評価程度はほぼ同じであったが、熱意、対応の面で自分の重いが伝わっていないことが残念に感じた。		理解度アップに努めることが大事ではあるが、レベ差が大きく、どこに焦点を当てるべきかが非常に大変である。

マリッジライフ	中川 博	受講者が少なかったせいかゆっくりと話せた結果、評価がほとんど4以上でありがたい。	今年度の方が学生の授業評価はよくなった。	幾人からの学生から結婚についてよく理解できたとほめられた。	特になし。
クロスカルチャー	長沼さやか	学生の評価が予想以上に良かった。講義の難易度のレベルや、理解度については、もう少し低い評価かと思ったが、意外に高いと感じている。	学生評価が多くの項目において、自己評価を上回っていた。今回、はじめて出講したため手探りの感はあったが、学生への接し方、学生の興味の方角性などを知ることができて良かった。今後もクオリティを下げずに講義を行ってゆきたい。また、シラバスに沿った授業づくりを今後は心がけたい。	学生とのコミュニケーションを多く持つことができたので、学生もそれに応じて暖かい意見を多く書いてくれた。今後も、教壇から見下ろすだけでなく、学生の傍らに立ちながら講義をおこなってゆきたい。	今後はシラバスに沿った講義づくりを心がけてやってゆきたい。
情報活用演習Ⅰ	新田真一	概ねレベル4の評価を頂いているが、授業の進行速度がレベル4に達していない。	ほんのわずかであるが、学生評価より自己評価が全般に上回っている。学生の理解が不安であったが、予想外によかった。	授業の進め方が早いとの意見が相変わらず多くあった。	授業内容を少し減らすこと、ゆっくりと説明すること。
情報活用演習Ⅱ	新田真一	概ねレベル4の評価を頂いているが、授業の進行速度がレベル4に達していない。	学生の理解度および取り組みの熱心さに不安があったが、案外学生の理解と取り組みが出来ているようだ。	Excelは難しいとの意見が多く見受けられた。説明が早すぎるとの指摘が毎回見受けられる。	Excelの説明をよりゆっくり丁寧にすること。授業内容を精選すること。
情報活用演習Ⅲ	新田真一	レベル4を全ての項目で超えていることが予想外であった。	昨年度と同様に学生の理解度が不安であったが、学生の評価が自己評価を全ての項目について上回っている。	学生の質問に対して丁寧に対応しているとの意見が多く見受けられた。受講生が少ないことが丁寧な対応になったようだ。	この授業を受講する学生はWordのレベルアップを望んでいるので、今後も質問に対して丁寧に対応したい。
情報数学	新田真一	回答数が3であるが、びっくりするほど学生の評価がよい。	学生の授業内容理解についての不安が自己評価にあらわれている。学生の評価が自己評価よりかなり上回っている。	内容が難しかったが、やりがいがあったとの意見が3回答のうち2回答あった。うれしい意見である。	ちょっと難しい内容で、結果としてやりがいがあった、との意見がでるような授業にすること。
情報機器利用プレゼンテーション演習	畑野清司	学生の評価平均値(1~16項目)は2007年4.40で、高い評価をいただいたが2008年は4.69と更に更新することができた。授業に対する十分な準備と熱意が伝わったものと思われる。	学生とのコラボレーションにより授業を進めていった結果が今回の評価に繋がったものと思われる。	発表する時の、手法が身についた良かった、という意見が多く、自分が向上したという実感が評価を押し上げることになったものと思われる。	この緊張した授業が今後も続けられれば、更に良い授業ができるものと思う。
通信・ネットワーク論	畑野清司	昨年(4.23)に比して、今年(4.28)は若干評価が上がったが、ほぼ同じ程度であると思われる。	かなり難しい内容も含まれており、学生はよく内容を理解するために努力したと思う。	難しかったけど、先生の説明がわかりやすかった。と殆どの学生が書いてくれた。わかり易くするため沢山絵を描いて説明しました。	マルチメディアの利用など更に工夫を重ねたい。
マルチメディア論	畑野清司	学生の評価の平均点は、昨年(4.12)に比して、今年(4.48)は評価が大幅に上がった。	授業に使用するプリントの記入欄を拡張し、一緒に書いて、一緒に考える授業を展開した。それにより理解を深めることができ、評価が昨年より上がったのではないかとと思われる。	うるさい人に注意してくれて、静かに授業が出来てよかった。と書いた学生にも、多分良い評価をいただいたものと思われる。	次年度も、より良い環境の提供と、十分な準備をして、更に良い授業が展開できるよう努力したい。

マルチメディア演習	眞下 義和	前年度などの評価と比べ、2008年度後期の学生からの評価はやや厳しいものとなりました。	自己認識と学生評価との間には少し差がみられました。昨年度や前記と比べて評価は低下しています。	実際に自分でものを作るという講義は多数の生徒に、その楽しさを感じて貰えたようです。	その半面、講義として理解を深めてもらわなくてはならない事柄もあり、楽しく学ぶ中で自然とそれらが吸収されるよう、より学生の感じ方を知る必要があると感じました。
プログラミング	大野麻子	学生評価が全て学内平均を上回っていた。前年度に比べて学生の理解度が低いと感じたため途中で授業の到達目標を大きく変更した。それでもまだ難しいと言う学生がいたため、難易度と理解度に関しては低い評価を予想していたが、学生の評価が予想より高かった。学生評価詳細をみても1や2はなかったの、それぞれ自分なりに得るものがあったと考えてよいかと思う。	問1、問10に関しては、自己評価より学生評価が下回っているが、よい評価が得られたと思う。昨年度に比べ受講者が少なかったこともあり、学生一人一人に対し個別指導する時間が多く得られたのは良かった。	「むずかしかったけどわかりやすく教えてもらえた」という感想が多くあった。	前年度と比べると、説明を行うパートとプログラミングを行うパートを完全に分けずに行う今年度のやり方の方が学生の理解の助けになるように思われた。しかし今年度は受講者が少なかったため、もう少し人数が増えても対応できるよう、学生の理解度や反応をもとに柔軟に授業内容を変更することを心掛けたい。
ウェブデザインI	大野麻子	学生評価が全て学内平均を上回っていた。配布したプリントの内容と実際の作業手順が異なる場合もあったが、その都度詳細な説明をおこなったため、問7の評価も良好であった。	この授業では配布資料に加え板書による説明を行っているが、何度も説明している内容については一部省略したりすぐ消してしまったりしていたため、全体からみると自己評価と学生評価の差が大きく表れたのではないかとと思われる。	「わかりやすかった」「この授業をとってよかった」という意見が多かったが、「スライドの字が見にくかった」という意見も少数あった。授業中そういった細かい要望も発しやすいような雰囲気づくりを心掛けたい。	スライドの字や板書について、改善を行い、より深く理解してもらえるよう努めたいと思う。また、学生からの自由記述に、「真剣にやりすぎ」というものが1件あった。高度な内容を楽しく学んでほしいという目標をもって授業を行うからには、学生にリラックスしてもらうためにも、まず自分が肩の力を抜いて授業を行う必要があると考えられる。
ビジネス実務概論	畑野清司	学生の評価の平均点は、昨年(4.19)に比して、今年(4.70)は評価が大幅に上がった。	学生の学習意欲が高く、真剣に授業に取り組んだ結果が高い評価に繋がったものと思われる。	とても判りやすくて良かった、同じグループでメンバーが変わらないので飽きた。などの意見が見られた。が、授業内容は充実していたものと思われる。	更に授業内容の充実を図りたい、と考えている。
ビジネス実務演習	服部美樹子	後期1講時ということもあり、遅刻者が多く、また、出席者の中でも居眠り状態の学生が多く見られました。授業は1回完結ではなく、毎回の授業を積み重ねて知識技能を習得するものであり、その点において学生は大切なポイントを聞き漏らしていることにもなります。したがって、学生は講義内容が理解できず、そのことは、授業参加態度にも大きく影響しています。つまり、負のスパイラル状態に陥っていました。また、受講者数に比べ教室が狭かったこと、さらに、教室が固定教室のため、授業中のロールプレイング演習やディスカッションがしにくいという環境がありました。この科目は座学で知識を学ぶだけでなく、実務処理能力を養うために実践してみることが必要です。この点から、ビジネスをシュミレートできる演習室があればと思いました。	本科目は、学生が社会で活躍する上で必要となる知識技能、のみならず、実践力を養ってもらいたい、つまり、「出来る」人材になってもらいたいと言う担当者の願いから、単なる座学にとどまらず、ロールプレイングなどを交えました。しかし、学生にとっては、その教育方法は慣れていないようでした。学生のレベルと意欲を再考する必要があるように思われました。	授業内容はよく出来ており、社会に出た時に役立つとの評価を得ました。しかし、反対に、授業内容が理解できない、定期試験時に持込がないというのをおかしいと言う学生もありました。今後は、学生のレベルを考慮しながら授業を展開します。しかし、遅刻、欠席をして、あるいは、授業中居眠りなどで授業を聞いていないにもかかわらず、予習復習もしない学生が多いことも確かで、その点をどのように指導していくべきかが課題です。	学生の理解を促すために、より基本的な内容に変更する予定です。したがって、テキストも変更します。
オフィスマネジメント(経営学を含む)	仁平征次	前後期同一科目を行っているが、時事問題に触れることが多く、今回は当初より経済不況が顕在化したため経済の解説や就職関連の事項を多く話したいが学生に理解しがたい事項が多く、全般に厳しい評価を得たと考えられる。	自己評価と学生の評価の差に差があり厳しさを感じた。	会社のことや経済のことがよくわかった分かったという評価と、内容があまり分からなかったとの意見もあった。	今期でこの授業の担当を降りるので直接改善点を生かすことはできないが、後任の担当者にてできるだけ情報を引き継ぎ有効に活用できるようにしたい。

事務文書管理	仁平征次	オフィスマネジメントに比べ全般に平均値に近く、安堵した点もある。授業に演習が多く参加型の授業が評価につながったと思われる。	同様の結果だったが改善の必要性を感じた。		今期でこの授業の担当を降りるので直接改善点を生かすことはできないが、後任の担当者にはできるだけ情報を引き継ぎ有効に活用できるようにしたい。
コンピュータ会計	藤原寛平	学生評価4、5をプラス評価とするとプラス評価も多いが、問2と13のように難しいとするものが他の項目には表れている。全員満足は困難でも改善の工夫が必要。	注力の狙いは昨年度と同じにしたつもりだが、不十分の点も多い。進行管理に気を付けたが問7、9他から見て、興味を持った学生も増えたと思う。	分からない、難しいの声は相変わらず。いい勉強になった、苦手で嫌なエクセルがよく分かった、難しいが楽しかった、難しいが役に立つと思った、受けなければ学べないことだった等の声があった。	配布資料の見直し、説明の時間配分の見直しなど工夫できることをやって見ようと思っている。
国際関係論	猪股祐介	全ての質問において、3の回答率が高かったことから、学生から自発性を引き出せなかったと反省した。特に内容理解度に関して、3が半数に達したのは問題である。難易度の再考が必要である。	学生評価は1・2があまりなかったなか、講義する速度、難易度に関しては2が目立って多かった。自己評価でも問題があると感じていたので、来年度は改善したい。他方で熱意に関する5の評価は、うれしい一致であった。	多かった意見は、1)難しい、2)一部の学生がうるさい、3)学問に触れられた、の3つである。2)は、熱意ある学生の不利益となるので反省したい。3)は励みとなった。	授業内容と難易度を再考し、ゆとりある授業進行となるように改善する。そのことで聞き取りやすいスピードで話せるようになる。今年度は全体的に詰め込み過ぎた感があるので、改善したい。
Intensive Reading	奥田 純	少人数のため偏った評価となりがちだが、評価は良好であった。テキストを変更したこと、説明をスライドで行うようにしたことが効果があったと思われる。	昨年度は英語の読解のクラスとしては大人数でありながら評価は予想外に良かったが、本年度は左記の二つの変更要因が功を奏したのか、更に評価が上がった。	授業内容が面白かったとの意見が複数あった。昨年度も感じたことだが、書かれたものを読むことが基本的に好きな学生も結構いるように思われる。	英語の読解の授業は飽きさせないように保つのが難しいが、まずテキストの選定が良かったのだと思われる。逐語訳ではなく、英語を理解する質問がふんだんに取り入れられたテキストの力は大きい。学生のレベルに合わせた教え方も可能なテキストで、さらに工夫を行いたい。
Advanced International Communication	奥田 純	評価は良好であった。授業の半分はアメリカの学生生活を題材にしたビデオを見て、特別に作られた質問に答えていく方式をとったが、ビデオの内容ともあいまってこれが評価が良かった大きな要因と考える。	昨年度より評価は大幅に上がった。昨年度はテキストのみ取り上げたが、本年度は前期開講のInternational Communicationで取り上げたビデオ教材の続きおよびその上級編のビデオの一部を取り上げたことが、学生の授業への興味を引き上げたものと思われる。	楽しく面白い授業だったという意見が大勢を占めた。次はどんな話がでてくるのかというビデオ内容への期待が大きかったのだと思われる。	2009年度から本科目はなくなり、International Communication一本となるが、ビデオ教材の導入は成功している。全授業このビデオを使用し、テキストを使っていた分はプリントを工夫して作成することで代替させたい。
Media English	奥田 純	アンケートに回答した学生は2人(履修者は3名)で、問15の設備の適切さ等に関する設問以外は、オール5点がついていて、参考にならないように思える。	昨年度は英語の選択科目としては比較的人数もいて(10名程度)そこそこの評価であったが、本年度はテキストもレベルをワンランク下げて英語を読む量を減らした。学生には取り組みやすい内容にしたつもりである。	面白い内容で、プリントもよかったとの意見。	本科目は本来はもう少し、時事英語的な内容も取り入れるべきで、テキストはそのままにしつつも、インターネットを利用して、映像も見て耳からも英語を聞いて勉強できる工夫を一部考えたい。
Travel English	奥田 純	学生の評価点は良好であったが、この科目が後期担当した英語の選択科目の中では、一番低かった。ただ、授業内容はよく理解できたという設問への回答が予想外に良かった。	昨年度と学生評価はほとんど同水準であった。テキストも代え、新しいスタイルのDVDも見られる形にしたが、焦点が定まりにくい一面もあったのかと反省している。	旅行に関する英語の勉強として役立った、また内容も興味を持って面白かったとの意見を書いてもらっており、左記の焦点云々は余り気にかけなくてもよいのかもしれない。	授業の準備にかなり時間をかけたので、昨年度と評価が全体的に変わらなかったことが教える側としてはやや失望させられる。ただ、自分の思い入れが強いとたく空回りしやすいので、学生が旅行での英会話を聞き取り、理解し、自分でも使える英語を増やすよう工夫したい。

観光学	西川 博	授業内容・シラバスに関しての理解がきっちりとされていないということを感じました。授業に関しても視聴覚教材などを利用したビジュアルで、ライブな授業を望んでいることも感じることができました。	授業時の反応等からは学生があまり積極的でないと理解していたのですが、それなりに興味をもって参加しており、その志向をひきだすところにもう工夫必要だと感じました。自分ではそれなりにやっていると思っていたことでも、学生の評価がもうひとつであることも数点確認することができました。		テキスト、プリントなど、細部にも気をつけ、板書やVTR、パソコンなどを適度に利用しながら工夫した授業を常に心がけていけないといけないと感じています。1年でも学生の様子、状況、理解度、関心など変化しているので、それに対応して授業の展開を進めていかなければならないと痛感しました。今期の授業展開に活かしていきたいと思います。
人間関係論	北村瑞穂	学内平均より全て良い評価だった。声の聞き取りやすさが高い評価を得ている。	昨年度より評価は上がっていると思う。自己評価が低すぎる。自己評価を修正してもよいのかもしれない。	後ろの方のうるさい学生への不満が多かった。もっとDVDが観たいという意見や、えん	1年生の10名程が何度注意しても私語をやめず、授業が何度か嫌な雰囲気になった。静かに授業を聴きたい学生により配慮したい。
臨床心理学	奥村和弘	授業に意欲的に参加する学生とそうでない学生との間に授業態度や理解度で大きく違いがみられた。	参加体験型の時間を増やすことで学生の感想が豊かになった回があった。	特にありません。	知的理解に留まらず、授業を通じて学生同士がつながりを持って対話を重視してすすめていきたいと考える。
社会心理学	田端拓哉	学生からは予想以上に良い評価をいただいた。資料に図を増やすなどの改善を行ってきた成果と考えたい。	概ね自己点検評価と一致した評価をいただいた。来年度はさらに高い評価をいただけるように微力を尽くしたい。	良好な評価をいただいた。	学生の理解が低い領域があるので、その領域についてより分かりやすい資料を作る。
文化心理学	田端拓哉	概ね実感どおりの評価をいただいた。	初年度であり、あまり準備時間がなかったこともあるが、領域の選択や説明の仕方に不十分な点があり、それが受講生の評価に表れたと思われる。	予想していたとおり、少し難しいといったコメントをいくつかもらったので、対策を考えたい。	受講生の反応が予想とは異なっていた点がいくつかあるので、より関心をひき、理解が促進されるように対策を実施する。
発達心理学	北村瑞穂	学内平均より全て良い評価だった。声の聞き取りやすさと授業態度の悪い学生への注意が高い評価を得ている。	昨年度と評価はあまり変化していない。自己評価と学生評価に乖離があるのは、学生の理解度の評価だった。	後ろの方のうるさい学生への不満が多かった。自分の子どもが生まれたときに役立つと思ったという感想が多かった。	1年生の10名程が何度注意しても私語をやめず、授業が何度か嫌な雰囲気になった。静かに授業を聴きたい学生により配慮したい。
家族心理学	森石加世子	全体に学生の満足度が高いという評価だったため、学生にとって得られるものの多い授業内容であったのではと思われる。	昨年度の結果とほぼ同様で、学生の学習の関心に応じた授業内容であったと思われる。	具体的で分かりやすい反面、社会人となることを直前にひかえている学生にとって、匿名による記述は無責任性を助長すると考えられる。	今回の結果は、個々の学生と授業内容の関係性が大きく影響していると考えられ、今後できるだけ個々の学生にも配慮した授業内容を考えていく所存である。
カウンセリング演習	鍛冶谷 静	この科目ではこれまでにない厳しい評価で戸惑っている。前期の講義中心の概論よりも評価が低く出た。	前期の学生たちの熱心な受講態度に引き続き応えようとして取り組んだつもりであったが、講義終了後学生に書かせた感想へのフィードバックを昨年までのように個別にコメントを付して返却できていなかった。	マークシートよりも先に自由記述を書かせ回収したので、白紙提出は殆どなかった。1名「めんどくさかったです」という記述があり、マークシート集計の結果と合わせ見るとこれをただ一人の意見と看過してはならないと自戒した。	グループワークは「楽しかった」という感想もある反面、学生によっては緊張を強いる面もあり、後の個人個人へのフォローが十分でなかった点は必ず改善しなければならないと考えている。また、ワークのねらいを丁寧に説明すること、何を学べたかのふりかえりを学生の声を聞き十分に行うことを今まで以上に心がけるようにしたい。
ピアヘルパー演習	北村瑞穂	学内平均より全て良い評価だった。授業への熱意に高い評価を得ている。	初めての担当科目なので、昨年度との比較はできない。	エンカウンターグループが楽しかったという意見が多かった。	初めての担当科目で、受験対策が不十分だった面がある。今後は、楽しい授業でありながら、検定試験合格に向けて、ペーパーテスト対策に重点をおきたい。

子どもの生活と文化	生駒幸子	学生からは予想以上により評価を頂いていると思う。	学生からの評価は変わらず良いもので嬉しいが、授業の方法を再度練り直す必要もあると思っている。	課題をやり遂げることのできない学生に対して、もっとサポートが必要だと思われる。	講義内容をもっと深められるように、今後も内容の検討を怠らないでいたい。
幼児音楽	麴谷さつき	予想より良い評価になりました。実技中心の授業なので、練習時間が充分ではなかったように思います。			学生の希望する研究テーマも含めて授業内容を進めるので、次回も学生にとって、興味深い授業になればと思います。
幼児音楽	牧田さやか	全ての問において、高い評価をいただいた。合奏やピアルッスンなど、学生にとって普段あまり経験できない事を経験できる授業になった。	欠席が多い学生がいたので、満足のいく授業にならなかったのではないかと考えていたが、高い評価だったのでよかったと思う。	それぞれ、今後役に立ててもらえると有難いと思います。	学生の人数が少なかったことで、合奏も小編成になるなど、少し物足りない部分もあったので、出来るだけ多くの学生に履修していただきたい
授業評価	森脇由紀	想像以上に良い評価を頂き、大変うれしく思いました。少人数で、コミュニケーションをよく取れたからでは、と思います。	全体的に高い評価を頂き、来年度、さらに良くなるよう、反省しつつ役立てたい。	色々な楽器に触れられよかったという意見があり、音楽の楽しさが伝わったと思う。	今年の経験を踏まえ、来年度に生かしたい。
キャリアデザイン特論	北村瑞穂	学内平均より全てかなり良い評価だった。全体に満足度の高い授業になった。	初めての担当科目なので、昨年度との比較はできない。	働くことや、生きていくことがいかに大変かが分かって良かったという意見があった。働いている人(パン屋、ホテルマンなど)のDVDが好評だった。	来年度はこの科目がないので、改善点はない。
キャリアデザイン特論	工藤真由美	きわめて小さい集団であったが、それだけに反響がダイレクトである点はやりがいがあり、学生にもそれが伝わりよかった。	昨年度開講されず	文章表現は苦手だが、避けずに頑張る必要を感じたという意見が大変良かった。	来年度以降開講されず
社会人としての自己表現とマナー	奥田玲子	全項目で、評価点が4.0を上回る高い評価をいただいた。	前年度とほぼ同じ評価であるが、学生の興味、熱心さがより高くなっており、それに伴い理解度がアップしたと思われる。	これまで知らなかった、社会に出るために必要な知識が得られたとする意見が多かった。	ロールプレイへの前向きな感想も多く、もっと学生が参加できる場面も取り入れていきたい。
社会人としての一般常識	ライフ専任代表 新田真一	全般的にみると、レベル4をわずかで下回っている。全ての項目について学内平均より下回っている。	授業の準備は充分して、丁寧に説明したが、学生にはそのことが充分伝わっていない。	一般常識問題がむづかしかったという意見が多く見受けられたが、役に立ったとの意見も案外あった。	学生の多様性を考え、出来る限り個別対応できるように工夫すること。
社会人としての国際理解	猪股祐介	平均値は残念ながら4に達しなかったが、5の回答率が高く、励みとなった。他方で難易度と理解度に関しては1の回答率が高かった。難易度の再考が必要である。	受講者が少なく、座席指定を行ったため、私語の少ない授業環境をつくれ、学生への対応もきめ細かく行えた。これらに関しては学生評価が自己評価を上回った。授業環境の重要性を改めて認識した。	多かった意見は、1)難しい、2)進度が速い、3)ビデオがよかった、の3つである。前二者はアンケート結果も同様なので、必ず改善したい。	授業内容と難易度を再考し、ゆとりある授業進行となるように改善する。近年の国際問題を扱う本授業では、視聴覚教材を活用し、学生の自発性を引き出せるようにしたい。
レクリエーション実技	池邊美保子	学生からは大変により評価を頂いた。今後現場で活用できるのでよかったと皆が言ってくれました。認知症者のレクも聞けたらよかったなというコメントもありました。とても積極的に熱心でした。	今年初めてなので昨年度との比較は出来ませんが基本に自分なりのアイデアを加えるなど良い結果でした。	目新しいゲームやスポーツ自然とのふれあいなどすぐに活用できるものがいっぱい楽しかったし、これからの活動に生かしていきたいという言葉があり、私にとっても充実した半年でした。	始めに内容を話しておいて授業を進めていくことが理解度を良くすることにつながると感じましたので、会話のある方法で取り組みたいと思います。

付表3. 自己点検報告書(介護福祉学科)

生活環境論	汐見信行	正直低い評価に驚いている。本年度は必修なので厳しくしかったり授業を止めたりしたが、そんなことも影響したのか？	私の思いと一致していないのは残念。本年の学生は特に態度が悪く、その点は弱った。	結構多くが興味もてたとあったが？	内容は「ライフ」と異なるが、思い切り中味を減少してみる。(ライフ評価 av. 4.46、介護評価 av. 3.19)
日本語表現法	富森盛史	学生からは予想よりも高い評価を受けた。しかしながら授業展開の方法や授業中の緊張感を維持し、授業に集中できる環境づくりについては厳しい意見を持つ学生もあり、今後の課題としたい。	学生評価と自己点検評価に大きな差異はなかったが、理解し、それを生かすことへの期待と受けとめる学生の意識にやや違いがあった。なお、新任のため、昨年度との比較は空白。	興味をもって参加し、意欲的に学習した者からは好感を持たれたようである。一方、幅広い分野の説明について、関心がない、と率直な意見を述べた回答もあった。	配布プリントの工夫、説明のわかりやすさにより重点をおいて、受講者の期待に添えるよう努めたい。
生物学	坂口守彦	理解度、満足度などが学内平均をいくぶん下まわっていた。授業内容が難解で進め方が速すぎるという。本科目は理科系科目の中で重要なものであるから、授業のはじめにこの点を強調するが十分に理解されていない。また授業の過程で難解なところが出現しても授業後に質問したりして十分に内容を把握してほしいものである。	昨年度の結果と比較してあまり変わっていない。今年も高校の授業ではなく、大学の授業であることを時間中に強調しつつ、毎回十分に準備し、できがぎりの努力をしたが、学生にこちらの熱意がかならずしも十分に伝わっていない。	自由記述は重要な項目であり、今後も継続の必要を認める。ただ、自由記述の用紙に何らかの意見を述べているのは、全体の1割にも満たないので、この意見がきわめて一部のものであるとも解釈される。	授業には着席位置は自由に選択させているが、私語が絶えない。今後の改善点として次回から授業開始時に着席位置を指定することにより、私語の防止を図り理解度を向上させたい。
人間論	吉井珠代	授業中の学生の表情や態度が良かったのに比べ、評価結果は学内平均を下回り、厳しい評価と受けとめている。そのような中でも最高点がついた項目が「問1大きな声で聞き取りやすく」、「問3資料や視覚教材が適切である」であり、教科書指定せずに教材として配布資料を工夫したことの評価が得られて良かったと思う。	問1.問2.問3.問4.問7.問9.など、入念な準備と工夫、授業の実施などについて自己評価を「5」としたが、学生評価が4に届かず、自己評価との乖離を感じ、反省点である。	自由記述してくれる学生は、「ビデオ教材が適切で興味が増した」「解説が具体的でわかりやすい」など、好意的な意見が多い。しかし、記述用紙に何も書かない学生が3割近くいて(昨年の1年生には白紙が返ってくる事がなかった)学生のニーズが掴みにくい。	問5「授業の難易度」、問14.「知識、関心を高めたか」の2項目が最低点であり、今後はより授業内容を基礎的にするとともに、より分かり易い説明を工夫したいと思う。
くらしと音楽	仲宗根稔	今年度は全ての項目で4.0～4.41の評価であった。自分の評価とのズレはあるが、反省すべき点があった。次年度の授業に活かしたい。	前半が思うように授業が進まず工夫を重ねた。その反省もあり自己評価は厳しかったが、苦勞した分学生も理解してくれたように思う。期半ばに軌道修正できたのが功を奏した。準備にも時間をかけ、熱意を持って授業に望んだが学生の反応にズレがあった。反省する。	1)歌唱曲を増やして欲しい。 2)楽譜の読み方の課題を少なくして欲しい。 3)ミュージックベルの時間がもっと欲しい。 等の要望があった。そのうち歌唱曲とミュージックベルは次年度に反映させたい。	授業がスムーズに展開できるよう課題設定したが、学生の反応が今ひとつなかったことで、授業の途中から学生の集中力と理解度を高めるよう工夫した。
英会話	井上泰子	介護福祉学科の選択科目である。1回生と2回生の混合クラスで、1回生は7名全員が全出席、2回生4名は卒業単位取得のために受講している者が多く、受講態度に著しい違いが見られた。評価は極端に分かれ、常時、注意を受けていた学生の思いが伝わる。	昨年は、3名の受講者で、個人の力に合わせて柔軟に指導できたので、よい人間関係を築くことができた。本年度は受講者の学力が大きく違い、指導するのがむづかしかった。1回生の方が意欲的で前向きである一方、2回生の一部が取り残されたのではないと思う。	テストの範囲が広くて、持ち込みなしということに不安を感じている学生が何人かいた。プリントを使い、楽しい授業だったという学生も多かった。	英語の授業は、覚えて使うことに意義があるので、持ち込みなしのテストですつと通してきた。その代わりにテスト対策には力を入れたと思う。文句を言っていた学生も、真剣に取り組み、意外な好成绩で全員単位を取得できた。何事も苦勞して充実感を持たせることが大切であると思う。介護福祉学科も3年目となる来年度は、教材、シラバスに工夫を加え、体系的な学習ができるようにしたい。

社会福祉概論 I	名和月之介	学生の評価は、当方が期待するほど良いものではないが、客観的に見れば改善すべき課題があるということであろうし、それに向けて努力していく以外にない。	板書の要望については、授業のまとめを配布するなどして改善したと思う。	授業の進め方が早い、という意見も少数見られた。が、本授業は、介護福祉士国家資格の必修科目であり、その養成テキストをこなさないといけないという課題があり、対応に苦慮する所である。	たとえ30人未満の授業でも、授業内容の難易度を物足りなく思う学生もいれば、難しいとする学生もいる。クラスの平均的・標準的な所への対応を中心に、それ以外には適宜対応するよう努力する。
老人福祉論	山戸隆也	実習が6月に2日間あったので、それにあわせて意図的に内容を変えた回もありました。それが学生に良かった点もあれば、私の力不足からくる不完全な点も出てしまったかもしれません。この分野では新しい制度も多く、わかりやすい事例や資料を提示し、説明するなど、もっと工夫が必要と思われる。	昨年の同科目では「わかりにくい」という学生が少なくない結果だったので、「わかりやすく」を課題として実施しました。もう少し「わかりやすい」というデータができるようにさらに努力していきたいと思います。	自由記述では「同じ学生をよく当てる」という記述があり、さっそく次の回から特に意識して直すようにしました。各学生に同じように同じ回数あてることがよいとは思いませんが、今回は当てやすい学生を多く当てていた私の失敗でした。	学生への公平さを大切にしてきたつもりでも、今回のように当て方がよくなかったりすることがあります。遠慮して学生は批判したりすることがあまりないようですが、このような機会を大切にしたいと思います。
障害者福祉論	石川肇	学生評価は学内平均より低い項目が多いが、担当者としては真摯に授業を展開したと感じていたため、その差が大きいため改善すべき点があることを実感させられた	比較できません	板書が読みづらいとの指摘が多くなったので、特に改善すべき問題だと思う	制度と事例を組み合わせた授業であったが、障害者自立支援法の成立により旧法との比較をしながらの展開及び事例の展開であったので、学生には混乱させたのかもしれないので、提示方法の工夫が必要と思われる
リハビリテーション論	鈴木康三	学生自身の授業中の態度や行動を考えると結果に疑問符が付くものもあるがこれが標準なんだろうと思う	講義する側の思いが学生には伝わらないのだと実感した	ビデオを多用したことについては評価が高かったが、途中で何回も止めて説明することは不評だった。また自身の講義スタイルでもあるので変えるつもりはないが板書をせず、学生が自分でまとめて書かせるやり方は大変不評であった	学生のまとめ下手も考慮すると、講義スタイルを改めなければ行けないのかとも思っている
社会福祉援助技術演習	山戸隆也	社会福祉援助技術演習とは、何を学ぶ教科なのかを明確に伝えていなかったことが反省点としてあります。また、個々の内容についても、学生にとっては初めてのことが多いので、ポイントと狙いをより明確にすべきだったと思います。	社会福祉士の養成校で多くのクラスを担当してきたことがあり、3回か4回はその時に好評だったりしたものを持ち出したりしました。これは学生には取りくみやすかったようですが、介護福祉学科向けにもっとアレンジするといった工夫が必要と思われます。	グループワークというかたちでの授業を行った回は好評であったようです。終盤は介護の事例検討を行いました。これは、わかりやすい事例をせんたくしたので、「わかりやすかった」という記述がいくつかありました。できればもっと複雑な事例を検討できればとも思っています。	毎回の授業のポイントをより明確なものにして、学生の達成感を味わえるような内容に変えていく必要があるかと思えます。また、学生たちが何を必要としているかをもっと知るよう努力して、それを授業に活かすようにしていきたいです。
レクリエーション活動援助概論	橋本顕寛				
老人の心理	岩本真由	今までの授業の進め方を反省する一方、今後の授業に対する参考となりました。		予想していたよりも肯定的な意見がいただけだったので、自信となりました。また、授業に対する期待度の高さも実感することができました。	学生の関心をさらにひくようなすすめ方が必要だと思っています。また、学生の自主性も伸ばせれば、と考えています。
家政学概論 I(食生活)	林真千子	今回の評価は、学内平均をやや下回っており、今後の評価向上に努めていきたいと思います。	授業内容のレベルについては、学生評価が自己評価を下回っており、それに伴い、内容の理解度が悪いという結果でした。今後は理解度向上に努めていきたいと思います。	ほとんどの学生は無記述で少し残念に思いました。	今回、昨年度の結果から視聴覚教材の利用を加えたり、内容変更をいたしました。今後は、更に、より理解しやすく、興味を持てる授業になるよう努めていきたいと思います。

家政学概論Ⅱ(家族生活の経営と管理、被服生活、住生活)	伏木真理子	今回一番気になるのは、問12の「学生に興味、熱心さ」に関して、教員から見た評価と学生自身の評価が低い値で一致している点である。「総合的な満足度」も低い結果になった。	昨年度学生評価が特に低かった声の大きさや、聴きとり易さ、速さは改善しているが、理解度が昨年度より低くなっている。(昨年度とは逆の結果になった。)	授業と関係の無い話はしていないのだが、「関心のない話が多い」との声が多かった。米留学時の生活経験を話したが、「自慢話」と感じた学生が多かった。(楽しい、分かりやすいという声もあったが…)	学生が興味を持っており、熱心な状態からのスタートではなく、興味を引き出すことから始めなければならないのを痛感した。例を示したりする場合、テキストとどのように関係するのかより丁寧に話す必要を感じた。また、体験談とあひて話すのが説得力を持つと思っていたが、そうではないようなので、一事例として話してみようと思う。
医学一般Ⅰ	山野雅弘	多くの項目で 学内の平均より学生の私への評価が高かったのが 嬉しいことである。	11で授業に集中できる環境を作ったつもりであったが学生の評価は自己評価以下であったのでややショックである	授業中 集中していない学生に 怒ってくれてよかったと数人書いてくれた学生がいたのでこれから そのように頑張りたい。	板書は もっと文字を綺麗にわかりやく書くように心がけたい。
精神保健	山野雅弘	板書以外すべて、学生の学内平均より私の講義にたいする評価が上回ったのはうれしいことである、今後も、板書も含めすべて学内の平均を上回るようにがんばりたい。	自己評価において、14と15が学生評価より自己評価が大きく上回っていたので、特に14については、来期にはもっとがんばりたいと考える。	精神保健に興味湧いたと書いてくれている学生もいたが、国家試験に合格する内容の授業がいいと言う意見もあったので、取り入れたいと考える。	去年よりは板書時、文字を丁寧に書くように心がけたが、今後も、もっとわかりやすい板書も心がけたい。
介護概論Ⅰ	吉井珠代	当該科目は、介護の概念や本質論の講義なので入学したばかりの学生には難易度が高い科目であるが、予想通り評価結果は学内平均を下回った。それでも、最高点は「問9.授業に熱意が感じられる」と「問1.大きな声で聞き取りやすい」であり、学生の理解を促すため工夫してイメージが浮かびやすい説明をしたことの評価が得られたのかと考える。	厚生労働省の必修科目であり、伝えなければならない知識が多いのだが、昨年の学生評価に比しかなり低い評価になった。今回特に「問5.難易度は適切か」の点数が低くなっていて、概論を講義する事の難しさを痛感する。自己評価と学生評価が大きく違ったのは「問10.学生の質問や発言に注意した」であり、毎時間かなりの学生に授業の理解度を確認するべく発問して答えさせるようにしていたのだが、学生にとってはそれが嫌なことだったようである。	「わかりやすい説明と重要なところは繰り返して教えてくれる」、「ビデオ教材が適切で興味が増した」など、好意的な意見が多い。特に、私自身、発問を工夫して学生の理解を促す努力を重ねたが、「毎回問いかけて理解したことを確認してもらえて嬉しかった」と受けとめる学生と、「質問されるのが嫌、やめてほしい」とに分かれた。	クラス内の学力にかなりの差があり、授業の組み立てが難しい。昨年の学生評価との比較においても難易度の点数が低く、理解されていないことの現れである。厚生省の指定科目であり、伝えなければならない知識であるが、後期の授業に関しては、昨年より進度を遅くさせて、よりわかりやすい説明を工夫しなければならぬと思う。
介護技術Ⅱ(居住環境、着脱)	榊原和子	学生からは予想以上によい評価であった。しかし、総合評価の向上に向けて努力しなければならないと考える。	昨年と大きな変化がない。しかし、演習があるため講義内容に工夫が必要であり、その点で不十分さを感じている。	特にありません。	介護技術は、技術としてだけではなく技能として求められているところもあるので、教材の精選に努め、少しでも学生が自信をもってくれるようにしたい。
介護技術Ⅲ(安楽、福祉用具、社会生活維持拡大)	植北康嗣	問16の結果から、概ね満足されたと考えられる。また、問9,10から指導に対する気持ちが伝わったのはよかった。	ほとんどの項目で、予想通りの評価だったと思う。より満足が増すように、個々の学習程度に気を配りたい。	昨年以上に演習時間を作ったのがよかったのか、満足している意見が多かった。	演習授業後に、その都度レポートを提出させて、添削を行った。その効果があり、回を増すごとに成長が窺えた。今後も経過を見守りたい。
介護技術Ⅳ(入浴・清潔)	中家洋子	演習授業の性質から学生の興味・満足度は高く、評価に表れていると思う。1年生で施設実習に向けての介護の技術学習であり、イメージがわからないことも多いと思うが、興味を持って授業に取り組んでいる。	昨年度も課題として挙げた板書は、今年も評価が低かった。常に丁寧に書くことを意識をし、補足資料を加えながら、工夫をしたつもりである。だが、板書する時「話しながら書く」ことが多く、字が分かりにくいとのことであった。今後は、気をつけたい。	字が読みづらいとの記述があり、板書は今後の課題としたい。時間が足りないとの意見もあり、リアクションペーパー等を有効に活用し何が理解できていないかを把握したい。	板書は、今後の課題としたい。また、90分の演習では、時間が短く十分な演習にならないことが多く、まとめがまま終わることもあった。授業時間の割に課題が多く、今後検討したい。
介護技術Ⅴ(緊急時の対応・救急法)	植北康嗣	評価は全体的に低いものが多かった。その中で、学生の質問や発言に対し適切に対応したかは低い評価であった。これは対応したかというよりも、質疑の時間を持つことも少なかったのではと反省する。	問12の学生が授業に興味を持って取り組んだかでは、興味を引くものとしてでないものとしては、見た目の取り組み姿勢に差が出ていたことが、自己点検と学生評価の差になったと思う。	昨年と同様に、演習(実技)を行う時間をもっと取ってほしいという意見があったので、見直して進行計画を改善したい。	全体的に感じるのは、学生自身が主体的に学ぶ環境が築けていなかったように感じる。学習項目が多いということもあるが、可能な限りグループワークなどを用いて意見交換の場を持てるようにしたい。

形態別介護技術Ⅰ(高齢者及び障害者の介護)	吉井珠代	厚生労働省の必修科目であり、伝えなければならない知識が多く、老化の理解や廃用症候群の理解など、医学的知識の習得が求められる科目であるため難易度が高く(授業中の反応や中間テスト結果から学生に伝えきれていないといった感があったが)予想通り、学内平均を下回る評価であった。しかし、最高点が「問20技術や実技の向上に役だった」であり、授業のねらいをわずかでも達成できたように思う。	当該科目の実技演習には、実習室の設備機器に限りがあるため、全員に体験させようとする時間配分を綿密に計画しなければならず、板書や口頭説明するだけでなく配布資料で実技手順を示すなど授業準備を密にして臨んでいるが、実技についての学生の満足度が質問項目中最高点であったことでわずかでも私の工夫が伝わって、胸を撫で下ろしている。	「実技がわかりやすく興味が増してよかった」「利用者体験で介護への関心が強くなった」などの好意的な意見が大半である反面、今年の一年生は3割近い学生が、どの科目の自由記入用紙にも意見や希望を書かないで提出するため、ニーズが掴みにくい。	多くの学生が学内における介護実習室での実技演習に興味を示してくれているので、後期も実技体験の機会を多くして、技術の向上を図るとともに、学生の学習意欲を高める工夫をしたいと考えている。
形態別介護技術Ⅱ(視覚・聴覚及び言語障害者の介護)	荻野佐代子	問7(3.75点)、問11(3.96点)以外は、平均値が4点以上で安堵しました。問7に関して「手話」は視覚言語であるため授業中はテキストを出さず講師の表現を見てもらい、テキストは復習用にしているせいではないかと思えます。事前の説明が足りなかったかと反省しています。		授業が楽しいという事が多い中、三人の方がペースが速いという意見でした。(24人中)手話の習得は個人差が大きく、授業進行につれ格差が大きくなり生じないように指導する必要がありますと思いました。	楽しく興味を持ち続けられるために、達成感を感じる機会を増やし、聴覚障害者の福祉に役立つことが出来る様、工夫のある授業を心掛けたい。
介護実習指導Ⅰ	石川肇	3名の教員が分担して授業を行ったので、3名それぞれが関わった部分とそうでない部分の評価がまとめて記載されているため、自分に振り返って感想や意見を述べることは難しい。	昨年度は6名の教員で、しかも初めての教員団であったためまとまりに不安なところもあったが、今年度は2年目でもあり、教員間のまとまりは良かったと思う。その結果が評価にあまり現れていないように思われる	授業を3名の教員で分担して進行することの難しさを改めて感じた	実習というより実際の学びに向けた授業であるので、施設で学生が実習している姿が想像できるような内容に心がけたい
介護実習指導Ⅰ	山戸隆也	6月末に2日間の実習を入れるという試みがあり、学生は自然と動機づけがなされ低他と思えます。だが、6月末までに多くのことを教えようとして、消化不良が若干あったように感じております。(来年度からは最初の実習が9月からになりますので、それにあった展開を今から検討していきたいです。)	2年目の学生なので、昨年よりはわかりやすくポイントも明確な授業だったと思えます。学生が本気で介護福祉について勉強し、その分野で働こうと思うよう、動機づけを与えることが大切かと思えます。	「わかりやすく熱心であった」との記述がいくつかあり、これが全員の声になるよう努めたいと思えます。実習指導は学ぶ目的が学生にとって明確であり、よりしっかりとその目的を果たしていきたいです。	毎回の授業のポイントをより明確なものにしていきたいと思えます。特に実習の心得や注意点などについて、より具体的なわかり易い内容を心がけます。来年度からは実習先も多様化するので、今より学生の声、必要も多様なものとなるでしょうから、きめ細かな配慮を実施したいと思えます。
介護実習指導Ⅰ	中家洋子	学内平均より、下回った結果となっている。施設実習という大事な教科であるが、実習に向けての個人票の作成や記録の書き方など、何をしているのかが見えにくい授業であったと反省する。また、複数の教員で担当するために、教員同士の統一や連携が十分でなかったと感じる。	昨年も、同様の評価であり反省点が、授業評価に繋がらなかった。再度、実習の流れを確認し学生が満足のいく授業になるように取り組みたい。	ゼミ方式を取り入れており、担当の教員以外が、かかわりにくく、学生も戸惑ったようである。いつ、どのように担当教員と連絡を取るかなど、具体的に示していきたい。	教員同士の連携を十分に図ることが重要であり、授業効果につながるかと考える。今後教員間で話し合いを深めたい。
介護実習指導Ⅱ	榊原和子	この授業は、かなり具体的・個別的な授業と考えていたが、全体的に学生の認識と乖離があったように感じる。問12と13に関して、このような評価を受けたということは、問5との相関があるように考える。	本年度初回	特にありません。	Ⅲ段階の介護実習は、学生自身がケアプランを立案しなければならず、難しいという固定観念を抱いてしまったように思う。実際、学生にとって難しいと思われるので、時間配分など今後注意してゆかなければならないと考える。

介護実習指導Ⅱ	吉井珠代	全般的に学内平均を上回る結果が得られた。学生も2年生になり、介護実習を充実させたいという意欲が徐々に高まっているため、熱心に授業参加できているものと思われる。	昨年の(1年次)当該科目の授業評価に比しほとんどの項目の点数が高くなっている。介護実習(指導)は積み上げの科目であり、学生は実習経験を重ねるごとに学内における授業内容の理解度も増し、相乗効果が得られているものと考えられる。	「指導に当たっている教員によって指導方法や指導内容が違って困る」という意見が若干あり、専任教員の連携をより密にすることの必要性を痛感している。	介護実習の成果を高め、指導教員間の格差を最小限にするため「実習のてびき」の充実を図ることが当面の課題であると考えられる。教員間の打ち合わせを頻回にもち充実させていきたい。
介護実習指導Ⅱ	榊原和子 吉井珠代 植北康嗣	学生からの評価はほぼ平均的なものであった。学内平均よりやや低いものの中に、授業の進め方や準備があり、さらなる工夫が必要だと感じた。	多くの項目が、教員の自己評価を下回っており、こちらの思惑と学生の受け取り方には少しの距離が感じられた。	複数の教員がかかわるものもいるが、細かなルールや連携を徹底してほしいと意見があった。現在、教員同士が共通認識するために、実習手引きを活用しているので昨年よりは良くなっている。今後さらなる改善と連携を強めたい。	多くの学生は、分かりやすかった、よく学べたと書いてくれているが、もう少しゆっくりや学習項目によっては難しいと書いている意見も少なくなかった。後期では、具体的にどのようなことがわかりにくかったのか、どんな授業を期待しているのか、学生の声に耳を傾けたい。ただ、学生の評価や自由記述を見ていると、表面的な評価が多く、自分の取り組み姿勢を棚上げしているようなところも感じられた。
社会人としての一般常識	富森盛史	概ね予想どおりの評価であったと思う。生活の中の身近なマナーだけでなく、生活習慣、慣習等にも触れ、学生の興味を抱かせたことが評価に反映されていると考えられる。	学生評価は自己点検評価よりもやや高い位置にある。留意して進めたポイントは十分に理解されたようである。なお、新任のため、昨年度との比較は空白。	日常生活の慣習等に興味を抱くことができた、との回答が多かった。	内容に興味を抱く学生が多かったことをふまえ、今後もさらに内容を精選し、慣習やマナーについて知識を広めることができるよう進めたい。
情報活用演習Ⅰ	飯田慈子	学生諸君の評価は、人数が少なかったためか、全体的に中より上であったのは、とても意外であり、正直満足度などかなり低いものであったのではないかと考えている。それは、シラバスの内容が、情報基礎からの引継ぎとすれば、若干、難易度が高いものがあり、シラバスどおりの実施に難儀し、無理やり授業を推し進めた点があったからである。今後は段階を追った演習課題を作成し、情報基礎とのギャップをうまく埋めるよう工夫が必要と考えられる。	自己評価をつけまちがったようで、学生が内容をよく理解しているなど、まったく思っていないのに、良い評価になっていた。今後は、間違わないようつけるよう心がけたい。	人数が少なかったせい、感謝の言葉以外は書かれていなかった。	前述したが、情報基礎とのシラバスのギャップが大きく、そのギャップをうまく埋めるためのドリル式のような演習課題や、理解度を確認した上でステップアップしていく演習方法を考案すべきだと考えられる。
情報活用演習Ⅱ	飯田慈子	活用演習Ⅰより、さらに情報基礎とのレベルギャップが大きく、この科目に関しては、途中でシラバスどおりの授業を断念してしまった。前半は、シラバスに沿ったものを心がけたため、学生が呆然としていることさえ多かった中、評価がほとんど4以上であるのは、驚きである。6人というかなりの少数制であったこともあり、正直に書けなかったのではないかと考えられる。情報基礎とのギャップを埋めることは難しいため、情報基礎における表計算のレベルを上げるべきかとも思うが、半期で文書処理、表計算、プレゼンテーションを実施する科目で、今以上の	シラバスどおりの授業を途中で断念し、学生諸君がじっくり理解できる内容に時間をかけてしまったため、遠慮があったであろう点を引いても学生諸君の評価は良かった。しかし、シラバスに書かれていることは、学生諸君の専攻において将来的に必要なものであるにも関わらず省いたことについては、あつてはならないことであり、深く反省している。	人数が少なかったせい、感謝の言葉以外は書かれていなかった。	シラバスの内容をあきらめるのではなく、何か策をこころられる点があったものと考えられる。今回は、学生のあまりの手ごたえのない様子に、気持ちに余裕がなく策の考案が間に合わなかった。明らかに教員としての力不足である。今後は、このようなことがないように、日ごろから演習課題に使えるような情報を集め、難易度の高いレベルの演習内容でもあ、学生諸君の身近にあるテーマで演習課題を設定できるよう、心がけたいと考えている。

くらしと法(人権、関係法規を含む)	沼口智則	どちらでもないという評価が一番パーセンテージが高く、プラスとしての「5.そう思う」に近づける必要を感じました。	私の自己点検評価と学生評価が大きく異なる一例で、シラバスを授業中に印刷して配り、そのように行っているも設問3で65.2%がどちらでもないと答えていました。他の設問にも、どちらでもないという反応が多い点が目につきました。学生評価は平均値4以下でした。	特にありません。	学内平均より低い学生評価については謙虚に反省し、学生の学習能力や理解度や関心によって、きめ細かな対応を心がけていきたいと思います。
情報基礎	飯田慈子	学生の評価は、全体的に3~4の間におさまっており、かなり遠慮がある評価をしているものと思う。その理由は、座席の配置に失敗し、手書きのコメントで、後ろのこともっと気を使って欲しいという意見があったことから、速度やレベル設定が前部座席に引きずられがちであったことについて不満に思っていた学生がいたからである。後部席についても気を使っていたが、前部席がわりくにぎやかで懐きやすい学生が多く、彼女たちに対応し始めると、手を取られすぎ、後部席はアシスタントの新さんばかりが回っていることが多かったように思う。このため、授業の進行速度やレベル設定が、前中心に回る傾向にあったことは否めない。今後は、途中からアシスタントと交代しながら、後部席の学生たちにも平均的に対応するよう心がけたい。	授業の難易度評価について、「そうは思わない」と答えている学生が0%であった。しかし、私には、「そうは思わない」と思っていた学生はいると推測する。授業中の表情が、ばかばかしいと物語っている学生がいたからである。シラバスどおりに授業を行ったとはいえ、一部の学生に引っぱられ、2007年度よりさらなるレベルダウンを決定した。できるだけ多くの学生に満足感を与える授業にするためには、やむを得ずの判断だったが、少数の学生たちは、かなり不満に思っていたものと推測される。短期大学は卒業とともに準学士を取得することになる点を踏まえると、内容はとも準学士を取得する学生対象の内容ではなかった。一斉授業であるため、レベルの照準設定はとても難しいが、不公平感を与えず、ある程度準学士のレベルとして納得のいくレベルを維持する方法を模索していきたいと思う。	ほとんどは、無記入または、お礼の文章であったが、1割程度(3名)、前述の通りの不満を述べた学生がいた。一斉授業であるため、全員の満足を得ることはほぼ不可能であるが、今回の彼らの不満については、明らかに原因がわかっていることであり、私の失敗であった。今後は、全員を平均的に回るよう心がけたいと思う。	総合的に授業に満足しているかの点について、半数近くが、少しは満足している方よった回答をしている。が、学生の視点による満足度だけではなく、やはりスキルアップという点について、準学士として恥ずかしくない内容を、できるだけ多くの学生の満足を得ながら実施すべきだと思う。毎年、レベルの設定に失敗しており、今年こそはと思いながら、学生たちに引きずられている点について、深く反省している。次回こそは、意志を強く持って、バランスを図りながら授業のレベルを維持し進行速度をはかっていきたい。
くらしと経済	奥田玲子	8割以上の項目で評価点が4.0を上回る、よい評価を頂いた。教室の視聴覚機器が毎回不具合で、教室変更を余儀なくされたことも複数回あり、教室・設備への評価が最も低い結果となった。	自己評価と学生評価は近いものであった。説明、難易度のレベル、板書・視聴覚教材、熱意、満足度について学生評価が自己評価を上回っていた。	経済を身近なものとして興味を持って受講していた様子が感じ取れる内容が多くみられた。	次年度は担当しないが、学生にとって難しく思われがちな科目であるにも関わらずよい評価をいただいた事は今後の自信につながった。学生の学習状況を見ながら理解度をアップさせる工夫はどの科目にも共通して必要なことであるので、他の科目についても今回の結果を生かしていきたいと考える。
社会福祉概論Ⅱ	名和月之介	少人数で通年の授業であり授業運営が難しい面があったが全体的に学生の評価は当方が思っていたほど悪くはなかったと思われる。	当方の自己評価ほど学生の評価が伴っていない箇所が数か所あったが今後意識して臨みたい。	忌憚のない意見も見られ今後の参考にしたい。	国家資格である介護福祉士の養成テキストを使用しているが内容も高度である。良い授業のためには教員だけでなく学生の主体的な授業への参加・学習意欲が求められる。
老人福祉論Ⅱ	山戸	研究などの面では自分の専門分野のはずなのに、改善すべき点が多い科目だと思います。「本学の学生に適した授業」の提供に励んでいきたいと思っています。	一部の学生が苦手意識をもっていたこともあり、昨年に比べグループで話し合う時間を減らしたが、工夫してもっと実施したほうが良いようです。新聞の切り抜きなどを頻繁に配布した点は、良かったと思います。	一人ひとりの学生から、改善すべき点を書いてもらいました。小さな努力で正すことができる点が多かったこともあり、ぜひ実行に移させていただきたいです。	この程度のことは理解しているだろう、と思って説明を十分しなかった点などがあったと思いますので、わかりやすい授業を、しっかりと積かさねて行くよう心掛けたいと思います。

社会福祉援助技術	石川・山戸	4回だけ(試験は除く)の授業であったが、全体的にレベルを上げていきたいと感じました。学生の授業態度もしっかり注意して、改善していきたいです。	昨年に近い数値ですが、「学生への質問や発言に適切に対応した」については、数値から判断すると改善できたかもしれません。	わかりやすい授業を実施していくことが、ますます大切であると感じました。グループワークの授業は好評のようなので、他の科目でも活用していきたいです。	学生にとってもっと身近な例えを用いるなど、説明をよりわかりやすくしてゆきたいです。授業時間の都合もあり、適切な事例をあまり提供できなかったことは反省点です。
レクリエーション活動援助各論	弘中陽子	全体的に学内平均よりも低い評価であった。どちらでもない、という回答がそれぞれの質問項目で約半数を占めていることが、少し気になった。	自己評価よりも学生評価は大きく下回っていた。	おりがみやクラフトが楽しかった、という意見も少数あった。授業内容や進め方等を検討する必要があると考える。	授業に対しては工夫をして、望んだつもりではあったが、なかなか学生たちの満足度を高めることができなかったことが、今回の評価にも繋がっていると考えている。満足度を高める授業内容と方法を今後、考えていきたい。
障害者の心理	岩本 真由	多くの学生が満足していただいたことを嬉しく感じました。	良くも悪くも、自己の評価と食い違う点があり、多めに参考になりました。	今後の授業の進め方に、多めに参考になりました。	全てを完成させて授業に挑むより、授業の中で学生と一緒に完成させた方が、より響くのだと感じました。
家政学実習Ⅰ(栄養と調理)	林 真千子	昨年度の結果から、改善策をとったにもかかわらず、今回の評価は、学内平均をやや下回っており、今後の評価向上に努めていきたいと思えます。	授業の内容が実技及び技術の向上に役立ったという点については、学生と自己評価とほぼ同じで高い評価が得られ、うれしく思いました。しかし、昨年度の結果から課題の量を検討したにもかかわらず、提出しない者があり、その結果、課題についての評価も低くなりました。	嫌いなメニューがあったという意見については、今後、特に不評であったものの改善を検討したいと思います。普段、作った事のない料理や、高齢者の食事について詳しく、わかりやすく学べて良かったという意見を多数いただき、うれしく思いました。今後も、学生が満足できるよう、授業をより良いものにしてゆくように努めていきたいと思えます。	課題の問題については、再度検討しなおすことと、提出しない者に対し、何らかの対策を考えるようにしたいと思えます。
家政学実習Ⅱ(被服生活、住生活)	伏木真理子	学生の興味・熱心さ、態度の悪い学生への注意・集中できる環境作り、内容の理解で、学生評価と自己評価が低い値で一致しており、総合的な満足度も低い結果になった。授業が技術や実技の向上に役立った点では、学生評価と自己評価が高い値で一致している。	声の大きさ・聞き取り易さ・速さ、準備・工夫、プリント・視聴覚教材の使い方は改善しているが、丁寧な説明という点で、学生評価と自己評価の隔たりが大きい。	うるさい人を注意して下さい。同じ事を何回も言わないで下さい。何かを作る作業をする前の説明が長くて、イライラした。何をすればいいのかわからなかったり、なかなか先生に聞くことができなかつたりしたので、同じ所で困っている人を1ヶ所に集めて説明するなどしてほしかったです。配布した資料がわかりやすいです。この授業は、先生の教え方も聞きやすく、受けて楽しい授業だと思いました。ぞうりとマーガレットたのしかった。裁ほうの技術が身についたよかったです。(原文のまま)	説明の丁寧さ・質の改善には、学生の自由記述にあがっている、説明の繰り返し、長さといった点に配慮しなければならぬ。同じ作業の人を集めての説明は行っているが、学生が集まってくるのが遅い場合集まった人だけで説明を始めてしまうことがあるので、もう一呼吸待つことも必要である。従来からある楽しいという声だけでなく、技術が身についたという声が出てきたことはよかったと思う。
医学一般Ⅱ	山野雅弘	学生さんからはほぼ学内平均を上回る評価をいただき満足している。板書については 来期も もっと丁寧な文字をかこうとあらためて考えている。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていたので ありがたかった。	私語の学生の怒ってくれたと書いてくれた者がいた。	板書を 丁寧な文字で書くように努めたい。
医学一般Ⅲ	山野雅弘	学生さんからはほぼ学内平均を上回る評価をいただき満足している。板書については 来期も もっと丁寧な文字をかこうとあらためて考えている。	学生評価が全体的に自己評価を上回っていたので ありがたかった。	難しいと思っていた医学が楽しく学べたと複数の者が書いてくれたので今後もそのようにわかりやすい講義をめざしたい。	板書を 丁寧な文字で書くように努めたい。

介護概論Ⅱ	吉井珠代	当該科目は、介護の概念や本質論の講義なので学生には難易度が高い科目であるが、予想通り評価結果は学内平均を下回った。それでも、最高点は「問9.授業に熱意が感じられる」と「問2.丁寧に説明した」であり、学生の理解を促すためイメージが浮かびやすいよう説明をしたことの評価が得られたのかと考える。	必修科目であり、伝えなければならない知識が多いのだが、昨年の学生に比し低い評価になった。概論を講義する事の難しさを痛感する。	「説明がわかりやすく、重要なところは強調して教えてくれる」、「ビデオがいつもわかりやすい」など、好意的な意見が多かった。	クラス内の学力にかなりの差があり、授業の組み立てが難しい。昨年の学生評価との比較においても相対的に点数が低く、授業の内容が理解されていないようである。指定科目であり、伝えなければならない知識であるが、より進度を遅くさせて、わかりやすい説明を工夫しなければならないと思う。
介護技術Ⅰ	吉井珠代	学内平均を上回る評価は「問9.熱意」、「問17.実技・技能の指導」と「問20.技術や実技の向上に役だった」であり、授業のねらいをわずかも達成できたように思う。	当該科目の実技演習には、実習室の設備機器に限りがあるため、全員に体験させようとすると時間配分を綿密に計画しなければならず、毎回配布資料で実技手順を示すなど授業準備を密にして臨んでいるが、実技に関しての学生の満足度が質問項目中最高点であったことでわずかも私の工夫点が伝わって、胸を撫で下ろしている。	「バイタルサインの演習で、運動後の変化が印象的で楽しかった」、「実技手順がわかりやすく興味が増えてよかった」、「利用者体験で介護への関心が強くなった」などの好意的な意見が大半である。前期に比し自由記入用紙に意見や希望を書かない学生は激減した。	多くの学生が学内における介護実習室での実技演習に興味を示してくれているので、今後も実技体験の機会を多くして、技術の向上を図るとともに、学生の学習意欲を高める工夫をしたいと考えている。
形態別介護技術Ⅳ(内部障害の介護)	榊原和子	学生からは予想以上に良い評価を頂いた。特に、授業内容の難易度と理解度の評価については、今後につながる評価を得ることができた。	今回が初めての授業で、講義内容に関連した体験談を話してしまう為、時間が無くなったりしたが、シラバスと学生の興味の高さで予想以上の評価を得ることができ、結果として理解を深めることにつながったと考える。	特にありません。	内容を充分理解してもらえるように、時間配分を考慮する。また、予定していたより演習時間が少なくなってしまったため、今後時間配分に留意する。
形態別介護技術Ⅲ	植北康嗣	全体を通じてこちらの評価と学生の評価に開きがあった。学内の評価平均とも比較しながら改善をしていきたいと思う。	昨年度よりは改善したところも見られたが、大きな変化はないように感じる。	写真やビデオを使用したのがわかりやすかったという意見もあったが、もう少し配布資料を整理してほしいということもあったので、見やすさに工夫をしたい。	この科目は、学習範囲が広く記憶しなければならないことが多い。さらに、介護実習での経験と結びつけながらわかりやすく工夫したい。
形態別介護技術Ⅴ	中家洋子	板書以外は、学内平均より高い評価をいただいた。学生の熱意や興味が授業中の態度からも感じられ、学生にとって満足の高い授業であったことは喜ばしい。	はじめて担当する教科であり昨年との比較ができない。	全員の学生から感想や意見をいただいた。「興味深く楽しく授業を受けることができた」「疾患の復習もあり分かりやすかった」「ケアの理解につながった」と授業内容の理解に繋がったことは嬉しい。	「認知症」「精神疾患」「知的障害」を持つ利用者の理解と支援が授業の目標であるが、次年度より各項目により多くの時間を使うことができる。演習なども取り入れた授業を構成したい。
介護実習指導Ⅰ	石川肇	3名の教員の分担で授業を行い、それ以外にも個別指導をするという授業であったので、評価にばらつきが出るのは仕方がないと思う。	実習という具体的内容をイメージしにくかったという評価ではないが、昨年より具体例をたくさん提示したが、それでも不十分で有ったのかもしれない。	学生が実習に不安や期待を持っていることが十分理解できた	実習につながる授業であり、できるだけ先輩の実習の様子を伝えながら実習をイメージしやすい様に工夫したい
介護実習指導Ⅰ	中家洋子	施設実習に向けて、モチベーションを高めていく授業であるが、入学直後の学生にとっては、流れも理解しにくい科目となっている。服装や挨拶、身だしなみなどの礼儀作法も厳しく注意するため、根拠をしっかりと伝え理解を求める授業の工夫が必要であると感ずる。	ゼミ形式を取り入れ教員3名で授業を構成するために、全体の流れがつかみにくい点や他科との授業の総合で評価する必要があり、授業の構成から工夫が必要と考える。	実習に向けての思いや不安を知ることができ、今後の授業の参考になった。	次年度は担当しないが、段階別の実習の目標を掲げたり、実習へ向けての注意事項の確認など、グループワークを取り入れ、相互の力が発揮できるようにすると現場実習に繋がる授業になると考える。

介護実習指導Ⅰ	石川・山戸・中家	実習指導には多くの時間をかけて励んできましたが、まだ十分には介護実習について私の理解も浅く、学生の益になる授業が提供できているとは言い難いと思います。	6人で実施していた昨年より、評価が下がると予想していたが、それほど変化はなかったです。総合力は落ちたが、6人で担当するより、連携は取りやすかったように思います。	好意的な記述が多く、励まされました。記述内容では、やさしく、わかりやすい説明であったというものが、多かったです。	来年度からは実習指導が一人での担当となる。連絡事項をきっちり伝える、早め早めに学生の不安に対処するなどの点に注意していきたいです。
介護実習指導Ⅱ	榊原和子・吉井珠代・植北康嗣	全体的に平均的な満足度であった。こちらの熱意は伝わっているようだったので、さらに興味関心が引き出せるような工夫をしたい。	昨年度未開講。	3名の教員でかかわるため、事務処理や実習施設とのやり取りの中で多少のずれがあり、学生に戸惑いもあったのではと感じた。	Ⅲ段階実習に向かう導入・準備としては、昨年の実習指導より改善されたと思う。また、ケースレポート発表会は卒業を控えた学生の自身につながったので、次年度以降も続けたい。
介護実習指導Ⅱ	榊原和子	この科目は実習と直結しているため、学生の授業に取り組む姿勢も積極的であり、理解が不十分な学生に対して個別指導を行ったことが、今回の評価につながったと考える。	今回が初めての授業です。	特にありません。	定められている授業回数では充分といえず、講義内容を精選する。
介護実習指導Ⅱ	吉井珠代	全般的に学内平均を上回る結果が得られた。当該科目は、介護実習と直結しており、後期は実習の全期間が終了し総括の時期にあたり、学生の意欲も高まり積極的であった。教員も事例研究には個別指導を密に行なったため今回の評価につながったと思われる。	介護実習(指導)は積み上げの科目であり、学生は実習経験を重ねるごとに学内における授業内容の理解度も増し、相乗効果が得られているものと考ええる。	「介護事例研究は大変だったが、出来上がって満足している」と答えてくれていて、学生に達成感をもたせることができたとある。	介護実習の成果を高め、学生に満足感を与えるため、担当教員の個別指導を充実させることが求められる。教員間の打ち合わせを頻回にもち、さらに充実させていきたい。
介護福祉演習	中家洋子	学生の評価にばらつきがみられ、全体的に学内平均より下回る結果であった。実習へ向けての技術の確認や学生の主体性が育つことを考えた授業の構成であり、学生の意欲をどう高めるかが課題となると感じる。	昨年まで、2名で担当した科目であり、演習、技術指導とも個々の学生に十分目が行きとどかなかつたと反省している。主体的に授業参加をする「考える介護」を目指しているが、噛み砕いて示さなければ、授業の目的が十分つかめず何をしたらよいのか分からなかったのではないかと反省している。	「実習前に介護技術の復習をしたい」「個別対応してほしい」等の授業に関する希望が書かれており、今後の授業構成に活かしたい。	次年度から科目名の変更に伴い、内容も分散される予定である。
卒業研究	石川肇	講義を主に展開するのではなく、自主的な文献調べと論述が主な内容であったので、授業アンケートの内容では結果を理解しにくい。	初めての担当で比較できない	他の授業でも論述しなければならない時期と研究成果物を仕上げる時期が重なったので大変な苦勞をかえる結果となったことがよくわかる	できるだけ個別対応の時間を多くとり、自分の興味関心有るテーマを広く展開できるように支援していきたい
卒業研究	榊原和子	研究のプムセスは、一般的に概論から講義を始めて各論(実際)という過程をたどります。15回でこの全てを完成させたということは、学生も一応の満足を得て、卒業後の手ごたえを感じたように考える。	今回が初めての授業です。	特にありません。	限られた時間内で解かりやすく理解しやすい授業を心がけるため、資料等の配布を活用する。
卒業研究	山戸隆也	はじめての卒業研究であるが、一定の学生からはよい評価を頂きました。しかし、まだまだ研究指導の方法は、わかりやすく提示していく必要を感じます。	学生に対しての課題を「いつまでに」「どの程度のもの」「どういった内容で」提出するのか、といった基本的な伝達事項については次回からもっと正確に学生に提示したいと思えます。	興味をもって研究を進めていた学生からは、良い機会であったというコメントが多かったです。最後まで研究のしかたがよくわからなかった学生に対しては、申し訳なかったと思います。	研究のすすめかたについて、わからない点をよく説明していく丁寧さが必要であり、関連する配布プリントの改善も行いたいです。

手話	荻野佐代子	全項目で学内平均を上回る評価を得たことから、「手話」を楽しく習得してもらえたと思われました。	今年度より開講。	回を重ねる毎にこちらの思いに応えてくれる意欲的な授業態度になり、それが自由記述にも表れていました。	「手話は難しい」という先入観から始まる授業のため少しでも早く、楽しさや魅力を感じ取れる授業内容を工夫し、手話実技と共に聴覚障害者の理解を深める授業につなげていきたいと思えます。
----	-------	------------------------------------------------	----------	---------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------

「学生による授業アンケート調査」実施要領

平成 20 年度も昨年に引き続き、先生方の担当授業ご研鑽の一助としていただくことを目的として、学生による授業アンケート調査を実施いたします。

本調査の実施は各授業担当者をお願いしております。実施に際しましては、下記の手順に従ってご進行下さいますようお願い申し上げます。

調査用紙（調査票とマークシート用紙）の確認

1. 調査票とマークシート用紙、学生用自由記述用紙を同封した封筒の表紙に記載されている授業科目名と担当者名をご確認下さい。
2. 表紙に記載の赤の三桁の番号は授業科目と担当者を示す識別番号となっております。

実施手順

1. 調査時間は 20 分程度を予定しておりますが、時間に余裕をもって開始して下さい。
2. 設問項目は調査票に示した通りです。それぞれの設問に対する回答は、マークシート用紙に鉛筆で黒くマークさせて下さい。
3. 授業評価に先立ってまず授業科目欄（番号欄）に、授業科目と担当者を示す識別番号（封筒の表紙に記載の赤の三桁の番号）をマークさせて下さい。次いで学年（年欄）、所属学科（クラス欄）、出席回数（D 欄）をマークさせて下さい。
4. 授業評価項目は問 1～問 20 で構成されています。講義・演習科目は問 1～問 16 まで、実技・実習科目については問 1～問 20 までとなっています。それぞれについて 5 段階評価の該当する数字にマークするようにご指示下さい。
5. 引き続き同封の「自由記述用紙」に、授業に対する要望などを自由に記載させて下さい。

調査終了後の取り扱い

1. 調査終了後、学生を指名して調査票とマークシート用紙を回収させて下さい。その後学生自身により調査票とマークシート用紙を元の封筒に収納させ、テープでしっかりと密封をさせて下さい。自由記述用紙は別に回収させ、先生御自身でお受け取り下さい。回収にあたっては、できるだけ学生個人が特定できないようにご配慮下さい。
2. 封筒を学生から受け取り、授業終了後直ちに別添えの先生ご自身が回答された「**授業の自己点検評価用紙**」と共に事務局の担当者までお届け下さい。
3. 学生に自由記述を求めた「自由記述用紙」は別の封筒に収納し、先生御自身でお持ち帰り下さい。後日、「自己点検評価報告書」をご提出下さる際のご参考として下さい。

集計結果のお知らせと「自己点検評価報告書」（ご意見）ご提出のお願い

1. 集計結果は、先生にご提出頂いた自己点検評価用紙を添えて 9 月上旬に先生方まで個別にメールボックス（専任教員）、または郵送（非常勤講師）にてお届け致します。
2. 同封の報告書に集計結果の分析、問題点の所在、改善策など先生のご意見をご記載の上、郵送、または FD にて 9 月末日までに表記宛ご提出下さい。

教員による授業の自己点検評価票

昨年度から学生による授業評価に並行して「担当教員による授業の自己点検評価」を実施させて頂くことになりました。ご多用中誠に恐縮ではございますが、下記項目にご記入の上ご担当科目についての「学生による授業アンケート調査」実施終了後、**回収用紙の入った封筒と共に**ご提出下さいますようお願い申し上げます。

※一授業科目について1部ご提出ください。

※複数担当者によるオムニバス形式の授業につきましてはその中の代表者をご記入下さい。

ご記入日	2007年 月 日 () 時限		
授業担当者			
授業科目名	科目コード	3桁のコード()	
総受講生数とご担当コマ数	() 名	()	コマ

「マークシート」は、次の要領で記入してください。※回答はマークシート用紙に鉛筆で黒くマークして下さい。

				記入事項																					
記入不要	記入不要	科目コード	記入不要	評価：5. ～1. までの評点をマークしてください。																					
年	クラス	番号	D	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	・	・
1	1 1	1 1 1	1 1 1 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	・	・
2	2 2	2 2 2	2 2 2 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	・	・
3	3 3	3 3 3	3 3 3 3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	・	・

評価は次の5段階でおこないます。問1～問16、および問17～問20（実技、実習科目のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

評点 5. そう思う。	4. どちらかといえばそう思う。	3. どちらでもない。
2. どちらかといえばそうは思わない。		1. そうは思わない。

- 問1 授業では大きな声で聞き取り易い速さで話すように心がけた。
- 問2 学生が授業内容を良く理解できるように丁寧に説明した。
- 問3 授業はシラバスに示された目標や内容に沿って行った。
- 問4 授業には十分な準備と工夫をして臨んだ。
- 問5 授業の難易度のレベルは適切であったと思う。
- 問6 授業の進行速度は適切であったと思う。
- 問7 テキストやプリント、視聴覚教材の使い方は適切であった。
- 問8 板書は適切であったと思う。
- 問9 授業は熱意をこめて真剣に行った。
- 問10 学生の質問や発言に適切に対応した。
- 問11 授業態度の悪い学生に注意し、授業に集中できる静かな環境をつくる努力をした。
- 問12 学生は授業に興味をもって熱心に取り組んでくれた。
- 問13 学生は授業の内容を良く理解することができたと思う。
- 問14 学生は授業により新しい知識や考え方、必要な技能を習得し、授業内容に対する関心を高めてくれたと思う。
- 問15 この授業の教室の大きさや設備（視聴覚機器や教材など）は適切であった。
- 問16 学生は総合的にみてこの授業を受けて満足していると思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

《問17～問20は実技や実習科目のみご回答下さい》

- 問17 授業中の技能や実技の指導は適切であったと思う。
- 問18 この授業で課した課題の量は適切であったと思う。
- 問19 学生が与えられた課題に取り組む時間は充分にあったと思う。
- 問20 授業の内容は技術や実技の向上に役立ったと思う。

5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

教員による自己点検報告書（ご意見）

—学生の授業評価より—

ご提出日 平成 年 月 日

授業担当者名（ ）

授業科目名（ ）

1. 学生による授業評価の集計結果について。
2. 教員による自己点検評価と学生による授業評価について—昨年度の結果と比較して—（分析と問題点）。
3. 学生からの「自由記述」について、ご意見があればご記載下さい。
4. 2と3の結果より、今後の改善策について。

授業評価報告書

－よりよい授業への改善をめざして－ 2008

©2009年10月発行

編集 四條畷学園短期大学 FD 委員会
FD 委員長 石村哲代
FD 委員 井上泰子 石川肇 奥田純
鍛冶谷静 北村瑞穂 大野麻子

発行 四條畷学園短期大学
〒574-0001
大阪府大東市学園町 6-45
Tel : 072-876-1321

表紙デザイン 北村瑞穂

**Edited by Shijonawate Gakuen Junior College
FD Committee**

Gakuen-cho, Daito-shi, Osaka 574-0001 Japan